

科目名	人文科学1	学年	1 年 16 期生
担当者	下川 はるみ	期 別	後期
単位数	2 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任
実務経験	九州大谷短期大学教授		

一般目標(GIO)

柔道整復師として医学の場に立つ者の言葉と心について
患者と話しができ、心を理解する能力を身に付ける。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	9	30	2	医学用語の知識1	医学用語を読み説明する。
2	10	7	2	医学用語の知識2	医学用語を読み説明する。
3	10	21	2	医学用語の知識3	医学用語を読み説明する。
4	11	11	2	履歴書の書き方(初級)	自己を見つめエントリーシートに表現する。
5	11	18	2	履歴書の書き方(中級)	エントリーシートの書き方を工夫する。
6	11	25	2	時の移り変わり	項目別に世相を調べる。
7	12	2	2	時事問題を解く	新聞の読み方を説明する。1(着眼点)
8	12	9	2	読解力の訓練	新聞の読み方を説明する。2
9	12	16	2	読解力の訓練1	感想文を記述する。(初級の文)
10	12	23	2	読解力の訓練2	感想文を記述する。(中級の文)
11	1	6	2	読解力の訓練3	患者との対話で使用する言葉を予測する。
12	1	20	2	レポートの書き方	初級。言語能力・手法を分類し使用する。
13	1	27	2	論文の書き方	ことば、形式、表現方法を評価する。
14	2	3	1	表現力	論文の言葉の良否を判断する。
15	2	3	2	まとめ	本講義をまとめ、評価する。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	70%	配布プリント	
平常点・小テスト・課題	30%		
	%		
	%		

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	人文科学2	学年	2年15期生
担当者	下川 はるみ	期別	前期
単位数	2単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間・15回	専任・兼任	兼任
実務経験	九州大谷短期大学教授		

一般目標(GIO)

柔道整復師として医学の場に立つ者として、世間に向いて患者に向けての対応を身に付ける。
(話をし、心を思いやる)

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	8	2	医学用語の基礎知識1	読み方と簡単な意味を説明する。①
2	4	15	2	医学用語の基礎知識2	読み方と簡単な意味を説明する。②
3	4	22	2	医学用語の基礎知識3	読み方と簡単な意味を説明する。③
4	5	13	2	履歴書の書き方	エントリーシートの書き方を工夫する。
5	5	20	2	時事問題を読む①	新聞、雑誌を読み理解し述べる。①
6	5	27	2	時事問題を読む②	新聞、雑誌を読み理解し述べる。②
7	6	3	2	読解力の訓練1(上級)	小論文を書く練習。「言葉」を応用する。
8	6	10	2	読解力の訓練2(上級)	小論文を書く練習。「形式・内容」を応用する。
9	6	17	2	読解力の訓練3(上級)	小論文を書く練習。他人の文を理解し評価する。
10	6	24	2	想像力の発展	患者との対話、心のケアについて述べる。
11	7	1	2	日本語力の見直し	自分の文章と他人の文章を比較する。
12	7	8	2	レポートの書き方	調査・研究しさらに高度なレポートを作成を実施する。
13	7	22	2	論文の書き方	小論文、使用禁止用語を説明する。
14	7	29	2	表現力の発展	読書により言葉・表現法を工夫する。
15	8	5	2	まとめ	本講義をまとめ、評価する。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	70%	配布プリント	
平常点・小テスト・出席	30%		
	%		
	%		

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	自然科学 1	学 年	1 年 16 期生
担 当 者	石橋 一成	期 別	前期
単 位 数	2 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任
実務経験	福岡歯科大学口腔生化学講座の教員として39年間教育・研究に携わる。		

一般目標 (GIO)

ここで学ぶ自然科学は生物学と化学を基本とした学問分野である。柔道整復学の基礎をつくる解剖学、生理学などの分野は生物学と化学の知識と応用の延長に展開している。故に、現在の柔道整復師には生命科学の知識に基づいて、原子・分子の構造から始まり、細胞に関する知識を踏まえたうえで、人間の体の成り立ち、仕組み、働きなどを理解することが求められている。そこで、生命とは何か、地球上の生命は如何にして誕生したのかを理解したうえで、生命を作る細胞の成り立ちと活動、生命が連続するメカニズム、そして生命が環境の変化に合わせて生活する仕組みについて認識を深める。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	11	3	イントロダクション 原子の構造	「物質」を分類し、その構造を述べることができる
2	4	18	3	元素と周期表	元素の周期表を理解し、重要元素の特徴を列記できる
3	4	25	3	化学結合	主要な化学結合を項目立てて説明できる
4	5	2	3	化学反応 酸・塩基 酸化還元	種々の化学反応式を解釈することができる
5	5	9	3	生体高分子 糖質・脂質・タンパク質	人体を構成する水分・糖質について説明できる
6	5	16	3	細胞の構造	生物学の重要概念の一つである「細胞」を説明できる
7	5	23	3	細胞の働き	生命をつくる細胞の成り立ちと活動を列挙できる
8	5	30	3	物質代謝 酵素・代謝経路	細胞内外でおこる化学反応を総括できる
9	6	6	3	骨形成 結合組織	生体を形成する骨と結合組織の特性を列記できる
10	6	13	3	生殖・発生	生命が連続する仕組みについて説明できる
11	6	20	3	遺伝の仕組み メンデル遺伝	遺伝学の基礎を現実の問題として解釈できる
12	6	27	3	遺伝子の本体 分子遺伝	遺伝子の本体DNAやRNAの働きについて列挙できる
13	7	4	3	発癌・老化	発癌の仕組みと老化のメカニズムを述べることができる
14	7	11	3	生体防御	微生物の侵襲に対して防御する仕組みを説明できる
15	7	18	3	環境学概論	地球環境に及ぼす化学物質の影響を説明できる
評価基準				教科書	参考書
筆記試験	90%			特に指定なし	特に指定なし
平常点	10%				
	%				
	%				

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

4限目 (14:20~15:50)

科目名	自然科学2	学年	1 年 16 期生
担当者	川口 稔	期 別	後期
単位数	2 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任

実務経験

一般目標 (GIO)

日常生活のさまざまな場面で物理現象が利用されている。本授業では、身近な物理現象を通じて基本的な物理学の考え方を理解する。これらの基礎知識を体系的に理解することで、豊かな教養と人間性を体得するとともに主体的な問題解決能力を身につける。そして医療に関わる専門的な知識や技術を学ぶ上で必要となる物理学的知識を論理的に分析・考察する科学的思考力を習得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	10	3	3	単位とは何か	基本単位を説明できる。組立単位を説明できる。
2	10	10	3	速さと速度の違い	スカラー量とベクトル量を説明できる。加速度を説明できる。
3	10	17	3	重力とは何か	物体の落下運動を説明できる。重力加速度を説明できる。
4	10	24	3	痛くない絆創膏の剥がし方	力の分解と釣り合いを説明できる。
5	10	31	3	強さはどう表すか	物質の強さを説明できる。強さの種類を説明できる。
6	11	7	3	ヒトとキリンの血圧は違うか	圧力の単位を説明できる。流体の運動を説明できる。
7	11	14	3	力学的エネルギーとは何か	運動エネルギーと位置エネルギーを説明できる。
8	11	21	3	電気コードの中を流れるもの	電荷と電流の関係を説明できる。静電気力を説明できる。
9	11	28	3	ICカードはなぜ記録できる	電磁誘導現象を説明できる。
10	12	5	3	鍋の取っ手はなぜ熱くならない	熱量を説明できる。熱伝導と熱膨張を説明できる。
11	12	12	3	レーザー光は目視できるか	可視光線を説明できる。レーザーの原理を説明できる。
12	12	19	3	放射能と放射線のちがいは	放射線の種類を説明できる。核分裂反応を説明できる。
13	12	26	3	金属の話	金属の特徴を説明できる。
14	1	9	3	カルシウムはどこにある。	カルシウムと生物・環境の関わりを説明できる。
15	1	16	3	生命の元素リン	リンと生物・環境の関わりを説明できる。

評価基準

教科書

参考書

出席	25%	指定しない。各回で資料プリントを配布する。	
定期試験	75%		
	%		
	%		

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

4限目 (14:20~15:50)

科目名	外国語	学年	1 年 16 期生
担当者	古賀 邦子	期 別	前期
単位数	2 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任

実務経験

九州医療専門学校にて28年間の指導経験有り

一般目標 (GIO)

医療人として患者とのコミュニケーションをはがるための英語力
 専門用語の習得

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	11	2	Self introduction	The way to communicate in English
2	4	18	2	The part of the body/listening	Medical terms
3	4	25	2	The part of the body/writing	Dictation 1 Medical terms
4	5	9	2	First AID/ Listening	Talking about First AID/ Medical terms
5	5	16	2	Medical Emergencies and Illnesses	Dictation 2 Takng about Medical terms
6	5	23	2	Review	Dictation 3 work book
7	5	30	2	Medical Exam	Dictation 4 Talkng about medical exam
8	6	6	2	Medical procedures	Dictation 5 Talking about medical procedures
9	6	13	2	Instructions to patients	Dictation 6 Medical terms
10	6	20	2	Instructions to patients	Dictation 7 Medical terms
11	6	27	2	Medical advice	Dictation 8 Medical sentences
12	7	4	2	Group work	Making medical terms and sentences in group
13	7	11	2	review	Speaking Check sheet's sentences and terms
14	7	8	2	Dictation check and speaking test	Individual test
15	7	25	2	Review	Preparation for Exam

評価基準

教科書

参考書

Dictation	20%		Word by Word Second edition 看護・医療スタッフの英語
Medical sentences and terms test	20%		
Exam	60%		
	%		

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

4限目 (14:20~15:50)

科目名	コミュニケーション論	学年	2年15期生
担当者	横溝 彰彦	期別	前期
単位数	2単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間・15回	専任・兼任	兼任

実務経験

高校での教員歴10年、高専での教員歴9年

一般目標(GIO)

自分のコミュニケーションの特徴を知ることができる。
 コミュニケーション学や関連領域の理論をもとに、他者や社会との関わりを学ぶ。
 与えられたテーマについて調べた成果を発表し、情報収集能力やプレゼン能力を向上させる。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	16	3	アイデンティティ	自分のアイデンティティを意識しながら自己紹介できる。
2	4	23	3	言語コミュニケーション(1)	言葉を介して、正確な情報伝達を行うことができる。
3	5	7	3	言語コミュニケーション(2)	言葉を介して、効果的な情報伝達を行うことができる。
4	5	14	3	非言語コミュニケーション	非言語コミュニケーションを使用して、効果的な情報伝達を補うことができる。
5	5	21	3	グループでのコミュニケーション	話し合いに参加する際に、グループ内での役割を意識することができる。
6	5	28	3	男女のコミュニケーション	周囲の人と関わる際に、男女のコミュニケーションの特徴を意識することができる。
7	6	4	3	ジェンダー	社会的に構築される性を理解して、自分の性のあり方を振り返ることができる。
8	6	11	3	差別	固定観念や偏見、差別の違いを理解して、自分の言動や行動を振り返ることができる。
9	6	18	3	ヘルスコミュニケーション、障がい	医療や介護の場面や障がいについて学び、患者へのまなざしを認識することができる。
10	6	25	3	マスメディア	マスメディアによって意味が構築されるプロセスを学び、自分とマスメディアとの関わりを振り返ることができる。
11	7	2	3	発表1	情報収集を行って意見をまとめ、口頭で報告できる。
12	7	9	3	発表2	情報収集を行って意見をまとめ、口頭で報告できる。
13	7	16	3	発表3	情報収集を行って意見をまとめ、口頭で報告できる。
14	7	23	3	発表4	情報収集を行って意見をまとめ、口頭で報告できる。
15	7	30	3	コミュニケーション	コミュニケーションの性質について意識することができる。

評価基準

教科書

参考書

小テスト	50%	なし	なし
発表	20%		
発表の反省レポート	20%		
授業の振り返りレポート	10%		

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	社会科学	学年	2 年 15 期生
担当者	濱田 信之	期 別	後期
単位数	2 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間・15回	専任・兼任	兼任

実務経験

一般目標 (GIO)

ヒトが集団生活を営む都市の出現(社会の誕生)と感染症の流行は密接な関係がある。つまりペストの大流行などを経て微生物学が確立され、まず予防のための「法」が制定され、社会に必要な種々の法律が誕生した。この微生物の具体的な特徴とその病気を理解し、その個人レベルの予防対策や国家レベルの対策としての感染症法の詳細を身につける。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	10	2	1	微生物学とは	感染症という疾患の理解のため、微生物の自然発生説の否定とコッホの条件が前提であることを説明できる。
2	10	9	1	感染と発症	感染成立の要件と種々の感染様式並びに夫々の疾患名を説明できる。
3	10	16	1	感染と免疫	免疫現象を各免疫細胞の働きと共に具体的に説明し、その反応過剰の現象としてのアレルギーや自己免疫疾患を説明できる。
4	10	23	1	細菌の特徴	細菌はグラム染色や丸か四角かの形態で分類されることやその病原性の機構を説明できる。
5	10	30	1	細菌各論1	グラム染色で陽性を示す代表的な細菌(黄色ブドウ球菌、破傷風菌等)の起こす病気の概要を説明できる。
6	11	6	1	細菌各論2	グラム染色で陰性を示す代表的な細菌(サルモネラ菌、腸炎ビブリオ、ピロリ菌)などが起こす病気の概要を説明できる。
7	11	13	1	その他の細菌の病原性	性感染症(梅毒等)、ワクチン関連(インフルエンザ菌等)及び結核菌並びにリケッチアやクラミジアの病原性の概略を説明できる。
8	11	20	1	ウイルスの特徴	ウイルスの基本構造及び分類とその病気の特徴を説明できる。
9	11	27	1	ウイルス各論1	主なDNAウイルス(ヘルペス、アデノ、パピローマ)による病気の特徴を説明できる。
10	12	4	1	ウイルス各論2	主なRNAウイルス(インフルエンザ、風疹、麻疹、ノロ、肝炎)による病気の特徴を説明できる。
11	12	11	1	ウイルス各論3	媒介昆虫が必要(デング等)、免疫担当細胞が攻撃対象となる(ヒト免疫不全等)などの病気の概要を説明する事ができる。
12	12	18	1	その他の病原体	プリオン病などを解説できる。またカビや寄生虫の引き起こす病気を説明する事ができる。
13	12	25	1	感染症の治療と予防	微生物や寄生虫を殺す薬とそれらの作用、副作用などを解説できる。ワクチンの概要が説明できる。
14	1	8	1	新興感染症など	わが国には存在しないマラリア、狂犬病、エボラ出血熱などの概要が説明できる。
15	1	15	1	感染症対策	消毒法の基本を説明でき、国家対策としての感染症法の組み立てや内容の詳細を説明できる。

評価基準

教科書

参考書

筆記試験	90%	コンパクト微生物学第5版(南江堂)	病気が見える6免疫・膠原病・感染症(MEDIC MEDIA)
出席	10%		
	%		
	%		

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	解剖学1	学年	1 年 15 期生
担当者	久木田 敏夫	期 別	前期
単位数	1 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任
実務経験	歯学博士取得、九州大学勤務、九州大学名誉教授、九州大学非常勤講師		

一般目標 (GIO)

解剖学は医療にたずさわるものに取り、非常に重要な基礎学問である事を理解する。
 解剖学を学ぶことにより、人体の肉眼解剖学的及び組織学的、更には細胞学的知識が理解できる。
 特に、運動系である骨と筋について詳細に解説ができる。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	23	2	人体解剖学概説	解剖学の意義と基本的解剖学用語を説明できる。
2	5	7	2	人体解剖学概説	細胞増殖の仕組みを説明できる。
3	5	14	2	人体解剖学概説	組織の分類と特性及び発生を説明できる。
4	5	17	4	人体解剖学概説	人体の区分を説明できる。
5	5	21	2	骨格系	骨の構造と機能を説明できる。
6	5	28	2	骨格系	関節の種類を説明できる。
7	6	4	2	骨格系	脊柱の構造と構成する骨を説明できる。
8	6	11	2	骨格系	胸郭を構成する骨を説明できる。
9	6	18	2	骨格系	上肢帯と上肢を説明できる。
10	6	25	2	骨格系	骨盤について説明できる。
11	7	2	2	骨格系	下肢の骨について説明できる。
12	7	9	2	骨格系	頭蓋骨・顔面頭蓋を説明できる。
13	7	16	2	骨格系	脳頭蓋について説明できる。
14	7	23	2	骨格系	内頭蓋底・眼窩を説明できる。
15	7	30	2	筋系	筋概論について説明できる。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	解剖学(医師薬出版株式会社)	解剖学講義第2版(伊藤 隆著、高野 廣子 改訂)(南山堂) グレイ解剖学(塩田浩平等訳)(エルセビア・ジャパン) ムーア臨床解剖学(坂井建雄監訳)(メディカル・サイエンス・インターナショナル)
	%		
	%		
	%		

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

4限目 (14:20~15:50)

科目名	解剖学2	学年	1 年 16 期生
担当者	久木田 敏夫	期 別	後期
単位数	1 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任
実務経験	歯学博士取得、九州大学勤務、九州大学名誉教授、九州大学非常勤講師		

一般目標 (GIO)

解剖学は医療にたずさわるものに取り、非常に重要な基礎学問である事を理解する。
 解剖学を学ぶことにより、人体の肉眼解剖学的及び組織学的、更には細胞学的知識が理解できる。
 特に、運動系である骨と筋について、又脈管系について詳細に解説ができる。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	10	1	2	筋系	頭頸部の筋について説明できる。
2	10	8	2	筋系	胸部の筋について説明できる。
3	10	15	2	筋系	腹部の筋について説明できる。
4	10	22	2	筋系	背部の機について説明できる。
5	10	29	2	筋系	上腕部の筋について説明できる。
6	11	5	2	筋系	前腕部及び手の筋について説明できる。
7	11	12	2	筋系	内寛骨筋・外寛骨筋について説明できる。
8	11	19	2	筋系	大腿部の筋について説明できる。
9	11	26	2	筋系	下腿部及び足の筋について説明できる。
10	12	3	2	脈管系	循環器概論について説明できる。
11	12	10	2	脈管系	心臓の構造について説明できる。
12	12	17	2	脈管系	心臓の制御について説明できる。
13	12	24	2	脈管系	動脈について説明できる。
14	1	14	2	脈管系	静脈について説明できる。
15	1	c	2	脈管系	リンパについて説明できる。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	解剖学(医師薬出版株式会社)	解剖学講義第2版(伊藤 隆著、高野 廣子 改訂)(南山堂) グレイ解剖学(塩田浩平等訳)(エルセビア・ジャパン) ムーア臨床解剖学(坂井建雄監訳)(メディカル・サイエンス・インターナショナル)
	%		
	%		
	%		

科目名	解剖学3	学年	1 年 16 期生
担当者	太田啓介、木戸田朋子	期 別	前期
単 位 数	1 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任
実務経験			

一般目標 (GIO)

--	--	--	--	--	--

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	12	1	消化器概論, 口概論	消化器全体の概略を説明する。口の構造の基本を説明できる。
2	4	19	1	口各論(口腔, 歯, 舌), 咽頭	口と咽頭の構造の詳細を説明できる。
3	5	10	1	食道, 胃	食道と胃, 構造の詳細を説明できる。
4	5	17	1	小腸(十二指腸, 空腸, 回腸)	小腸の構造の詳細を説明できる。
5	5	24	1	大腸(盲腸~肛門)	大腸の構造の詳細を説明できる。
6	5	31	1	肝臓と胆嚢	肝臓と胆嚢の詳細を説明できる。
7	6	7	1	膵臓と腹膜	膵臓と腹膜の詳細を説明できる。
8	6	14	1	呼吸器概論 外鼻	呼吸器全体の概略を説明する。外鼻の構造の基本を説明できる。
9	6	21	1	咽頭と喉頭, 気管と気管支	咽頭と喉頭, 気管と気管支の構造の基本を説明できる。
10	6	28	1	肺, 胸膜, 縦隔	肺, 胸膜, 縦隔の構造の詳細を説明できる
11	7	5	1	泌尿器概論 腎臓概論	泌尿器全体の概略を説明する。腎臓の構造の基本を説明できる。
12	7	12	1	腎臓各論	腎臓の構造の詳細を説明できる。
13	7	19	1	尿管, 膀胱, 尿道	尿管, 膀胱, 尿道の構造の詳細を説明できる。
14	7	26	1	男性生殖器	男性生殖器の構造の詳細を説明する。
15	7	31	1	女性生殖器	女性生殖器の構造の詳細を説明できる。

評価基準		教科書	参考書
	%	全国柔道整復学校協会監修教科書解剖学第2版 (医歯薬出版)	
	%		
	%		
	%		

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

4限目 (14:20~15:50)

科目名	解剖学4	学年	1 年 16 期生
担当者	太田啓介、木戸田朋子	期 別	後期
単 位 数	1 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任
実務経験			

一般目標 (GIO)

--	--	--	--	--	--

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	10	4	1	体表解剖学1 (骨格系, 筋系)	体表より触れられる骨格, 筋を説明できる。
2	10	11	1	体表解剖学2 (脈管, 神経系)	体表より触れられる脈管, 神経系を説明できる。
3	10	18	1	内分泌系1 (内分泌概論2、下垂体-上皮小体)	内分泌系全体の概略を説明できる。下垂体-上皮小体の構造が説明できる。
4	11	1	1	内分泌系2 (副腎-卵巣)	副腎、卵巣等の構造の詳細を説明できる。
5	11	8	1	神経系1 (概論)	神経系全体の概略を説明できる。
6	11	15	1	神経系2 (脳)	脳の構造の詳細を説明できる。
7	11	29	1	神経系3 (脊髄, 伝導路)	脊髄と伝導路の構造の詳細を説明できる。
8	12	6	1	神経系4 (末梢神経: 脊髄神経)	脊髄神経の構造の詳細を説明できる。
9	12	13	1	神経系4 (末梢神経: 脳神経)	脳神経の構造の詳細を説明できる。
10	12	20	1	体表解剖3 (生体計測)	生体計測が説明できる。
11	12	27	1	運動器系まとめ	骨格, 筋, 神経を総合的に説明できる。
12	1	10	1	感覚器系1 (皮膚)	皮膚の構造の詳細を説明できる。
13	1	17	1	感覚器系2 (視覚器)	視覚器の構造の詳細を説明できる。
14	1	24	1	感覚器系3 (嗅覚器, 味覚器)	嗅覚器と味覚器の構造の詳細を説明できる。
15	1	31	1	感覚器系4 (平衡聴覚器)	平衡聴覚器の構造の詳細を説明できる。

評価基準		教科書	参考書
	%	全国柔道整復学校協会監修教科書解剖学第2版 (医歯薬出版)	
	%		
	%		
	%		

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

4限目 (14:20~15:50)

科目名	解剖学 5		学年	2年 15 期生	
担当者	徳安琢磨		期別	前期	
単位数	1 単位		講義・実習	座学	
時間数・授業回数	30時間 15回		専任・兼任	専任	
実務経験	接骨院・機能訓練業務6年・専任教員6年				
一般目標 (GIO)					
本科目は解剖学1の単位を履修した者を対象として骨学を中心に学ぶ					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	16	4	骨の総論 I	骨の役割を理解できる
2	4	23	4	骨の総論 II	骨を形状によって分類することができる
3	5	7	4	骨総論 III	骨の構造を理解できる
4	5	14	4	骨総論 IV	骨の発生と成長を理解できる
5	5	21	4	骨総論 V	骨表面の形状についての用語を理解できる
6	5	28	4	骨総論 VI	骨の連結を理解できる
7	6	4	4	骨各論 I	脊柱の構造を理解できる
8	6	11	4	骨各論 II	脊柱の連結を理解できる
9	6	18	4	骨各論 III	頭蓋の構造を理解できる
10	6	25	4	骨各論 IV	胸郭の構造を理解できる
11	7	2	4	骨各論 V	上肢骨の構造を理解できる
12	7	9	4	骨各論 VI	上肢の関節を理解できる
13	7	16	4	骨各論 VII	下肢骨の構造を理解できる
14	7	23	4	骨各論 VIII	下肢の関節を理解できる
15	7	30	4	骨各論 IX	指骨の構造を理解できる
評価基準			教科書		参考書
期末試験		100%	医歯薬出版 解剖学		プロメテウス解剖学
		%			グレイ解剖学
		%			他
		%			

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

科目名	解剖学 6		学年	3年 14期生	
担当者	樋口大夢		期別	後期	
単位数	1単位		講義・実習	座学	
時間数・授業回数	30時間 15回		専任・兼任	専任	
実務経験	接筋院・機能訓練業務6年・専任教員6年				
一般目標 (GIO)					
本科目は解剖学2の単位を履修した者を対象として筋学を中心に学ぶ					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	9	27	2	筋総論 I	筋の形態と起始部、停止部を理解して説明することができる
2	10	4	2	筋総論 II	筋の作用を理解し、説明することができる
3	10	11	2	筋総論 III	筋の神経、構造を理解して説明することができる
4	10	18	2	筋総論 IV	筋の発生と成長を理解できる
5	11	1	2	筋総論 V	筋の補助装置の構造を理解して説明することができる
6	11	8	2	筋各論 I	頭部の筋について詳細を理解し説明することができる
7	11	15	2	筋各論 II	頸部の筋について詳細を理解し説明することができる
8	11	29	2	筋各論 III	胸部の筋について詳細を理解し説明することができる
9	12	6	2	筋各論 IV	呼吸の筋について詳細を理解し説明することができる
10	12	13	2	筋各論 V	腹部の筋について詳細を理解し説明することができる
11	12	20	2	筋各論 VI	背部の筋について詳細を理解し説明することができる
12	12	27	2	筋各論 VII	上肢帯および上腕の筋について詳細を理解し説明することができる
13	1	10	2	筋各論 VIII	前腕および手の筋について詳細を理解し説明することができる
14	1	17	2	筋各論 IX	下肢帯および大腿の筋について詳細を理解し説明することができる
15	1	17	2	筋各論 X	下腿および足の筋について詳細を理解し説明することができる
評価基準			教科書		参考書
期末試験	100%		医歯薬出版 解剖学		プロメテウス解剖学
	%				グレイ解剖学
	%				他
	%				

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

科目名	生理学1	学年	1 年 16 期生
担当者	福泉 忠興	期 別	前期
単位数	1 単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任

実務経験

- (1)平成11年4月1日～平成17年3月31日 福岡歯科大学 3年生薬理学実習担当
- (2)平成13年4月1日～平成28年3月31日 久留米歯科衛生専門学校
薬理学、生化学、歯科臨床概論 1年生、2年生、3年生講義 卒業試験作成
- (3)平成13年4月1日～令和3年3月31日 九州医療専門学校歯科衛生士科
薬理学、生理学、口腔生理学 1年生、3年生講義 卒業試験作成
- (4)平成15年4月1日～平成17年3月31日 福岡歯科大学 2年生生理学実習担当
- (5)平成16年4月1日～平成16年3月31日 福岡歯科大学 1年生チュートリアル教育担当
- (6)平成16年4月1日～平成16年3月31日 福岡歯科大学 CBT問題作成担当 (薬理学)
- (7)平成16年4月1日～平成17年3月31日 福岡歯科大学 6年生国家試験対策講義担当(薬理学)
- (8)平成17年4月1日～平成17年3月31日 福岡歯科大学 既卒者国家試験対策講義担当(薬理学)
- (9)平成18年10月1日～平成19年3月31日 福岡歯科大学 2年生生化学実習担当
- (10)平成17年4月1日～現在に至る 九州看護福祉大学口腔保健学科
薬理学、口腔生理学 1年生、2年生、4年生講義
- (11)平成23年4月1日～現在に至る 慶應義塾大学薬学部 実務実習事前学習2 3年生講義
- (12)平成22年4月1日～平成29年3月31日 お茶の水医療福祉専門学校 歯科アシスタント科 歯科学 1年生講義
- (13)平成28年4月1日～現在に至る 佐賀歯科衛生専門学校 薬理学、生理学、口腔生理学 1年生、3年生講義
- (14)平成23年9月1日～平成30年3月31日 福岡医療短期大学歯科衛生学科 薬理学 1年生、3年生講義 卒業試験作成
- (15)平成30年4月1日～現在に至る 九州医療専門学校柔道整復師科
生理学 高齢者・競技者の生理学的特徴・変化 1年生講義

一般目標 (GIO)

生理学は、人体の機能を明らかにし、その機能がどのようなメカニズムで現れるかを追求する学問である。柔道整復師を目指すにあたって技術の習得はもちろんであるが、人体やそれを構成する各要素(細胞、組織、器官)の働きや役割を理解することは大切なことである。この講義では、膨大な生理学の内容を体系的に理解し、国家試験及び将来の臨床にも役立つ生理学の知識を習得することを目的とする。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	11	1	生理学の基礎(1)	からだの化学的組成について説明できる。
2	4	18	1	生理学の基礎(2)	細胞の構成体の機能を説明できる。
3	4	25	1	生理学の基礎(3)	受動輸送、能動輸送について説明できる。
4	5	9	1	血液の生理学(1)	血液の組成、役割について説明できる。
5	5	16	1	血液の生理学(2)	免疫機能について説明できる。血液型を識別できる。

6	5	23	1	血液の生理学(3)	血液凝固の機序について説明できる。
7	5	30	1	循環の生理学(1)	心臓の構造、機能について説明できる。
8	6	6	1	循環の生理学(2)	不整脈について説明できる。
9	6	13	1	循環の生理学(3)	血圧について説明できる。
10	6	20	1	循環の生理学(4)	リンパ管系・循環の調節について説明できる。
11	6	27	1	循環の生理学(5)	局所循環、脳脊髄液循環について説明できる。
12	7	4	1	呼吸の生理学(1)	呼吸器の機能的構造について説明できる。
13	7	11	1	呼吸の生理学(2)	ガス交換、酸素の運搬、二酸化炭素の運搬について説明できる。
14	7	18	1	呼吸の生理学(3)	呼吸を調節する仕組みについて説明できる。
15	7	25	1	呼吸の生理学(4)	呼吸の異常について説明できる。
評価基準			教科書		参考書
			%		
			%		
			%		
			%		

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	生理学2	学年	1 年 16 期生
担当者	福泉 忠興	期 別	前期
単 位 数	1 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任

実務経験

- (1)平成11年4月1日～平成17年3月31日 福岡歯科大学 3年生薬理学実習担当
- (2)平成13年4月1日～平成28年3月31日 久留米歯科衛生専門学校
薬理学、生化学、歯科臨床概論 1年生、2年生、3年生講義 卒業試験作成
- (3)平成13年4月1日～令和3年3月31日 九州医療専門学校歯科衛生士科
薬理学、生理学、口腔生理学 1年生、3年生講義 卒業試験作成
- (4)平成15年4月1日～平成17年3月31日 福岡歯科大学 2年生生理学実習担当
- (5)平成16年4月1日～平成16年3月31日 福岡歯科大学 1年生チュートリアル教育担当
- (6)平成16年4月1日～平成16年3月31日 福岡歯科大学 CBT問題作成担当 (薬理学)
- (7)平成16年4月1日～平成17年3月31日 福岡歯科大学 6年生国家試験対策講義担当(薬理学)
- (8)平成17年4月1日～平成17年3月31日 福岡歯科大学 既卒者国家試験対策講義担当(薬理学)
- (9)平成18年10月1日～平成19年3月31日 福岡歯科大学 2年生生化学実習担当
- (10)平成17年4月1日～現在に至る 九州看護福祉大学口腔保健学科
薬理学、口腔生理学 1年生、2年生、4年生講義
- (11)平成23年4月1日～現在に至る 慶應義塾大学薬学部 実務実習事前学習2 3年生講義
- (12)平成22年4月1日～平成29年3月31日 お茶の水医療福祉専門学校 歯科アシスタント科 歯科学 1年生講義
- (13)平成28年4月1日～現在に至る 佐賀歯科衛生専門学校 薬理学、生理学、口腔生理学 1年生、3年生講義
- (14)平成23年9月1日～平成30年3月31日 福岡医療短期大学歯科衛生学科 薬理学 1年生、3年生講義 卒業試験作成
- (15)平成30年4月1日～現在に至る 九州医療専門学校柔道整復師科
生理学 高齢者・競技者の生理学的特徴・変化 1年生講義

一般目標 (GIO)

生理学は、人体の機能を明らかにし、その機能がどのようなメカニズムで現れるかを追求する学問である。柔道整復師を目指すにあたって技術の習得はもちろんであるが、人体やそれを構成する各要素(細胞、組織、器官)の働きや役割を理解することは大切なことである。この講義では、膨大な生理学の内容を体系的に理解し、国家試験及び将来の臨床にも役立つ生理学の知識を習得することを目的とする。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	12	3	消化と吸収(1)	消化管の運動と調節について説明できる。
2	4	19	3	消化と吸収(2)	消化液の分泌機序について説明できる。
3	5	10	3	消化と吸収(3)	消化管ホルモン、肝臓、胆道系について説明できる。
4	5	17	3	栄養と代謝(1)	クエン酸回路、電子伝達系について説明できる。
5	5	24	3	栄養と代謝(2)	中間代謝、エネルギー代謝について説明できる。

6	5	31	3	体温とその調節	熱産生の機序、体温調節について説明できる。
7	6	7	3	尿の生成と排泄(1)	腎臓の構造と機能について説明できる。
8	6	14	3	尿の生成と排泄(2)	糸球体濾過について説明できる。
9	6	21	3	尿の生成と排泄(3)	尿細管におけるイオン、水の再吸収、分泌について説明できる。
10	6	28	3	内分泌系の機能(1)	ホルモンの一般的性質について説明できる。
11	7	5	3	内分泌系の機能(2)	視床下部ホルモンについて説明できる。
12	7	12	3	内分泌系の機能(3)	下垂体前葉ホルモン、下垂体後葉ホルモンについて説明できる。
13	7	19	3	内分泌系の機能(4)	甲状腺ホルモンについて説明できる。
14	7	26	3	内分泌系の機能(5)	副腎皮質ホルモンについて説明できる。
15	8	2	3	内分泌系の機能(6)	副腎髄質ホルモンについて説明できる。
評価基準		教科書			参考書
筆記試験	100%	公益社団法人全国柔道整復学校協会監修			
	%	生理学 改訂第4版			
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	生理学3	学年	1 年 16 期生
担当者	福泉 忠興	期 別	後期
単位数	1 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任

実務経験

- (1)平成11年4月1日～平成17年3月31日 福岡歯科大学 3年生薬理学実習担当
- (2)平成13年4月1日～平成28年3月31日 久留米歯科衛生専門学校
薬理学、生化学、歯科臨床概論 1年生、2年生、3年生講義 卒業試験作成
- (3)平成13年4月1日～令和3年3月31日 九州医療専門学校歯科衛生士科
薬理学、生理学、口腔生理学 1年生、3年生講義 卒業試験作成
- (4)平成15年4月1日～平成17年3月31日 福岡歯科大学 2年生生理学実習担当
- (5)平成16年4月1日～平成16年3月31日 福岡歯科大学 1年生チュートリアル教育担当
- (6)平成16年4月1日～平成16年3月31日 福岡歯科大学 CBT問題作成担当 (薬理学)
- (7)平成16年4月1日～平成17年3月31日 福岡歯科大学 6年生国家試験対策講義担当(薬理学)
- (8)平成17年4月1日～平成17年3月31日 福岡歯科大学 既卒者国家試験対策講義担当(薬理学)
- (9)平成18年10月1日～平成19年3月31日 福岡歯科大学 2年生生化学実習担当
- (10)平成17年4月1日～現在に至る 九州看護福祉大学口腔保健学科
薬理学、口腔生理学 1年生、2年生、4年生講義
- (11)平成23年4月1日～現在に至る 慶應義塾大学薬学部 実務実習事前学習2 3年生講義
- (12)平成22年4月1日～平成29年3月31日 お茶の水医療福祉専門学校 歯科アシスタント科 歯科学 1年生講義
- (13)平成28年4月1日～現在に至る 佐賀歯科衛生専門学校 薬理学、生理学、口腔生理学 1年生、3年生講義
- (14)平成23年9月1日～平成30年3月31日 福岡医療短期大学歯科衛生学科 薬理学 1年生、3年生講義 卒業試験作成
- (15)平成30年4月1日～現在に至る 九州医療専門学校柔道整復師科
生理学 高齢者・競技者の生理学的特徴・変化 1年生講義

一般目標 (GIO)

生理学は、人体の機能を明らかにし、その機能がどのようなメカニズムで現れるかを追求する学問である。柔道整復師を目指すにあたって技術の習得はもちろんであるが、人体やそれを構成する各要素(細胞、組織、器官)の働きや役割を理解することは大切なことである。この講義では、膨大な生理学の内容を体系的に理解し、国家試験及び将来の臨床にも役立つ生理学の知識を習得することを目的とする。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	10	3	1	内分泌系の機能(7)	膵臓のホルモンについて説明できる。
2	10	10	1	内分泌系の機能(8)	精巣のホルモンについて説明できる。
3	10	17	1	内分泌系の機能(9)	卵巣のホルモンについて説明できる。
4	10	24	1	生殖(1)	性染色体とその異常、性分化について説明できる。
5	10	31	1	生殖(2)	男性生殖器系、女性生殖器系について説明できる。
6	11	7	1	生殖(3)	卵巣周期、月経周期について説明できる。
7	11	14	1	生殖(4)	妊娠と分娩、乳汁分泌について説明できる。
8	11	21	1	骨の生理学(1)	骨の構造、骨の形成と成長について説明できる。
9	11	28	1	骨の生理学(2)	カルシウム代謝、リン代謝について説明できる。
10	12	5	1	体液の生理学	体液の恒常性を維持する仕組みについて説明できる。

11	12	12	1	神経の基本的機能(1)	静止膜電位、活動電位について説明できる。
12	12	19	1	神経の基本的機能(2)	神経の興奮伝導について説明できる。
13	12	26	1	神経系の機能(1)	体性神経系、自律神経系について説明できる。
14	1	9	1	神経系の機能(2)	内臓機能の調節について説明できる。
15	1	16	1	神経系の機能(3)	姿勢と運動の調節について説明できる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験		100%	公益社団法人全国柔道整復学校協会監修 生理学 改訂第4版		
		%			
		%			
		%			

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	生理学4	学年	1 年 16 期生
担当者	福泉 忠興	期 別	後期
単位数	1 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任

実務経験

- (1)平成11年4月1日～平成17年3月31日 福岡歯科大学 3年生薬理学実習担当
- (2)平成13年4月1日～平成28年3月31日 久留米歯科衛生専門学校
薬理学、生化学、歯科臨床概論 1年生、2年生、3年生講義 卒業試験作成
- (3)平成13年4月1日～令和3年3月31日 九州医療専門学校歯科衛生士科
薬理学、生理学、口腔生理学 1年生、3年生講義 卒業試験作成
- (4)平成15年4月1日～平成17年3月31日 福岡歯科大学 2年生生理学実習担当
- (5)平成16年4月1日～平成16年3月31日 福岡歯科大学 1年生チュートリアル教育担当
- (6)平成16年4月1日～平成16年3月31日 福岡歯科大学 CBT問題作成担当 (薬理学)
- (7)平成16年4月1日～平成17年3月31日 福岡歯科大学 6年生国家試験対策講義担当 (薬理学)
- (8)平成17年4月1日～平成17年3月31日 福岡歯科大学 既卒者国家試験対策講義担当 (薬理学)
- (9)平成18年10月1日～平成19年3月31日 福岡歯科大学 2年生生化学実習担当
- (10)平成17年4月1日～現在に至る 九州看護福祉大学口腔保健学科
薬理学、口腔生理学 1年生、2年生、4年生講義
- (11)平成23年4月1日～現在に至る 慶應義塾大学薬学部 実務実習事前学習2 3年生講義
- (12)平成22年4月1日～平成29年3月31日 お茶の水医療福祉専門学校 歯科アシスタント科 歯科学 1年生講義
- (13)平成28年4月1日～現在に至る 佐賀歯科衛生専門学校 薬理学、生理学、口腔生理学 1年生、3年生講義
- (14)平成23年9月1日～平成30年3月31日 福岡医療短期大学歯科衛生学科 薬理学 1年生、3年生講義 卒業試験作成
- (15)平成30年4月1日～現在に至る 九州医療専門学校柔道整復師科
生理学 高齢者・競技者の生理学的特徴・変化 1年生講義

一般目標 (GIO)

生理学は、人体の機能を明らかにし、その機能がどのようなメカニズムで現れるかを追求する学問である。柔道整復師を目指すにあたって技術の習得はもちろんであるが、人体やそれを構成する各要素(細胞、組織、器官)の働きや役割を理解することは大切なことである。この講義では、膨大な生理学の内容を体系的に理解し、国家試験及び将来の臨床にも役立つ生理学の知識を習得することを目的とする。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	10	3	2	神経系の機能(4)	脳幹、小脳、大脳基底核の機能について説明できる。
2	10	10	2	神経系の機能(5)	新皮質運動野の機能について説明できる。
3	10	17	2	神経系の機能(6)	大脳皮質の機能分化、脳波について説明できる。
4	10	24	2	神経系の機能(7)	覚醒と睡眠について説明できる。
5	10	31	2	神経系の機能(8)	認知、言語、意思と感情、学習、記憶について説明できる。
6	11	7	2	筋肉の機能(1)	筋肉の種類を分類し、その特徴について説明できる。
7	11	14	2	筋肉の機能(2)	骨格筋の収縮の仕組みについて説明できる。
8	11	21	2	筋肉の機能(3)	平滑筋、心筋の収縮の仕組みについて説明できる。
9	11	28	2	感覚の生理学(1)	感覚の一般的性質について説明できる。
10	12	5	2	感覚の生理学(2)	体性感覚について説明できる。

11	12	12	2	感覚の生理学(3)	味覚について説明できる。
12	12	19	2	感覚の生理学(4)	嗅覚について説明できる。
13	12	26	2	感覚の生理学(5)	聴覚について説明できる。
14	1	9	2	感覚の生理学(6)	前庭感覚について説明できる。
15	1	16	2	感覚の生理学(7)	視覚について説明できる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験		100%	公益社団法人全国柔道整復学校協会監修		
		%	生理学 改訂第4版		
		%			
		%			

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	生理学5	学年	3年14期生
担当者	福泉 忠興	期別	前期
単位数	1単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任
実務経験	(1)平成11年4月1日～平成17年3月31日 福岡歯科大学 3年生薬理学実習担当 (2)平成13年4月1日～平成28年3月31日 久留米歯科衛生専門学校 薬理学、生化学、歯科臨床概論 1年生、2年生、3年生講義 卒業試験作成 (3)平成13年4月1日～令和3年3月31日 九州医療専門学校歯科衛生士科 薬理学、生理学、口腔生理学 1年生、3年生講義 卒業試験作成 (4)平成15年4月1日～平成17年3月31日 福岡歯科大学 2年生生理学実習担当 (5)平成16年4月1日～平成16年3月31日 福岡歯科大学 1年生チュートリアル教育担当 (6)平成16年4月1日～平成16年3月31日 福岡歯科大学 CBT問題作成担当 (薬理学) (7)平成16年4月1日～平成17年3月31日 福岡歯科大学 6年生国家試験対策講義担当 (薬理学) (8)平成17年4月1日～平成17年3月31日 福岡歯科大学 既卒者国家試験対策講義担当 (薬理学) (9)平成18年10月1日～平成19年3月31日 福岡歯科大学 2年生生化学実習担当 (10)平成17年4月1日～現在に至る 九州看護福祉大学口腔保健学科 薬理学、口腔生理学 1年生、2年生、4年生講義 (11)平成23年4月1日～現在に至る 慶應義塾大学薬学部 実務実習事前学習2 3年生講義 (12)平成22年4月1日～平成29年3月31日 お茶の水医療福祉専門学校 歯科アシスタント科 歯科学 1年生講義 (13)平成28年4月1日～現在に至る 佐賀歯科衛生専門学校 薬理学、生理学、口腔生理学 1年生、3年生講義 (14)平成23年9月1日～平成30年3月31日 福岡医療短期大学歯科衛生学科 薬理学 1年生、3年生講義 卒業試験作成 (15)平成30年4月1日～現在に至る 九州医療専門学校柔道整復師科 生理学 高齢者・競技者の生理学的特徴・変化 1年生講義		

一般目標 (GIO)

1年生で履修した生理学を復習し、国家試験に対応できる力を身に付けることを目標とする。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	4	2	生理学の基礎	国家試験を解いて正答を導くことができる。
2	4	11	2	血液・循環 (1)	国家試験を解いて正答を導くことができる。
3	4	18	2	血液・循環 (2)	国家試験を解いて正答を導くことができる。
4	4	25	2	呼吸	国家試験を解いて正答を導くことができる。
5	5	9	2	消化と吸収	国家試験を解いて正答を導くことができる。
6	5	16	2	栄養と代謝・体温とその調節	国家試験を解いて正答を導くことができる。
7	5	23	2	尿の生成と排泄	国家試験を解いて正答を導くことができる。
8	5	30	2	内分泌系 (1)	国家試験を解いて正答を導くことができる。
9	6	6	2	内分泌系 (2)	国家試験を解いて正答を導くことができる。
10	6	13	2	骨の生理学	国家試験を解いて正答を導くことができる。

11	6	20	2	生殖	国家試験を解いて正答を導くことができる。
12	6	27	2	骨の生理学	国家試験を解いて正答を導くことができる。
13	7	4	2	神経系(1)	国家試験を解いて正答を導くことができる。
14	7	11	2	神経系(2)	国家試験を解いて正答を導くことができる。
15	7	18	2	感覚	国家試験を解いて正答を導くことができる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験		100%	公益社団法人全国柔道整復学校協会監修		
		%	生理学 改訂第3版		
		%			
		%			

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	高齢者の生理学的特徴・変化	学年	1 年 16 期生
担当者	福泉 忠興	期 別	後期
単位数	1 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	15H・7.5回	専任・兼任	兼任

実務経験

- (1)平成11年4月1日～平成17年3月31日 福岡歯科大学 3年生薬理学実習担当
- (2)平成13年4月1日～平成28年3月31日 久留米歯科衛生専門学校
薬理学、生化学、歯科臨床概論 1年生、2年生、3年生講義 卒業試験作成
- (3)平成13年4月1日～令和3年3月31日 九州医療専門学校歯科衛生士科
薬理学、生理学、口腔生理学 1年生、3年生講義 卒業試験作成
- (4)平成15年4月1日～平成17年3月31日 福岡歯科大学 2年生生理学実習担当
- (5)平成16年4月1日～平成16年3月31日 福岡歯科大学 1年生チュートリアル教育担当
- (6)平成16年4月1日～平成16年3月31日 福岡歯科大学 CBT問題作成担当 (薬理学)
- (7)平成16年4月1日～平成17年3月31日 福岡歯科大学 6年生国家試験対策講義担当 (薬理学)
- (8)平成17年4月1日～平成17年3月31日 福岡歯科大学 既卒者国家試験対策講義担当 (薬理学)
- (9)平成18年10月1日～平成19年3月31日 福岡歯科大学 2年生生化学実習担当
- (10)平成17年4月1日～現在に至る 九州看護福祉大学口腔保健学科
薬理学、口腔生理学 1年生、2年生、4年生講義
- (11)平成23年4月1日～現在に至る 慶應義塾大学薬学部 実務実習事前学習2 3年生講義
- (12)平成22年4月1日～平成29年3月31日 お茶の水医療福祉専門学校 歯科アシスタント科 歯科学 1年生講義
- (13)平成28年4月1日～現在に至る 佐賀歯科衛生専門学校 薬理学、生理学、口腔生理学 1年生、3年生講義
- (14)平成23年9月1日～平成30年3月31日 福岡医療短期大学歯科衛生学科 薬理学 1年生、3年生講義 卒業試験作成
- (15)平成30年4月1日～現在に至る 九州医療専門学校柔道整復師科
生理学 高齢者・競技者の生理学的特徴・変化 1年生講義

一般目標 (GIO)

生理学は、人体の機能を明らかにし、その機能がどのようなメカニズムで現れるかを追求する学問である。柔道整復師を目指すにあたって技術を習得する。人体やそれを構成する各要素(細胞、組織、器官)の働きや役割を身につける。

この講義では、膨大な生理学の内容を体系的に理解し、国家試験及び将来の臨床にも役立つ

生理学の知識を習得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	10	4	3	細胞、組織の加齢現象	細胞の老化、組織の加齢現象について説明できる。
2	10	11	3	高齢者の生理学的特徴(1)	神経系、運動器系の変化について説明できる。
3	10	18	3	高齢者の生理学的特徴(2)	感覚器系、循環器系の変化について説明できる。
4	11	1	3	高齢者の生理学的特徴(3)	呼吸器系、消化器系、皮膚の変化について説明できる。
5	11	8	3	高齢者の生理学的特徴(4)	高齢期特有の疾患・障害について説明できる。
6	11	15	3	運動と加齢(1)	歩行機能について説明できる。
7	11	29	3	運動と加齢(2)	平衡機能について説明できる。
8	12	6	3	運動と加齢(3)	反応時間について説明できる。
評価基準				教科書	参考書
筆記試験		100%	公益社団法人全国柔道整復学校協会監修		
		%	生理学 改訂第4版		

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:40～14:10)

4限目 (14:20～15:50)

科目名	高齢者の生理学的特徴・変化	学年	1 年 16 期生
担当者	福泉 忠興	期別	後期
単位数	1 単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	15H・7.5回	専任・兼任	兼任

実務経験

- (1)平成11年4月1日～平成17年3月31日 福岡歯科大学 3年生薬理学実習担当
- (2)平成13年4月1日～平成28年3月31日 久留米歯科衛生専門学校
薬理学、生化学、歯科臨床概論 1年生、2年生、3年生講義 卒業試験作成
- (3)平成13年4月1日～令和3年3月31日 九州医療専門学校歯科衛生士科
薬理学、生理学、口腔生理学 1年生、3年生講義 卒業試験作成
- (4)平成15年4月1日～平成17年3月31日 福岡歯科大学 2年生生理学実習担当
- (5)平成16年4月1日～平成16年3月31日 福岡歯科大学 1年生チュートリアル教育担当
- (6)平成16年4月1日～平成16年3月31日 福岡歯科大学 CBT問題作成担当 (薬理学)
- (7)平成16年4月1日～平成17年3月31日 福岡歯科大学 6年生国家試験対策講義担当 (薬理学)
- (8)平成17年4月1日～平成17年3月31日 福岡歯科大学 既卒者国家試験対策講義担当 (薬理学)
- (9)平成18年10月1日～平成19年3月31日 福岡歯科大学 2年生生化学実習担当
- (10)平成17年4月1日～現在に至る 九州看護福祉大学口腔保健学科
薬理学、口腔生理学 1年生、2年生、4年生講義
- (11)平成23年4月1日～現在に至る 慶應義塾大学薬学部 実務実習事前学習2 3年生講義
- (12)平成22年4月1日～平成29年3月31日 お茶の水医療福祉専門学校 歯科アシスタント科 歯科学 1年生講義
- (13)平成28年4月1日～現在に至る 佐賀歯科衛生専門学校 薬理学、生理学、口腔生理学 1年生、3年生講義
- (14)平成23年9月1日～平成30年3月31日 福岡医療短期大学歯科衛生学科 薬理学 1年生、3年生講義 卒業試験作成
- (15)平成30年4月1日～現在に至る 九州医療専門学校柔道整復師科
生理学 高齢者・競技者の生理学的特徴・変化 1年生講義

一般目標 (GIO)

生理学は、人体の機能を明らかにし、その機能がどのようなメカニズムで現れるかを追求する学問である。柔道整復師を目指すにあたって技術の習得はもちろんであるが、人体やそれを構成する各要素(細胞、組織、器官)の働きや役割を理解することは大切なことである。この講義では、膨大な生理学の内容を体系的に理解し、国家試験及び将来の臨床にも役立つ生理学の知識を習得することを目的とする。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	12	6	3	運動と身体発達(1)	小児期から青年期の発育特性について説明できる。
2	12	13	3	運動と身体発達(2)	小児期から青年期の骨・筋肉の発育と運動について説明できる。
3	12	20	3	運動と身体発達(3)	小児期から青年期の呼吸・循環機能と運動について説明できる。
4	12	27	3	運動と身体発達(4)	発育期の運動不足・過運動の影響について説明できる。
5	1	10	3	運動と身体発達(5)	運動の習熟について説明できる。
6	1	17	3	競技者の生理学的特徴(1)	スポーツ及びトレーニングによる適応について説明できる。
7	1	24	3	競技者の生理学的特徴(2)	競技者の神経機構の特性について説明できる。
8	1	31	3	競技者の生理学的特徴(3)	姿勢調節・眼球運動と姿勢制御について説明できる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験		100%	公益社団法人全国柔道整復学校協会監修		
		%	生理学 改訂第4版		

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:40～14:10)

4限目 (14:20～15:50)

科目名	運動学1	学年	1 年 16 期生
担当者	坂本飛鳥	期別	前期
単位数	1 単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任

実務経験

一般病院勤務経験あり。西九州大学リハビリテーション学科講師。

一般目標(GIO)

人間の運動に関する身体の機能と構造について基本的な知識を備えるために、正常な構造と機能について学修する。

特に骨・関節・筋の構造と機能に重きをおいた講義を展開する。

身体構造の基礎知識を使用して身体の運動メカニズムを理解することが目標である。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	16	1	運動学の目的	運動学を学修する目的を認識する
2	4	23	1	運動のとらえ方	運動学の表現方法を理解し説明することができる
3	5	7	1	運動の表示	運動の表示を理解し説明することができる
4	5	14	1	運動の法則	運動の法則を理解し、身体構造との関係づけられる
5	5	21	1	仕事と力学的エネルギー	運動時の力学的エネルギーを理解し体感できる
6	5	28	1	骨・関節の構造と機能	骨関節の構造を説明できる
7	6	4	1	前半部まとめ	運動学の知識の確認と応用し運動を説明できる
8	6	11	1	骨格筋の構造と機能	骨格筋の構造と機能を説明できる
9	6	18	1	末梢神経・中枢神経	神経の構造と機能を説明できる
10	6	25	1	感覚・知覚	感覚と知覚の構造を説明できる
11	7	2	1	運動感覚と運動の制御機構	運動感覚と運動制御の意味を理解し説明できる
12	7	9	1	反射	反射のメカニズムを理解し説明できる
13	7	16	1	連合運動と共同運動	連合運動と共同運動のメカニズムを説明できる
14	7	23	1	随意運動	随意運動を理解し説明できる
15	7	30	1	総まとめ	運動学的知識を応用して身体運動を説明できる

評価基準

教科書

参考書

小テスト	50%	運動学 医歯薬出版株式会社	
定期考査	50%		
	%		
	%		

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	運動学2	学年	2年 15期生
担当者	坂本 飛鳥	期別	前期
単位数	1単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間・15回	専任・兼任	兼任

実務経験

一般病院勤務経験あり。西九州大学リハビリテーション学科講師。

一般目標 (GIO)

人間の運動に関する身体の機能と構造について基本的な知識を備えるために、正常な構造と機能について学修する。

特に骨・関節・筋の構造と機能に重きをおいた講義を展開する。

身体構造の基礎知識を使用して身体の運動メカニズムを理解することが目標である。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	16	2	上肢帯の運動	上肢帯の構造とその運動メカニズムを説明できる
2	4	23	2	肩関節の運動	肩関節の構造とその運動メカニズムを説明できる
3	5	7	2	肘関節と前腕の運動	肘・前腕の構造とその運動メカニズムを説明できる
4	5	14	2	手関節と手の運動	手関節・手の構造とその運動メカニズムを説明できる
5	5	21	2	股関節の運動	股関節の構造とその運動メカニズムを説明できる
6	5	28	2	膝関節の運動	膝関節の構造とその運動メカニズムを説明できる
7	6	4	2	足関節と足部の運動	足関節の構造とその運動メカニズムを説明できる
8	6	11	2	前半部分のまとめ	四肢の構造と運動メカニズムを説明づけられる
9	6	18	2	体幹と脊柱の運動	体幹の構造とその運動メカニズムを説明できる
10	6	25	2	胸郭の運動	胸郭の構造とその運動メカニズムを説明できる
11	7	2	2	顔面および頭部の運動	顔・頭部の構造とその運動メカニズムを説明できる
12	7	9	2	姿勢と歩行	姿勢と歩行の運動メカニズムを説明できる
13	7	16	2	運動発達	運動発達の流れを理解できる
14	7	23	2	運動学習	運動学習の理論を説明できる
15	7	30	2	総まとめ	各関節の運動メカニズムを関連付けられる

評価基準

教科書

参考書

小テスト	50%	運動学 医歯薬出版株式会社	
定期考査	50%		
	%		
	%		

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:30~14:00)

科目名	運動学3	学年	3 年 14 期生
担当者	田中 巧	期 別	後期
単位数	1 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間 15回	専任・兼任	専任
実務経験	臨床経験を持つ教員が運動学において臨床上、実際に遭遇する疾患に対しての運動器系の捉え方を修得するための講義を行う。 疾		

一般目標 (GIO)

運動学3において各運動器の基本を理解し実際、出くわす傷病に対し適切な判断ができるようになる。
また、本科目は、傷病に対する治療の基礎となることを認識し修得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	9	25	1	運動学の目的	左記の説明ができる。
2	10	2	1	運動の表し方	左記について、図示し説明できる。
3	10	9	1	身体運動と力学①	力・テコについて説明できる。
4	10	16	1	身体運動と力学②	運動の法則・単位について説明できる。
5	10	23	1	運動の構造と機能	解剖学・運動学を交えて説明できる。
6	10	30	1	運動器の神経系	神経との関連を説明できる。
7	11	6	1	反射と随意運動	左記の関係性を説明できる。
8	11	13	1	四肢と体幹の運動	各筋の作用と複合運動を説明できる。
9	11	20	1	姿勢①	重心位置について図示し説明できる。
10	11	27	1	姿勢②	抗重力筋の説明できる。
11	12	4	1	歩行①	歩行周期を分類し評価できる。
12	12	11	1	歩行②	歩行時の重心移動について説明できる。
13	12	18	1	運動発達	原始反射について説明できる。
14	12	25	1	運動学習	各動機づけについて分類する。
15	1	8	1	総復習	1～14項のそれぞれを評価をする。

評価基準		教科書	参考書
期末テスト	100%	運動学	過去問集
	%		
	%		

科目名	病理学概論1	学年	1 年 16 期生
担当者	濱田 信之	期 別	後期
単 位 数	1 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任
実務経験			

一般目標(GIO)

ヒトの体内でどのように細胞、組織、生理機能が障害されて疾患を起こしているかという基本原理をおもに組織の形態変化などから理解し、その知識を身につける。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	10	2	2	病理学とは？、疾病とは？	病理学の疾病分類を示し、ある疾患がどの分類に相当するかを説明する。
2	10	9	2	組織の障害と修復1(適応:萎縮、肥大、過形成)	障害因子の強さに応じた様々な生体の反応を適応現象ととらえ、その具体例を説明する。
3	10	16	2	組織の障害と修復2(変性、壊死)	障害因子の強さに応じた様々な生体の反応を適応現象ととらえ、その具体例を説明する。
4	10	23	2	組織の障害と修復3(再生、化生、修復(創傷治癒、骨折治癒、異物処理、移植))	障害因子の強さに応じた様々な生体の反応を適応現象ととらえ、その具体例を説明する。
5	10	30	2	代謝障害と疾病(痛風、黄疸、糖尿病)	代謝過程の異常を生化学的かつ生理学的に概説する。
6	11	6	2	循環障害1(うっ血、出血、浮腫)	用語の意味を再確認し、概略を説明する。
7	11	13	2	循環障害2(血栓、塞栓、梗塞)	用語の意味を再確認し、概略を説明する。
8	11	20	2	循環障害3(側副循環障害、高血圧、DIC)	用語の意味を再確認し、概略を説明する。
9	11	27	2	炎症(滲出性炎、増殖性炎)	炎症を大きく2つに捉えそれぞれの特徴を説明する。
10	12	4	2	免疫異常・アレルギー1(免疫担当細胞、免疫応答)	免疫応答の概略を述べたうえで、アレルギーの4つの型を分類し、種々の膠原病の特徴を説明する。
11	12	11	2	免疫異常・アレルギー2(アレルギー、自己免疫疾患)	免疫応答の概略を述べたうえで、アレルギーの4つの型を分類し、種々の膠原病の特徴を説明する。
12	12	18	2	腫瘍1(悪性腫瘍の性質、転移)	悪性腫瘍の特徴を細胞レベル、組織レベルで列記し、転移の様式と具体例を説明する。
13	12	25	2	腫瘍2(発生機構、診断、治療)	悪性腫瘍の発生のしくみ、診断法、治療法を説明する。
14	1	8	2	先天性異常(優性遺伝、劣性遺伝)	主要な優性遺伝、劣性遺伝による疾患及び染色体異常によるものを説明する。
15	1	15	2	病因(内因、外因(物理学的、化学的、生物学的))	疾病とそこに至る最初のきっかけを説明する。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	90%	病理学概論(改訂第3版)(柔道整復学校協会監修、南江堂)	よくわかる病理学の基本としくみ (田村著、秀和システム)
出席	10%		
	%		
	%		

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	病理学概論2	学年	3 年 14 期生
担当者	梅津健太郎	期別	前期
単位数	1 単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任
実務経験			

一般目標(GIO)

柔道整復師を目指す学生諸氏が、病理学の総論的内容を学習することにより、正常解剖学と生理学で学んだ人体の正常像との違いを理解して欲しい。また、国家試験に準拠した授業内容を構築したい。

国家試験過去問を使用教材として、演習形式の授業を行い、国家試験頻出項目や必出内容を重点的に、1～2年次に学習した内容の総復習を行い、国家試験本番での確実に得点できる実力を養成したい。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	4	1	1.病理学 2.疾病 P.1～8	病理学的検査、疾病の概念を理解させる。
2	4	11	1	3.細胞障害① P.9～28	退行性病変、代謝性病変を理解させる。
3	4	18	1	3.細胞障害②	退行性病変、代謝性病変を理解させる。
4	4	25	1	4.循環障害① P.29～48	血液の循環障害(充血、うっ血、出血、血栓、塞栓)
5	5	9	1	4.循環障害②	リンパ液の循環障害、脱水症、高血圧症。
6	5	16	1	5.進行性病変① P.49～60	病的増殖と細胞・組織の適応を理解させる。
7	5	23	1	5.進行性病変②	細胞障害、循環障害、進行性病変について説明できる。
8	5	30	1	6.炎症 P.61～70	炎症の一般的内容、形態学的変化、分類を理解させる。
9	6	6	1	7.免疫異常/アレルギー P.71～84	免疫の仕組み、免疫不全、自己免疫疾患、アレルギー。
10	6	13	1	8.腫瘍① P.85～112	腫瘍の概念、組織構造、発育諸段階を理解させる。
11	6	20	1	8.腫瘍②	良性腫瘍、悪性腫瘍(癌)について理解させる。
12	6	27	1	9.先天性異常 P.113～126	先天性異常(遺伝、染色体異常)、奇形を理解させる。
13	7	4	1	10.病因① P.127～150	内因(遺伝、内分泌、免疫、ストレス)
14	7	11	1	10.病因②	外因(栄養障害、物理・化学的要因、生物学的外因)
15	7	18	1	付)運動器病理 P.151～166	整形外科の疾患別各論に掲載の疾患の概略を解説。

評価基準		教科書	参考書
期末試験	100%	病理学概論 改定第3版 (医歯薬出版)	柔道整復師国家試験過去問題集
	%		
	%		
	%		

1限目(9:00～10:30)

2限目(10:40～12:10)

3限目(12:40～14:10)

4限目(14:20～15:50)

科目名	臨床医学総論1	学年	1 年 16 期生
担当者	野下 貞寿	期 別	前期
単位数	1 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任

実務経験

内科開業医師
内科開業医の立場より診察の基本について講義する。

一般目標(GIO)

医療者としての心構えの大切さを知り、問診での聴き方及び身体の診察(生命徴候観察、視診、触診、打診、聴診、感覚検査、反射検査)の仕方を学び、より正しい診断に近づく。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	15	3	診察概論	医療者の心構え等を述べる事ができる。
2	4	22	3	医療面接	問診について説明できる。
3	5	13	3	視診1	体格・姿勢と疾患の関係が説明できる。
4	5	20	3	視診2	肥満・やせの基準及び意識状態が説明できる。
5	5	27	3	視診3	異常運動が説明できる。
6	6	3	3	視診4	異常歩行と疾患の関係が説明できる。
7	6	10	3	視診5	皮膚病変や爪の変化について説明できる。
8	6	17	3	視診6	頭部、顔面、頸部の視診が説明できる。
9	6	24	3	視診7	胸部の変形や腹部の視診が説明できる。
10	7	1	3	視診8	側彎や四肢の変形について説明できる。
11	7	8	3	打診1	打診の方法、打診音の種類を説明できる。
12	7	22	3	打診2	胸部、腹部の打診が説明できる。
13	7	29	3	聴診	肺、心臓、腹部の聴診が説明できる。
14	8	5	3	触診1	三叉神経痛や皮膚腫瘍を説明する事ができる。
15	8	19	3	触診2	筋肉、骨、関節の触診を説明する事ができる。

評価基準

教科書

参考書

筆記試験	100%	一般臨床医学 (全国柔道整復学校協会監修)	国家試験過去問題集 柔道整復師用 (医道の日本社発行)
	%		
	%		
	%		

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	臨床医学総論2	学年	1 年 16 期生
担当者	野下 貞寿	期 別	後期
単位数	1 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任

実務経験

内科開業医の立場より診察の基本について講義する。

一般目標 (GIO)

医療者としての心構えの大切さを知り、問診での聴き方及び身体の診察(生命徴候観察、視診、触診、打診、聴診、感覚検査、反射検査)の仕方を学び、より正しい診断に近づくことを目標とする。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	9	30	3	触診3	胸部、腹部などの触診を説明する事ができる。
2	10	7	3	生命徴候1	体温について説明できる。
3	10	21	3	生命徴候2	血圧、脈拍について説明できる。
4	11	11	3	生命徴候3	呼吸について説明できる。
5	11	18	3	感覚検査	表在・深部・複合感覚などを説明する事ができる。
6	11	25	3	反射検査1	表在反射を説明する事ができる。
7	12	2	3	反射検査2	腱反射を説明する事ができる。
8	12	9	3	反射検査3	病的反射、自立神経反射などを説明する事ができる。
9	12	16	3	代表的な臨床症状1	発熱について説明できる。
10	12	23	3	代表的な臨床症状2	出血傾向、リンパ節腫脹について説明できる。
11	1	6	3	代表的な臨床症状3	意識障害、チアノーゼについて説明できる。
12	1	20	3	代表的な臨床症状4	関節痛をきたす疾患などの説明ができる。
13	1	27	3	代表的な臨床症状5	浮腫について説明できる。
14	2	3	3	代表的な臨床症状6	肥満・やせの病態生理を説明する事ができる。
15	2	3	4	検査法	生理機能検査、検体検査を説明する事ができる。

評価基準

教科書

参考書

筆記試験	100%	一般臨床医学 (全国柔道整復学校協会監修)	国家試験過去問題集 柔道整復師用 (医道の日本社発行)
	%		
	%		
	%		

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

4限目 (14:20~15:50)

科目名	臨床医学各論1	学年	2年15期生
担当者	野下 貞寿	期別	前期
単位数	1単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間・15回	専任・兼任	兼任

実務経験

内科開業医の経験を踏まえて各疾患を講義する。

一般目標 (GIO)

多くの疾患を幅広く学ぶことにより、患者に対してより適切な対処と指導ができるようになることを目標とする。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	5	3	呼吸器疾患1	かぜ症候群、肺炎、結核などを説明する事ができる。
2	4	12	3	呼吸器疾患2	気管支喘息、COPD、肺癌を説明する事ができる。
3	4	19	3	呼吸器疾患3	肺血栓塞栓症、気胸を説明する事ができる。
4	5	10	3	循環器疾患1	心不全、虚血性心疾患、心臓弁膜症などを説明する事ができる。
5	5	17	3	循環器疾患2	先天性疾患、高血圧などを説明できる。
6	5	24	3	循環器疾患3	閉塞性動脈硬化症、不整脈などを説明できる。
7	5	31	3	消化器疾患1	上部消化器疾患を説明する事ができる。
8	6	7	3	消化器疾患2	下部消化器疾患を説明する事ができる。
9	6	14	3	消化器疾患3	肝疾患を説明する事ができる。
10	6	21	3	消化器疾患4	胆膵腹膜疾患を説明する事ができる。
11	6	28	3	代謝疾患1	糖尿病を説明する事ができる。
12	7	5	3	代謝疾患2	脂質異常症を説明する事ができる。
13	7	12	3	代謝疾患3	肥満症、メタボリックシンドローム、痛風を説明する事ができる。
14	7	19	3	内分泌疾患1	内分泌の総論を述べる事ができる。
15	7	26	3	内分泌疾患2	下垂体疾患、甲状腺疾患などを説明できる。

評価基準

教科書

参考書

筆記試験	100%	一般臨床医学 (全国柔道整復学校協会監修)	国家試験過去問題集 柔道整復師用 (医道の日本社発行)
	%		
	%		
	%		

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

4限目 (14:20~15:50)

科目名	臨床医学各論2	学年	2年 15期生
担当者	野下 貞寿	期別	後期
単位数	1単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間・15回	専任・兼任	兼任

実務経験

内科開業医の経験を踏まえて各疾患を講義する。

一般目標 (GIO)

多くの疾患を幅広く学ぶことにより、患者に対してより適切な対処と指導ができるようになることを目標とする。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	10	4	3	内分泌疾患3	副甲状腺疾患、副腎疾患などを説明する事ができる。
2	10	11	3	血液・造血器疾患1	貧血疾患、白血病などを説明する事ができる。
3	10	18	3	血液・造血器疾患2	悪性リンパ腫、紫斑病、骨髄腫などを説明する事ができる。
4	11	1	3	腎・尿路疾患1	腎不全、慢性腎臓病などを説明する事ができる。
5	11	8	3	腎・尿路疾患2	透析療法、腎移植を説明する事ができる。
6	11	15	3	腎・尿路疾患3	腎炎、ネフローゼ症候群、膀胱炎などを説明できる。
7	11	22	3	腎・尿路疾患4	嚢胞腎、前立腺肥大症、尿路結石などを説明できる。
8	12	6	3	神経疾患1	脳血管障害、てんかん、片頭痛などを説明する事ができる。
9	12	13	3	神経疾患2	認知症、パーキンソン病、ALSなどを説明する事ができる。
10	12	20	3	感染症1	感染経路、日和見感染予防策などを説明する事ができる。
11	12	27	3	感染症2	腸管、皮膚、性行為感染症などを説明する事ができる。
12	1	10	3	感染症3	破傷風、ウイルス感染症を説明する事ができる。
13	1	17	3	リウマチ・膠原病1	関節リウマチ、SLE、強皮症などを説明する事ができる。
14	1	24	3	アレルギー・膠原病2	上記以外の膠原病、アナフィラキシーショックなどを説明する事ができる。
15	1	31	3	環境要因による疾患	熱中症、一酸化炭素中毒を説明する事ができる。

評価基準

教科書

参考書

筆記試験	100%	一般臨床医学 (全国柔道整復学校協会監修)	国家試験過去問題集 柔道整復師用 (医道の日本社発行)
	%		
	%		
	%		

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

4限目 (14:20~15:50)

科目名	外科学概論1	学年	2年15期生
担当者	白土 雄司	期別	前期
単位数	1単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任
実務経験			

一般目標(GIO)

外科学の基礎となる総論を理解し、日常臨床の場において遭遇することの多い代表的な外科疾患を知る。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	4	2	損傷①	損傷と創傷について説明できる。
2	4	11	2	損傷②	熱傷の原因や深度による分類、合併症を述べる事ができる。
3	4	18	2	炎症と外科感染症①	定義と分類について説明する。外科感染症について述べる事ができる。
4	4	25	2	腫瘍①	概念および良性・悪性腫瘍の特徴について説明できる。
5	5	9	2	腫瘍②	腫瘍の発育形式、診断方法、治療法について述べる事ができる。
6	5	16	2	ショック①	定義と分類について説明する。またショックの緊急処置について述べる事ができる。
7	5	23	2	輸血,輸液①	輸血の基礎知識を説明し、輸血の実際・副作用について述べる事ができる。
8	5	30	2	輸血,輸液②	一般輸血について説明できる。
9	6	6	2	消毒と滅菌①	消毒薬の特徴を説明し、滅菌の種類について述べる事ができる。
10	6	13	2	手術①	各種手術法の種類および適用について述べる事ができる。
11	6	20	2	麻酔①	麻酔の種類を説明し、それぞれの特徴を述べる事ができる。
12	6	27	2	移植と免疫①	移植の用語と要点を述べる事ができる。
13	7	4	2	出血と止血①	出血の種類と特徴を説明し止血法を理解する事ができる。
14	7	11	2	心肺蘇生法①	心肺蘇生法の定義を説明し、手順を説明できる。
15	7	18	2	外科学概論1まとめ	外科学概論の要点を述べる事ができる。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	全国柔道整復学校協会監修教科書外科学概論改訂第4版	
	%	(医歯薬出版)	
	%		
	%		

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	外科学概論2	学年	2年15期生
担当者	白土 雄司	期別	後期
単位数	1単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間・15回	専任・兼任	兼任
実務経験			

一般目標 (GIO)

外科学の基礎となる総論を理解し、日常臨床の場において遭遇することの多い代表的な外科疾患を身につける。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	10	3	2	脳神経外科疾患①	脳神経疾患の主要徴候と病態を説明できる。
2	10	10	2	脳神経外科疾患②	意識障害の分類について述べる事ができる。
3	10	17	2	脳神経外科疾患③	脳血管障害および頭部外傷について説明する事ができる。
4	10	24	2	甲状腺・頸部疾患①	甲状腺機能亢進症および甲状腺腫瘍について述べる事できる。
5	10	31	2	胸壁・呼吸器疾患①	胸壁・呼吸器疾患の症候と検査について説明できる。
6	11	7	2	胸壁・呼吸器疾患②	胸膜疾患・縦隔疾患等について説明できる。
7	11	14	2	胸壁・呼吸器疾患③	胸部損傷について説明できる。
8	11	21	2	心臓・脈管疾患①	心臓・血管系疾患に対する検査法を説明できる。
9	12	5	2	心臓・脈管疾患②	心疾患の特徴について対比できる。
10	12	12	2	心臓・脈管疾患③	脈管疾患について述べる事ができる。
11	12	19	2	乳腺疾患①	診断方法について説明でき、乳腺疾患の種類を述べる事ができる。
12	12	26	2	腹部外科疾患①	症状と検査について説明できる。
13	1	9	2	腹部外科疾患②	代表的腹部外科疾患について述べる事ができる。
14	1	16	2	腹部外科疾患③	腹部外傷について説明できる。
15	1	23	2	外科学概論2まとめ	外科学概論の要点を述べる事ができる。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	全国柔道整復学校協会監修教科書外科学概論改訂第4版 (医歯薬出版)	
	%		
	%		
	%		

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

4限目 (14:20~15:50)

科目名	リハビリテーション医学1	学年	1 年 16 期生
担当者	満丸 望	期 別	後期
単位数	1 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任
実務経験			

一般目標 (GIO)

日本におけるリハビリテーション医学は戦後導入され、日本リハビリテーション医学会が設立されたのは昭和38年であり、まだ歴史の浅い医学である。本科目は、そのリハビリテーション医学を理解することが目標である。まず医学の概略を理解し、その後、リハビリテーションにおける評価と診断および治療に関する知識を修得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	10	2	3	リハビリテーションの概念	リハビリテーションの概念と歴史について説明できる。
2	10	9	3	リハビリテーションの対象と障害者の実態(1)	医学的リハビリテーションについて説明する。
3	10	16	3	リハビリテーションの対象と障害者の実態(2)	リハビリテーション医学について説明する。
4	10	23	3	障害の階層とアプローチ	ICFとICIDHについて説明する。
5	10	30	3	リハビリテーション評価学(1)	運動学と機能解剖について説明する。
6	11	6	3	リハビリテーション評価学(2)	各評価項目について説明する。
7	11	13	3	リハビリテーション評価学(3)	各評価項目について説明する。
8	11	20	3	リハビリテーション評価学(4)	各評価項目について説明する。
9	11	27	3	リハビリテーション評価学(5)	各評価項目について説明する。
10	12	4	3	リハビリテーション障害学と治療学(1)	リハビリテーション障害学について説明する。
11	12	11	3	リハビリテーション障害学と治療学(2)	リハビリテーション障害学について説明する。
12	12	18	3	リハビリテーション障害学と治療学(3)	リハビリテーション治療学について説明する。
13	12	25	3	リハビリテーション障害学と治療学(4)	リハビリテーション治療学について説明する。
14	1	8	3	リハビリテーション障害学と治療学(5)	リハビリテーション治療学について説明する。
15	1	15	3	まとめ	

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	リハビリテーション医学(全国柔道整復学校協会監修)	
	%		
	%		
	%		

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	リハビリテーション医学2	学年	2年15期生
担当者	満丸 望	期別	前期
単位数	1単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任

実務経験

一般目標 (GIO)

日本におけるリハビリテーション医学は戦後導入され、日本リハビリテーション医学会が設立されたのは昭和38年であり、まだ歴史の浅い医学である。本科目は、そのリハビリテーション医学を理解することが目標である。リハビリテーション医学1で得た医学の概略をもとに、2では各疾患におけるリハビリテーション評価と診断および治療に関する知識を修得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	10	3	リハビリテーション医学の関連職種	リハビリテーション医学の関連職種について説明する
2	4	17	3	リハビリテーション治療技術	理学療法・作業療法・言語聴覚療法について説明する
3	4	17	4	リハビリテーション治療技術	補装具について説明する
4	5	8	3	高齢者のリハビリテーション(1)	平均寿命と健康寿命について説明する。
5	5	8	4	高齢者のリハビリテーション(2)	フレイルについて説明する。
6	5	22	3	高齢者のリハビリテーション(3)	パーキンソン病・脳卒中について説明する。
7	5	22	4	運動器のリハビリテーション(1)	骨折について説明する。
8	6	5	3	運動器のリハビリテーション(2)	骨粗鬆症・捻挫について説明する。
9	6	5	4	運動器のリハビリテーション(3)	上肢損傷について説明する。
10	6	19	3	運動器のリハビリテーション(4)	下肢損傷について説明する。
11	6	19	4	運動器のリハビリテーション(5)	頸肩腕症候群について説明する。
12	7	3	3	運動器のリハビリテーション(6)	腰痛について説明する。
13	7	3	4	リハビリテーションと福祉	社会福祉・介護保険について説明する。
14	7	17	3	障害者スポーツ	障害者スポーツの概要について説明する。
15	7	17	4	障害者スポーツ	障害者スポーツについて説明する。

評価基準

教科書

参考書

筆記試験	100%	リハビリテーション医学 (全国柔道整復学校協会監修)	
	%		
	%		
	%		

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:40～14:10)

4限目 (14:20～15:50)

科目名	リハビリテーション医学3	学年	3 年 14 期生
担当者	田中 巧	期 別	前期
単位数	1 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間 15回	専任・兼任	兼任
実務経験	臨床経験を持つ教員が実際に境遇する高齢者の疾病と障害に関する講義を行う。		

一般目標(GIO)

リハビリテーション医学3において、疾病と障害の基本を理解し、出くわす傷病に対して適切な判断ができるようになる。
 本科目は高齢者の運動機能の維持・回復に対する治療の基礎となることを認識し習得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	10	1	フレイル(加齢と老化について)	フレイルの概要を理解する。
2	4	17	1	ロコモティブシンドローム	ロコモティブシンドロームの説明ができる。
3	4	24	1	サルコペニア	サルコペニアの説明ができる。
4	5	8	1	高齢者をとりまく医療制度	高齢者の医療制度を理解する。
5	5	15	1	包括支払い制度	日常生活自立判定基準が説明できる。
6	5	22	1	医療保険の算定制限	医療保険を理解する。
7	5	29	1	認知症	認知症の種類を説明できる。
8	6	5	1	高齢者虐待	高齢者虐待の概要を知る。
9	6	12	1	要介護状態の予防	要介護状態の予防を知る。
10	6	19	1	地域リハビリテーション	地域包括ケアシステムを理解する。
11	6	26	1	パーキンソン病のリハビリ	パーキンソン病を理解する。
12	7	3	1	脳卒中の概要	脳卒中の概要を理解する。
13	7	10	1	脳卒中の障害	脳卒中の障害について理解する。
14	7	17	1	脳卒中のリハビリ	脳卒中のリハビリを理解する。
15	7	24	1	まとめ	期末試験に向け、履修内容を整理する。

評価基準		教科書	参考書
期末試験	60%	リハビリテーション医学 第4版	
態度点	15%		
小テスト	25%		
	%		

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	整形外科	学年	2年15期生
担当者	川野 真太郎	期別	前期
単位数	1単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間 15回	専任・兼任	兼任
実務経験			

一般目標(GIO)

柔道整復師を養成するために必要な整形外科の専門知識ならびに技術を教授し、広く社会に貢献しうる人材を育成することを目標とする。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	4	3	運動器の基礎知識、診察法	運動機器の役割・診察法を説明する
2	4	11	3	整形外科 検査法	適切な検査法を説明する
3	4	18	3	整形外科 治療法	診察法、検査法から治療を関係づける
4	4	25	3	骨・関節損傷 総論 リハビリ総論 スポーツ整形外科 総論	骨折、関節損傷、スポーツ外傷について分類する
5	5	9	3	疾患別 各論①	感染性、非感染性について説明する
6	5	16	3	疾患別 各論②	感染性、非感染性について説明する
7	5	23	3	疾患別 各論③	全身の骨、軟部疾患について説明する
8	5	30	3	疾患別 各論④	全身の骨、軟部疾患について説明する
9	6	6	3	疾患別 各論⑤	神経麻痺、絞扼性神経障害の説明をする
10	6	13	3	身体別 各論①	体幹について説明をする
11	6	20	3	身体別 各論②	肩甲骨及び上肢の疾患を説明する
12	6	27	3	身体別 各論③	肩甲骨及び上肢の疾患を説明する
13	7	4	3	身体別 各論④	骨盤及び下肢の疾患を説明する
14	7	11	3	身体別 各論⑤	骨盤及び下肢の疾患を説明する
15	7	18	3	まとめ	講義全体について復習し総括する
評価基準				教科書	参考書
期末テスト	100%			整形外科 改訂第4版 南江堂	
	%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	衛生学・公衆衛生学1	学年	1 年 16 期生
担当者	筒井 昭仁	期 別	前期
単 位 数	1 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間・15回	専任・兼任	兼任
実務経験	歯科大学教授を歴任し、行政と協働して公衆衛生活動を行ってきた。		

一般目標 (GIO)

衛生学・公衆衛生学では、人の健康を左右する要因を理解し、人々の健康の保持、増進を図るために、これらの要因に対して科学的根拠のある対策を行うことを修得する。また、疾病予防や健康増進に寄与するよう衛生・公衆衛生の基本的な知識を身につける。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	12	2	衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動、他	衛生学・公衆衛生学の歴史・活動を説明できる。
2	4	19	2	健康の概念、人口統計、他	健康を説明できる。人口の推移を比較し、現状を説明できる。
3	5	10	2	疾病予防と健康管理-疾病の自然史、予防の段階、生活習慣病、集団検診	疾病予防と健康管理について説明できる。
4	5	17	2	感染症の予防:感染症の定義、種類、予防、対策、予防接種	感染症成立の要件を分類し、予防法を説明できる。主な感染症の動向を評価できる。
5	5	24	2	消毒の意義、分類、消毒法等	感染源に対する消毒を説明でき、院内感染への関わり方を述べる事ができる。
6	5	31	2	環境問題、物理的・化学的・生物的環境要因、空気、公害	環境とヒトの健康の関係を述べ、環境問題対策を説明できる。
7	6	7	2	食品衛生等	食品衛生を説明する事ができ、栄養と健康を関係づける事ができる。
8	6	14	2	模擬試験 1	7 回目までの講義内容の理解度を整理する。
9	6	21	2	母子保健:指標、小児保健、行政、対策 学校保健:領域と構成、学校保健管理、保健教育	母子保健・学校保健の目的と枠組が説明でき、年齢に応じた保健対策を述べる事ができる。
10	6	28	2	産業保健:目的、労働災害、作業条件による健康障害	産業保健の目的と枠組が説明でき、柔道整復師としての関わり方を述べる事ができる。
11	7	5	2	成人・老人保健、生活習慣病 精神保健:精神の病気、精神保健活動 地域保健と国際保健:地域保健活動、福祉対策、国際協力、WHO	成人・老人保健の目的と枠組が説明でき、柔道整復師としての関わり方を述べる事ができる。精神保健問題を指摘し、その対策を説明する事ができる。地域保健・国際保健を説明し、進め方
12	7	12	2	衛生行政と保健医療の制度: 組織、医療施設、医療保険、公費負担医療他	衛生行政と保健医療の制度を説明する事ができる。
13	7	19	2	医療の倫理と安全確保:問題と倫理、医療の安全の確保	医療の倫理と安全確保について柔道整復師としての関わり方を述べる事ができる。
14	7	26	2	疫学:病因論、疫学調査、調査の実施と結果分析、結果の解釈、統計手法	疫学を説明し、疫学の手法を分類し、評価する事ができる。
15	8	2	2	模擬試験2	9~14 回目までの講義内容について理解度を整理する。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	80%	南江堂 衛生学・公衆衛生学	厚生労働白書等、その他配付資料
レポート等	10%		
受講態度	10%		
	%		

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

4限目 (14:20~15:50)

科目名	衛生学・公衆衛生学2	学年	3 年 14 期生
担当者	筒井 昭仁	期 別	前期
単 位 数	1 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間・15回	専任・兼任	兼任
実務経験	歯科大学教授を歴任し、行政と協働して公衆衛生活動を行ってきた。		

一般目標 (GIO)

衛生学・公衆衛生学では、人の健康を左右する要因を理解し、人々の健康の保持、増進を図るために、これらの要因に対して科学的根拠のある対策を行うことを修得する。また、疾病予防や健康増進に寄与するよう衛生・公衆衛生の基本的な知識を身につける。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	5	3	衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動、他	衛生学・公衆衛生学の歴史・活動を説明できる。
2	4	12	3	健康の概念、人口統計、他	健康を説明する事ができ、人口の推移を比較し、現状を解説する事ができる。
3	4	19	3	疾病予防と健康管理-疾病の自然史、予防の段階、生活習慣病、集団検診	疾病予防と健康管理について説明する事ができる。
4	5	10	3	感染症の予防:感染症の定義、種類、予防、対策、予防接種	感染症成立の要件を分類し、予防法を説明する事ができる。主な感染症の動向が評価できる。
5	5	17	3	消毒の意義、分類、消毒法等	感染源に対する消毒が説明でき、院内感染への関わり方を述べる事ができる。
6	5	24	3	環境問題、物理的・化学的・生物的環境要因、空気、公害	環境とヒトの健康の関係を述べ、環境問題対策を説明する事ができる。
7	5	31	3	食品衛生等	食品衛生が説明でき、栄養と健康を関係づける事ができる。
8	6	7	3	模擬試験 1	7回目までの講義内容の理解度を整理する。
9	6	14	3	母子保健:指標、小児保健、行政、対策 学校保健:領域と構成、学校保健管理、保健教育	母子保健・学校保健の目的と枠組が説明でき、年齢に応じた保健対策を述べる事ができる。
10	6	21	3	産業保健:目的、労働災害、作業条件による健康障害	産業保健の目的と枠組が説明でき、柔道整復師としての関わり方を述べる事ができる。
11	6	28	3	成人・老人保健、生活習慣病 精神保健:精神の病気、精神保健活動 地域保健と国際保健:地域保健活動、福祉対策 国際協力 WHO	成人・老人保健の目的と枠組が説明でき、柔道整復師としての関わり方を述べる事ができる。 精神保健問題を指摘し、その対策を解説する事ができる。地域保健・国際保健を説明し、進め方を述べる事ができる。
12	7	5	3	衛生行政と保健医療の制度: 組織、医療施設、医療保険、公費負担医療他	衛生行政と保健医療の制度を説明する事ができる。
13	7	12	3	医療の倫理と安全確保:問題と倫理、医療の安全の確保	医療の倫理と安全確保について柔道整復師としての関わり方を述べる事ができる。
14	7	19	3	疫学:病因論、疫学調査、調査の実施と結果分析、結果の解釈、統計手法	疫学を説明し、疫学の手法を分類し、評価できる。
15	7	26	3	模擬試験2	9～14回目までの講義内容について理解度を整理する。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	80%	南江堂 衛生学・公衆衛生学	厚生労働白書等、その他配付資料
レポート等	10%		
受講態度	10%		
	%		

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:40～14:10)

4限目 (14:20～15:50)

科目名	医学史1	学年	2年15期生
担当者	町田 正直	期別	前期
単位数	1単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任
実務経験	教員歴:専任教員5年		

一般目標(GIO)

- 柔道整復師の養成課程において、
1. 柔道の理念を理解する。
 2. 柔道の技を身につける。
 3. 柔道の受け身を身につける。
 4. 急性期の怪我のリスクについて理解する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	5	2	柔道の歴史及び柔道衣の着用方法と礼法、受け身	柔道衣を一人で着ることができる。柔道の創設経緯について理解する。
2	4	12	2	柔道の歴史及び柔道衣の着用方法と礼法、受け身	柔道衣を一人で着ることができる。柔道の創設経緯について理解する。
3	4	19	2	姿勢・組み方、歩み方崩しと体さばき	自然体から継足と歩足を使って移動できる。歩みと体さばきを巧みに使い、相手の体勢を崩すことができる。
4	5	10	2	姿勢・組み方、歩み方崩しと体さばき	自然体から継足と歩足を使って移動できる。歩みと体さばきを巧みに使い、相手の体勢を崩すことができる。
5	5	17	2	足技と足技に対する受身-導入-	受の姿勢が低い状態で、支釣込足で投げるができる。支釣込足に対して、受身を取ることができる。
6	5	24	2	足技と足技に対する受身-導入-	受の姿勢が低い状態で、支釣込足で投げるができる。支釣込足に対して、受身を取ることができる。
7	5	31	2	足技と足技に対する受身-発展-	体さばきを巧みに使い、支釣込足で投げるができる。支釣込足に対して、受身を取ることができる。
8	6	7	2	足技と足技に対する受身-発展-	体さばきを巧みに使い、支釣込足で投げるができる。支釣込足に対して、受身を取ることができる。
9	6	14	2	足技と足技に対する受身-発展-	体さばきを巧みに使い、支釣込足で投げるができる。支釣込足に対して、受身を取ることができる。
10	6	21	2	足技と足技に対する受身-応用-	歩みと体さばきを巧みに使い、支釣込足で投げるができる。支釣込足に対して、受身を取ることができる。
11	6	28	2	足技と足技に対する受身-応用-	歩みと体さばきを巧みに使い、支釣込足で投げるができる。支釣込足に対して、受身を取ることができる。
12	7	5	2	足技と足技に対する受身-応用-	歩みと体さばきを巧みに使い、支釣込足で投げるができる。支釣込足に対して、受身を取ることができる。
13	7	12	2	腰技と腰技に対する受身-導入-	体さばきを巧みに使い、大腰で投げるができる。大腰に対して、受身を取ることができる。
14	7	19	2	腰技と腰技に対する受身-導入-	体さばきを巧みに使い、大腰で投げるができる。大腰に対して、受身を取ることができる。
15	7	26	2	腰技と腰技に対する受身-導入-	体さばきを巧みに使い、大腰で投げるができる。大腰に対して、受身を取ることができる。

評価基準		教科書	参考書
期末試験	100%		
	%		
	%		
	%		

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	医学史2	学年	2年15期生
担当者	町田 正直	期別	後期
単位数	1単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任
実務経験	教員歴:専任教員5年		

一般目標(GIO)

- 柔道整復師の養成課程において、
1. 柔道の理念を理解する。
 2. 急性期の怪我のリスクについて理解する。
 3. 投の形の中で、手技、腰技、足技の形を覚える。
 4. 投の形の中で、手技、腰技、足技に対する受け身を覚える。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	5	1	腰技と腰技に対する受身-発展-	体さばきを巧みに使い、釣込腰で投げることができる。 釣込腰に対して、受け身を取ることができる。
2	4	12	1	腰技と腰技に対する受身-発展-	体さばきを巧みに使い、釣込腰で投げることができる。 釣込腰に対して、受け身を取ることができる。
3	4	19	1	腰技と腰技に対する受身-応用-	歩みと体さばきを巧みに使い、釣込腰で投げることができる。 釣込腰に対して、受け身を取ることができる。
4	5	10	1	腰技と腰技に対する受身-応用-	歩みと体さばきを巧みに使い、釣込腰で投げることができる。 釣込腰に対して、受け身を取ることができる。
5	5	17	1	手技と手技に対する受身-導入-	体さばきを巧みに使い、背負投で投げることができる。 背負投に対して、受け身を取ることができる。
6	5	24	1	手技と手技に対する受身-導入-	体さばきを巧みに使い、背負投で投げることができる。 背負投に対して、受け身を取ることができる。
7	5	31	1	手技と手技に対する受身-発展-	体さばきと歩みを巧みに使い、背負投で投げることができる。 背負投に対して、受け身を取ることができる。
8	6	7	1	手技と手技に対する受身-発展-	体さばきと歩みを巧みに使い、背負投で投げることができる。 背負投に対して、受け身を取ることができる。
9	6	14	1	足技と足技に対する受身-発展-	体さばきを巧みに使い、支釣込足で投げることができる。 支釣込足に対して、受け身を取ることができる。
10	6	21	1	手技と手技に対する受身-応用-	相手の動作に応じて、背負投で投げることができる。 背負投に対して、受け身を取ることができる。
11	6	28	1	手技と手技に対する受身-応用-	相手の動作に応じて、背負投で投げることができる。 背負投に対して、受け身を取ることができる。
12	7	5	1	足技、腰技、手技の復習	支釣込足、釣込腰、背負投で投げることができる。 支釣込足、釣込腰、背負投に対して、受け身を取ることができる。
13	7	12	1	足技、腰技、手技の復習	支釣込足、釣込腰、背負投で投げることができる。 支釣込足、釣込腰、背負投に対して、受け身を取ることができる。
14	7	19	1	約束乱取	動きの中から支釣込足、釣込腰、背負投、大腰を用いて相手を投げる事ができる。
15	7	26	1	約束乱取	動きの中から支釣込足、釣込腰、背負投、大腰を用いて相手を投げる事ができる。

評価基準		教科書	参考書
期末試験	100%		
	%		
	%		
	%		

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	医学史3	学年	3 年 13 期生
担当者	町田 正直	期 別	前期
単 位 数	1 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任
実務経験	教員歴:専任教員5年		

一般目標(GIO)

- 柔道整復師の養成課程において、
1. 柔道の理念を理解する。
 2. 急性期の怪我のリスクについて理解する。
 3. 投の形の中で、手技、腰技、足技の形を覚える。
 4. 投の形の中で、手技、腰技、足技に対する受け身を覚える。
 5. 約束乱取ができる。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	5	2	腰技と腰技に対する受身-発展-	体さばきを巧みに使い、釣込腰で投げることができる。 釣込腰に対して、受身を取ることができる。
2	4	12	2	腰技と腰技に対する受身-発展-	体さばきを巧みに使い、釣込腰で投げることができる。 釣込腰に対して、受身を取ることができる。
3	4	19	2	腰技と腰技に対する受身-応用-	歩みと体さばきを巧みに使い、釣込腰で投げることができる。 釣込腰に対して、受身を取ることができる。
4	5	10	2	腰技と腰技に対する受身-応用-	歩みと体さばきを巧みに使い、釣込腰で投げることができる。 釣込腰に対して、受身を取ることができる。
5	5	17	2	手技と手技に対する受身-導入-	体さばきを巧みに使い、背負投で投げることができる。 背負投に対して、受身を取ることができる。
6	5	24	2	手技と手技に対する受身-導入-	体さばきを巧みに使い、背負投で投げることができる。 背負投に対して、受身を取ることができる。
7	5	31	2	手技と手技に対する受身-発展-	体さばきと歩みを巧みに使い、背負投で投げることができる。 背負投に対して、受身を取ることができる。
8	6	7	2	手技と手技に対する受身-発展-	体さばきと歩みを巧みに使い、背負投で投げることができる。 背負投に対して、受身を取ることができる。
9	6	14	2	足技と足技に対する受身-発展-	体さばきを巧みに使い、支釣込足で投げることができる。 支釣込足に対して、受身を取ることができる。
10	6	21	2	手技と手技に対する受身-応用-	相手の動作に応じて、背負投で投げることができる。 背負投に対して、受身を取ることができる。
11	6	28	2	手技と手技に対する受身-応用-	相手の動作に応じて、背負投で投げることができる。 背負投に対して、受身を取ることができる。
12	7	5	2	足技、腰技、手技の復習	支釣込足、釣込腰、背負投で投げることができる。 支釣込足、釣込腰、背負投に対して、受身を取ることができる。
13	7	12	2	足技、腰技、手技の復習	支釣込足、釣込腰、背負投で投げることができる。 支釣込足、釣込腰、背負投に対して、受身を取ることができる。
14	7	19	2	約束乱取	動きの中から支釣込足、釣込腰、背負投、大腰を用いて相手を投げる事ができる。
15	7	26	2	約束乱取	動きの中から支釣込足、釣込腰、背負投、大腰を用いて相手を投げる事ができる。

評価基準		教科書	参考書
期末試験	100%		
	%		
	%		
	%		

科目名	関係法規1		学年	1 年 16 期生	
担当者	徳安琢磨		期別	後期	
単位数	1 単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	30時間・15回		専任・兼任	専任	
実務経験	臨床経験を持つ教員が関係法規において、柔道整復師法や医療法の法律を理解するうえで教科書を使いながら解説する。				
一般目標 (GIO)					
柔道整復師法や医療法などを学び、柔道整復師の社会状況を認識する。また、その社会状況を認識したうえで、柔道整復師となった後の業に活かすことを目標とする。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	10	1	1	リスクマネジメント	事故発生の防止や事故が起きた場合の対応方法、再発防止について理解する。
2	10	8	1	柔道整復師法(総則)	柔道整復師の業について理解する。
3	10	15	1	柔道整復師法(免許)	柔道整復師免許について理解する。
4	10	22	1	柔道整復師法(免許)	柔道整復師免許について理解する。
5	10	29	1	柔道整復師法 (柔道整復師国家試験)	国家試験受験の注意点と国家試験合格証書、合格証明書について理解する。
6	11	5	1	柔道整復師法(業務)	柔道整復師の業務範囲、秘密を守る義務を理解する。
7	11	12	1	柔道整復師法(施術所)	施術所の届出、構造設備基準、施術所に対する監督を理解する。
8	11	19	1	柔道整復師法(雑則)	広告の制限について理解する。
9	11	26	1	柔道整復師法(罰則)	柔道整復師法に違反した際の罰則を理解する。
10	12	3	1	医師法	医師免許の欠格事由、免許の取消し、業務停止、再免許について理解する。
11	12	10	1	医師法 歯科医師法	医師の応召義務、無診察診療の禁止、
12	12	17	1	歯科医師法	歯科医師免許の欠格事由、免許の取消し、業務停止、再免許について理解する。
13	12	24	1	医療法	病院・診療所の定義、類似名称の使用制限、地域医療支援病院について理解する。
14	1	14	1	医療法	特定機能病院、医療安全支援センター、病床の種類について理解する。
15	1	c	1	医療従事者の資格法	医療従事者の資格法の差異や業務を理解する。
評価基準			教科書		参考書
期末試験		100%	関係法規 2023年版		
		%			
		%			
		%			

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	関係法規2		学年	3年 14期生	
担当者	徳安琢磨		期別	前期	
単位数	1単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	30時間・15回		専任・兼任	専任	
実務経験	臨床経験を持つ教員が関係法規において、柔道整復師法や医療法の法律を理解するうえで教科書を使いながら解説する。				
一般目標 (GIO)					
柔道整復師法や医療法などを学び、柔道整復師の社会状況を認識する。 また、その状況を認識したうえで自らが目指す柔道整復師としての将来のビジョンを考えることを目標とする。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	16	1	インフォームド・コンセント インフォームド・アセント	患者に対する説明と同意を得ることの重要性を理解する。
2	4	23	1	個人情報の保護	個人情報の取り扱いの注意点を理解する。
3	5	7	1	リスクマネジメント	事故発生の防止や事故が起きた場合の対応方法、再発防止について理解する。
4	5	14	1	柔道整復師法 (総則) (免許)	柔道整復師の業について理解する。 柔道整復師免許について理解する。
5	5	21	1	柔道整復師法 (免許)	柔道整復師免許について理解する。
6	5	28	1	柔道整復師法 (柔道整復師国家試験)	国家試験受験の注意点と国家試験合格証書、合格証明書について理解する。
7	6	4	1	柔道整復師法 (業務)	柔道整復師の業務範囲、秘密を守る義務を理解する。
8	6	11	1	柔道整復師法 (施術所)	広告の制限および柔道整復師法に違反した際の罰則を理解する。
9	6	18	1	柔道整復師法 (雑則) (罰則)	広告の制限および柔道整復師法に違反した際の罰則を理解する。
10	6	25	1	医師法	医師免許の欠格事由、免許の取消し、業務停止、再免許について理解する。
11	7	2	1	医師法 歯科医師法	医師の応召義務、無診察診療の禁止、歯科医師免許の欠格事由、免許の取消し、業務停止、再免許について理解する。
12	7	9	1	医療法	病院・診療所の定義、類似名称の使用制限、地域医療支援病院について理解する。
13	7	16	1	医療法	特定機能病院、医療安全支援センター、病床の種類について理解する。
14	7	23	1	医療従事者の資格法	医療従事者の資格法の差異や業務を理解する。
15	7	30	1	社会福祉 社会保険関係	社会福祉の概要、法について理解する。
評価基準			教科書		参考書
期末試験	100%		関係法規 2021年度版		
	%				
	%				
	%				

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

4限目 (14:20~15:50)

科目名	職業倫理		学年	1 年 16 期生	
担当者	徳安琢磨		期別	後期	
単位数	1 単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	15時間 8回		専任・兼任	専任	
実務経験	臨床経験を持つ教員が柔道整復師の職業倫理について教科書を用いて解説する。				
一般目標(GIO)					
柔道整復師になるにあたって重要な倫理観を身につける。また患者と日々接するなかで起こりうるアクシデントなどへの対応方法について考え、柔道整復師となった後に起こる様々なアクシデントに対して適切な対応ができる力を身につけることを目標とする。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	9	30	1	医療従事者の職業倫理	職業倫理とはどういうものを理解する。
2	10	7	1	医療従事者の職業倫理	従来の倫理観と現代的倫理観の違いを理解する。
3	10	21	1	柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応	インフォームド・コンセント インフォームド・アセントを理解する。
4	11	11	1	柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応	守秘義務について理解する。
5	11	18	1	柔道整復師の社会的責任と対応	医療(診療)契約の範囲について理解する。 医療事故の対応について理解する。
6	11	25	1	柔道整復師の社会的責任と対応	患者からの暴言などに対する対応、施術料未払いの患者が再来院した場合の対応について理解する。
7	12	2	1	医療における情報と責任	個人情報の保護に関する法律を理解する。
8	12	9	1	医療における情報と責任	SNS等を用いた業務に関する情報発信の注意点を理解する。
評価基準			教科書		参考書
期末試験	100%	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理			
	%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	競技者の外傷予防	学年	3 年 14 期生
担当者	星野 英二	期 別	後期
単 位 数	1 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	15時間 15回	専任・兼任	兼任
実務経験			

一般目標 (GIO)

競技者特有の外傷・傷害に対し、治療・施術を行うだけでなく、運動生理学の観点から効果的な予防対策を実践していくことができる知識・技術を獲得することを目的とする。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	9	26	1	運動生理学 I	運動のメリット・デメリット, エネルギー代謝について説明できる.
2	10	3	1	運動生理学 II	運動と骨・筋肉および呼吸・循環との関係を理解できる.
3	10	10	1	運動生理学 III	運動とホルモンの関係, 競技者の特徴を理解できる.
4	10	17	1	競技者の外傷予防 I	外傷予防の概要を理解できる.
5	10	24	1	競技者の外傷予防 II	外傷予防の発生要因を理解し, 予防策を考えられる.
6	10	31	1	メディカルチェック	関節弛緩性, 筋のタイトネスなどを測定することができる.
7	11	7	1	コンディショニング	外傷予防に必要なコンディショニングの方法を理解できる.
8	11	14	1	確認筆記試験	筆記テストを行うことで知識を深く理解できる.
9	11	21	1	肩関節の外傷予防	肩関節外傷のメカニズムを理解し, 予防トレーニングを実践できる.
10	11	28	1	体幹の外傷予防	体幹の外傷メカニズムを理解し, 予防トレーニングを実践できる.
11	12	5	1	膝関節の外傷予防	肩関節外傷のメカニズムを理解し, 予防トレーニングを実践できる.
12	12	12	1	足関節の外傷予防	足関節外傷のメカニズムを理解し, 予防トレーニングを実践できる.
13	12	19	1	成長期の外傷予防	成長期の外傷メカニズムを理解し, 予防トレーニングを実践できる.
14	12	26	1	高齢者の外傷予防	高齢者の外傷メカニズムを理解し, 予防トレーニングを実践できる.
15	1	9	1	第1~14回の総復習	1~14回の内容をまとめより深く理解できる.

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	競技者の外傷予防 生理学(改訂第4版)	
	%		
	%		
	%		

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

4限目 (14:20~15:50)

科目名	社会保障制度	学年	1 年 16 期生
担当者	徳安琢磨	期別	後期
単位数	1 単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	15時間 7回	専任・兼任	専任
実務経験	臨床経験を持つ教員が社会保障制度の仕組みや療養費の仕組み、取扱い方について教科書を用いて解説する。		

一般目標(GIO)

社会保障制度にはどのようなものがあり、それぞれにどのような役割があるかを理解する。また、療養費についての取扱いについても理解し、柔道整復師となった後に適切な取扱いができるようになることを目標とする。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	12	16	1	社会保障制度について	社会保障の機能、社会保険制度、年金制度を理解する。
2	12	23	1	社会保障制度について	介護保険制度、社会福祉制度の種類を理解する。
3	1	6	1	社会保障制度について	国民医療費に含まれるもの、国民医療費の現状、国民医療費のうち柔道整復療養費が含まれる割合。
4	1	20	1	療養費について	医療保険の種類、療養の給付、療養費払いについて理解する。
5	1	22	1	療養費について	給付方式、支給条件、受領委任払いと償還払い方式を理解する。
6	1	23	1	療養費について	施術管理者、受領委任の取扱いができる場所、施術録や領収書などの取扱いを理解する。
7	1	27	1	療養費について	療養費の算定について理解する。
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

評価基準		教科書	参考書
期末試験	100%	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理	
	%		
	%		
	%		

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	基礎柔道整復学1	学年	1 年 16 期生
担当者	田中 満	期 別	前期
単位数	1単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間・15回	専任・兼任	専任
実務経験	臨床経験を持つ教員が基礎柔道整復学1において教科書を使いながら解説する。		

一般目標 (GIO)

本科目は根拠や理論に基づいた柔道整復術をおこなえるように、骨に関する解剖学や生理学及び骨折の基礎知識を修得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	10	2	骨の構造	骨の構造を十分に理解し、説明できる。
2	4	17	2	骨の形態と機能	骨の機能など図示し、説明できる。
3	4	24	2	骨折の分類	骨の性状などを理解し、各骨折の違いが説明ができる。
4	5	8	2	骨損傷の分類	不全骨折の種類を特に理解する。
5	5	15	2	骨折線の走行による分類	様々な骨折線の走行を理解し説明できる。
6	5	22	2	外力の働き方による分類	特に屈曲骨折を十分に理解する。
7	5	29	2	骨折の固有症状	一般外傷症状との違いを理解する。
8	6	5	2	合併症①(併発症)	併発症について説明できる。
9	6	12	2	合併症②(続発症)	続発症について説明できる。
10	6	19	2	合併症③(後遺症)	後遺症について説明できる。
11	6	26	2	小児骨折①	小児骨折について説明できる。
12	7	3	2	小児骨折②	小児と高齢者の骨折の違いを理解し説明できる。
13	7	10	2	高齢者骨折	高齢者骨折について説明できる。
14	7	17	2	骨折の癒合・治癒経過	骨の治癒について説明できる。
15	7	24	2	骨折の予後	好適因子・不適因子の違いを十分理解し説明できる。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	柔道整復学・理論編 改定第7版	
	%	解剖学	
	%	生理学	
	%		

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	基礎柔道整復学2		学年	1 年 16 期生	
担当者	徳安琢磨		期別	前期	
単位数	1 単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	30時間 15回		専任・兼任	専任	
実務経験	臨床経験を持つ教員が関節や関節を構成する組織の損傷、神経損傷について教科書を用いて解説する。				
一般目標(GIO)					
個々の外傷を学ぶ前段階として関節の構造や関節を構成する組織の損傷、神経の構造と機能および神経損傷の基本的なことがらを理解することを目的とする。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	11	3	関節の構造	関節の基本的な構造を理解する。
2	4	18	3	関節構成組織	関節を構成する各組織の役割を理解する。
3	4	25	3	関節構成組織	関節を構成する各組織の役割を理解する。
4	5	9	3	関節部損傷の概説 関節部損傷の分類	脱臼、捻挫の定義を理解する。 関節部損傷の分類における分け方を理解する。
5	5	16	3	靭帯・関節包の損傷	靭帯損傷の程度による分類、症状、治癒機序を理解する。
6	5	23	3	関節周辺の筋・腱損傷 関節軟骨損傷	関節軟骨損傷の発生機序、分類、症状、治癒機序を理解する。
7	5	30	3	その他関節構成組織の損傷	関節唇、関節円板および半月、滑液包、関節部に分布もしくは通過している神経、血管の損傷を理解する。
8	6	6	3	筋の構造と機能	筋の基本的な構造と機能を理解する
9	6	13	3	筋損傷の分類	各筋損傷の分類における分け方を理解する。
10	6	20	3	筋損傷の症状 筋損傷の治癒機序 筋損傷の予後	筋損傷の症状、治癒機序、予後を理解する
11	6	27	3	腱の構造と機能	腱の基本的な構造と機能を理解する。
12	7	4	3	腱損傷の分類	各腱損傷の分類における分け方を理解する。
13	7	11	3	腱損傷の症状 腱損傷の治癒機序	腱損傷の症状 腱損傷の治癒機序を理解する。
14	7	8	3	神経の構造と機能 神経損傷の分類	神経の基本的な構造と機能を理解する。 各神経損傷の分類の分け方を理解する。
15	7	25	3	末梢神経損傷の症状 末梢神経損傷の治癒過程	末梢神経損傷の症状、治癒過程を理解する。
評価基準			教科書		参考書
期末試験	100%	柔道整復学・理論編 改定第7版			
	%	柔道整復学・実技編 改訂第2版			
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	基礎柔道整復学3	学年	1 年 16 期生
担当者	橋本 紘太郎	期 別	前期
単位数	1 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間 15回	専任・兼任	兼任
実務経験	臨床経験を持つ教員が基礎柔道整復学3において柔道整復学の基礎となるものを教科書を使いながら解説する。		

一般目標(GIO)

柔道整復師の理論に基づいた基本的な業務内容についての確に修得するために、
本学科では、診察方法、治療法の基礎、指導管理等を修得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	16	4	診察時の注意点・診察手順の概説	患者に対する心構え・姿勢を理解する
2	4	23	4	診察の時期による分類	治療が計画的に進んでいるかを確認する
3	5	7	4	整復法	整復について根本的な部分を理解する
4	5	14	4	骨折の整復法	骨折の整復法について理解する
5	5	21	4	脱臼の整復法・徒手整復後の確認と配慮	脱臼の整復法について理解する
6	5	28	4	軟部組織損傷の初期処置	軟部組織損傷の処置について理解する
7	6	4	4	固定施行時の配慮	患者への配慮を理解する
8	6	11	4	固定後の配慮	患者への配慮を理解する
9	6	18	4	後療法・手技療法	手技療法について理解する
10	6	25	4	運動療法	運動療法について理解する
11	7	2	4	運動療法	運動療法について理解する
12	7	9	4	運動療法	運動療法について理解する
13	7	16	4	指導管理	患者への治療全体の指導内容を理解する
14	7	23	4	外傷予防	患者への治療全体の指導内容を理解する
15	7	30	4	総復習	今期の内容の理解を深める
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	柔道整復学・理論編 改訂第7版			
	%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	基礎柔道整復学4		学年	1 年 16 期生	
担当者	南島孝信		期別	後期	
単位数	1 単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	30H・15回		専任・兼任	専任	
実務経験	臨床経験を持つ教員が、脱臼の分類や症状、合併症などを教科書を用いて解説する。その他、軟部組織損傷に関しても要点を解説する。				
一般目標 (GIO)					
脱臼の定義および分類の仕方、症状、合併症などの基本的な部分について理解し、各関節の脱臼を学ぶ際に活かせるようにすることを目標とする。また、脱臼に付随して起こる軟部組織の損傷についても理解することを目標とする。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	10	4	3	脱臼の定義	脱臼の定義を理解する。
2	10	11	3	脱臼の分類	関節の性状による分類を理解する。 関節面相互による位置による分類を理解する。
3	10	18	3	脱臼の分類	脱臼の数による分類を理解する。 外力の働いた部位による分類を理解する。
4	11	1	3	脱臼の分類	脱臼の発生時期による分類を理解する。 受傷後の経過を理解する。
5	11	8	3	脱臼の分類	脱臼の頻度と機序による分類を理解する。
6	11	15	3	脱臼の症状	一般外傷症状と固有症状を理解する。
7	11	29	3	脱臼の合併症	脱臼に合併しておこる骨折や各軟部組織の損傷などについて理解する。
8	12	6	3	脱臼の整復障害	脱臼の整復障害因子を理解する。
9	12	13	3	脱臼の経過と予後	脱臼の異常経過や後遺症について理解する。
10	12	20	3	靭帯・関節包の損傷	損傷の程度による分類を理解する。 症状および治癒機序を理解する。
11	12	27	3	関節軟骨損傷	症状および治癒機序を理解する。
12	1	10	3	筋の損傷	筋損傷の程度による分類、治癒機序を理解する。
13	1	17	3	腱の損傷	腱損傷の程度による分類、治癒機序を理解する。
14	1	24	3	末梢神経の損傷	セドンの分類・サンダーランドの分類を理解する。
15	1	31	3	末梢神経の損傷	症状、治癒過程を理解する。
評価基準			教科書		参考書
期末試験	100%	柔道整復学理論・理論編 改訂第7版			
	%	柔道整復学理論・実技編 改訂第2版			
	%				
	%				

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

4限目 (14:20~15:50)

科目名	基礎柔道整復学5	学年	3 年 14 期生
担当者	星野 英二	期 別	前期
単 位 数	1 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間 15回	専任・兼任	兼任
実務経験			

一般目標(GIO)

1. 柔道整復術及び柔道整復師の沿革, 業務範囲, 社会保険医療制度, 倫理綱領について理解する.
2. 組織の損傷によって発生する痛みのメカニズムを生理学的観点から理解し評価・アプローチなどにつなげていく.

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	4	3	柔道整復術の沿革	柔道整復術の体系化に寄与した代表的な人物を学び, 柔道整復術が公認されるまでの経緯を理解する.
2	4	11	3	柔道整復師の沿革	柔道整復師法の成立から指導要領の制定されるまでの経緯を理解する.
3	4	18	3	柔道整復術の現代的意義	現代における柔道整復師の役割をを理解する.
4	4	25	3	業務範囲およびX線と附帯決議	業務範囲に対する行政の見解を含めて理解する.
5	5	9	3	療養費と受領委任払い制度	現在の社会保険医療における現物給付, 現金給付などの制度を理解する.
6	5	16	3	人体に加わる力	静力学的荷重, 静力学的能動力などについて理解する.
7	5	23	3	損傷時に加わる力	急性, 亜急性の定義について理解する.
8	5	30	3	損傷時の力の種類	直達外力, 介達外力について理解する.
9	6	6	3	損傷時の力に影響を与える要素	力の方向や作用時間, 作用回数などがあることを理解する.
10	6	13	3	痛みの種類	侵害受容性, 神経因性・心因性の疼痛について理解する,
11	6	20	3	痛みのメカニズム(運動器)	A δ 線維とC線維の機能の違いを理解する.
12	6	27	3	急性痛と慢性痛	急性痛と慢性痛の違いを生理学的観点から理解する.
13	7	4	3	痛みの評価	NRS, VAS, フェイススケールなどの評価表を理解する.
14	7	11	3	痛みへのアプローチ	運動療法, 物理療法など生理学的観点から理解する.
15	7	18	3	総復習	第1~14回の重点項目について理解を深める.

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	柔道整復学・理論編(改訂第6版)	
	%	生理学(改訂第4版)	
	%		
	%		

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	基礎柔道整復学6	学年	3 年 14 期生
担当者	樋口大夢	期別	後期
単位数	1 単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任
実務経験	臨床経験を持つ教員が基礎柔道整復学6において、柔道整復師の臨床において業務の基礎となる、各組織損傷の概要や特徴について、基本的な知識を修得するための講義を行う。		

一般目標 (GIO)

本科目は、柔道整復師の業務範囲である骨折・脱臼・捻挫・打撲・挫傷などの外傷ならびに障害の概要や特徴を学び、臨床的知識・能力を習得することを目的とする。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	9	25	4	骨の損傷①	骨損傷についての概要・特徴を理解し説明できる。
2	10	2	4	関節の損傷①	関節損傷についての概要・特徴を理解し説明できる。
3	10	9	4	筋の損傷①	筋損傷についての概要・特徴を理解し説明できる。
4	10	16	4	腱の損傷①	腱損傷についての概要・特徴を理解し説明できる。
5	10	23	4	神経の損傷①	神経損傷についての概要・特徴を理解し説明できる。
6	10	30	4	骨の損傷②	骨折の分類や症状、合併症について理解し説明できる。
7	11	6	4	関節の損傷②	脱臼の分類や症状、合併症について理解し説明できる。
8	11	13	4	筋の損傷②	筋損傷の分類や症状、合併症について理解し説明できる。
9	11	20	4	腱の損傷②	腱損傷の分類や症状、治癒機序について理解し説明できる。
10	11	27	4	神経の損傷②	神経損傷の分類や症状、治癒機序について理解し説明できる。
11	12	4	4	骨の損傷③	小児・高齢者骨折について理解し説明できる。
12	12	11	4	関節の損傷③	関節損傷の予後や、鑑別を要する類症について理解し説明できる。
13	12	18	4	筋の損傷③	筋損傷の予後や、治癒機序について理解し説明できる。
14	12	25	4	骨の損傷④	骨折の癒合日数、治癒経過について理解し説明できる。
15	1	8	4	骨の損傷⑤	骨折の予後や、治癒に影響を与える因子について理解し説明できる。

評価基準		教科書	参考書
期末テスト	100%	柔道整復学・実技編 柔道整復学・理論編	プロメテウス解剖学 標準整形外科
	%		
	%		
	%		

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

4限目 (14:20~15:50)

科目名	基礎柔道整復学 7	学年	3年 14期生
担当者	徳安琢磨	期別	前期
単位数	1単位	講義・実習	座学
時間数・授業回数	30時間 15回	専任・兼任	専任
実務経験	接骨院・機能訓練業務6年・専任教員6年		

一般目標 (GIO)

本科目は、柔道整復師になるために必要な整復、固定、後療法及び指導管理について学ぶ

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	8	1	整復法Ⅰ	徒手整復施行時の配慮が理解できる
2	4	15	1	整復法Ⅱ	骨折の整復法が理解できる
3	4	22	1	整復法Ⅲ	脱臼の整復法が理解できる
4	5	13	1	整復法Ⅳ	徒手整復後の確認と配慮ができる
5	5	20	1	整復法Ⅴ	軟部組織損傷の初期処置が理解できる
6	5	27	1	固定法Ⅰ	固定施行時の配慮が理解できる
7	6	3	1	固定法Ⅱ	固定後の配慮が理解できる
8	6	10	1	後療法Ⅰ	後療法についての用量が理解できる
9	6	17	1	後療法Ⅱ	後療法についての準備が理解できる
10	6	24	1	後療法Ⅲ	後療法についての手技療法が理解できる
11	7	1	1	後療法Ⅳ	後療法についての運動療法が理解できる
12	7	8	1	後療法Ⅴ	後療法についての物理療法が理解できる
13	7	22	1	指導管理Ⅰ	患者とその環境の把握が理解できる
14	7	29	1	指導管理Ⅱ	患者の環境に対する指導管理が理解できる
15	8	5	1	指導管理Ⅲ	患者の自己管理に対する指導が理解できる
評価基準			教科書		参考書
期末試験		100%	柔道整復学 理論編・実技編		
		%			
		%			
		%			

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

科目名	基礎柔道整復学8	学年	3 年 14 期生
担当者	徳安琢磨	期別	後期
単位数	1 単位	講義・実習	実技
時間数・授業回数	30時間 15回	専任・兼任	専任
実務経験	接骨院・機能訓練業務6年・専任教員6年		

一般目標(GIO)

臨床柔道整復学8において、頭部・頸部の損傷の概要や特徴を学ぶ。

正しく鑑別出来る知識を習得し、柔道整復師として対応できる整復法、固定法、治療法を身につける。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	9	25	3	頭部・顔面部の解剖と機能 頭部・顔面部の骨折①	頭部・顔面部の機能解剖を理解し頭蓋冠骨折の骨折の種類を学ぶ。
2	10	2	3	頭部・顔面部の骨折②	頭部外傷時対応マニュアルを理解する。頭蓋底骨折の特徴を学ぶ。
3	10	9	3	頭部・顔面部の骨折③	顔面部の骨折の特徴を理解する。
4	10	16	3	顎関節脱臼	顎関節脱臼の分類、特徴、整復法を学ぶ。
5	10	23	3	頭部・顔面部の軟部組織損傷①	頭部、顔面部の打撲の特徴、顎関節症の分類を理解する。
6	10	30	3	頭部・顔面部の軟部組織損傷②	顎関節症の各々の特徴と外傷性顎関節捻挫について理解する。
7	11	6	3	頸椎の解剖と機能 頸椎の骨折①	頸椎の機能解剖を理解し、上位頸椎骨折の分類とそれぞれを理解する。
8	11	13	3	頸椎の骨折②	中・下位頸椎骨折の分類とそれぞれの特徴を理解する。
9	11	20	3	頸部の脱臼 軟部組織損傷①	頸椎脱臼の特徴、外傷性頸部症候群(むちうち)の分類と特徴を理解する。
10	11	27	3	頸部の軟部組織損傷②	胸郭出口症候群の分類や特徴、寝違えの特徴を理解する。
11	12	4	3	頸部 注意すべき疾患①	斜頸、頸部椎間板ヘルニアの特徴を理解し、テスト法を確認する。
12	12	11	3	頸部 注意すべき疾患②	頸椎症、OPLL、頸椎の炎症性病変の特徴を理解する。
13	12	18	3	頸部 注意すべき疾患③	外傷性腕神経叢麻痺、分娩麻痺、副神経麻痺の特徴を理解する。
14	12	25	3	頸部 注意すべき疾患③	長胸神経麻痺、頸髄損傷、先天性奇形の特徴について理解する。
15	1	8	3	頭部・頸部の柔道整復理論まとめ	頭部から頸部のけがに対する柔道整復師としての対応を理解する。

評価基準		教科書	参考書
期末テスト	100%	柔道整復学・理論編第6版 柔道整復学・実技編第2版	
	%		
	%		

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

科目名	基礎柔道整復学9	学年	3 年 14 期生
担当者	橋本 浩二	期 別	前期
単位数	1 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	専任

実務経験 臨床経験を持つ教員が基礎柔道整復学9において柔道整復術の基本となるものを教科書を使いながら解説する。

一般目標 (GIO)

柔道整復術の理論に基づいた柔道整復術を的確に修得するために、
本学科では、下肢の軟部組織損傷の発生機序、症状、合併症、整復法等を修得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	10	2	腓骨断裂①	腓骨断裂について説明できる。
2	4	17	2	腓骨断裂②	実技編を使って整復法・固定法等を習得する。
3	4	24	2	上腕二頭筋長頭腱損傷①	上腕二頭筋長頭腱損傷について説明できる。
4	5	8	2	上腕二頭筋長頭腱損傷②	実技編を使って整復法・固定法等を習得する。
5	5	15	2	肩部のスポーツ損傷	肩部のスポーツ損傷について説明できる。
6	5	22	2	上腕部その他の疾患	上腕部その他の疾患について説明できる。
7	5	29	2	肘関節内側副靭帯損傷	実技編を使って整復法・固定法等を習得する。
8	6	5	2	野球肘・テニス肘	野球肘・テニス肘について説明できる。
9	6	12	2	前腕部の軟骨組織損傷	前腕部の軟骨組織損傷について説明できる。
10	6	19	2	前腕部抹消神経障害	前腕部抹消神経障害について説明できる。
11	6	26	2	手関節部の軟部組織損傷	前腕部の軟部組織損傷について説明できる。
12	7	3	2	手部、指部の軟部組織損傷	手部、指部の軟部組織損傷について説明できる。
13	7	10	2	その他の手指部疾患、変形	その他の手指部疾患、変形について説明できる。
14	7	17	2	ロックング指、側副靭帯損傷	実技編を使って整復法・固定法等を習得する。
15	7	24	2	マレットフィンガー	実技編を使って整復法・固定法等を習得する。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	柔道整復学・理論編 (第7版)	
	%	柔道整復学・実技編 (第2版)	
	%		
	%		

科目名	外傷の保存療法	学年	2年15期生
担当者	星野 英二	期別	前期
単位数	1単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	15時間 8回	専任・兼任	兼任
実務経験			

一般目標 (GIO)

身体各部によくみられる外傷について解剖学・運動学の観点から理解し、その外傷が保存療法の適応であるか否かを、患部の視診・触察・徒手検査などを用いて判定し、保存療法を実践できることを目標とする。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	4	4	外傷の保存療法概説	外傷の保存療法とはなにか理解する。
2	4	11	4	体幹の外傷と保存療法の適応判定	体幹のスポーツ外傷及び保存療法の適応について理解する。
3	4	18	4	体幹の外傷の保存療法と治療評価	体幹のスポーツ外傷の保存療法と評価について理解する。
4	4	25	4	上肢の外傷と保存療法の適応判定	上肢のスポーツ外傷及び保存療法の適応について理解する。
5	5	9	4	上肢の外傷の保存療法と治療評価	上肢のスポーツ外傷の保存療法と評価について理解する。
6	5	16	4	下肢の外傷と保存療法の適応判定	下肢のスポーツ外傷及び保存療法の適応について理解する。
7	5	23	4	下肢の外傷の保存療法の治療評価	下肢のスポーツ外傷の保存療法と評価について理解する。
8	5	30	4	総復習	第1～7回の重点項目を総復習し理解を深める。
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	柔道整復学・実技編(改訂第2版)	
	%	柔道整復学・理論編(改訂第6版)	
	%		
	%		

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:40～14:10)

4限目 (14:20～15:50)

科目名	臨床柔道整復学1		学年	2年 15期生	
担当者	徳安琢磨		期別	前期	
単位数	1単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	30時間・15回		専任・兼任	専任	
実務経験	臨床経験を持つ教員が頭部、脊柱の骨折、鎖骨骨折の発生原因や症状、治療法について教科書を用いて解説する。				
一般目標 (GIO)					
頭部、脊柱の骨折、鎖骨骨折の症状や治療法を学ぶ。また、頭部や脊柱の骨折は緊急性の高いものも含むので、応急手当の方法などについても理解を深め、柔道整復師となった後の業務に活かすことを目的とする。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	8	3	頭蓋冠骨折	分類、合併症、応急処置を理解する。
2	4	15	3	頭蓋底骨折	分類、各部の骨折ごとの症状、応急処置を理解する。
3	4	22	3	鼻骨骨折 上顎骨骨折	鼻骨骨折の原因、分類、症状、続発症と後遺症を理解する。 上顎骨骨折の原因と症状を理解する。
4	5	13	3	頬骨骨折 下顎骨骨折	頬骨骨折の分類、症状、合併症を理解する。 下顎骨骨折の原因、症状合併症を理解する。
5	5	20	3	ジェファーソン骨折 軸椎歯突起骨折	ジェファーソン骨折の転位の仕方、症状、治療法を理解する。 軸椎歯突起骨折の分類、予後を理解する。
6	5	27	3	ハングマン骨折 頸椎椎体楔状圧迫骨折	ハングマン骨折の発生機序、治療法を理解する。 椎体楔状圧迫骨折の好発部位、症状、治療法を理解する。
7	6	3	3	ティアドロップ骨折 椎体破裂骨折	ティアドロップ骨折の症状、治療法を理解する。 椎体破裂骨折の症状を理解する。
8	6	10	3	棘突起骨折 椎弓骨折	棘突起骨折の原因、症状、治療法を理解する。 椎弓骨折の発生機序、症状を理解する。
9	6	17	3	上部胸椎棘突起骨折 胸椎椎体圧迫骨折	上部胸椎棘突起骨折の発生機序、症状、経過を理解する。 胸椎椎体圧迫骨折の症状、固定法、予後を理解する。
10	6	24	3	胸腰椎移行部椎体圧迫骨折 下位腰椎椎体圧迫骨折	胸腰椎移行部椎体圧迫骨折の発生機序、症状、合併症、治療法を理解する。 下位腰椎椎体圧迫骨折の症状、治療法を理解する。
11	7	1	3	チャンス骨折 腰椎椎体破裂骨折	チャンス骨折の発生機序を理解する。 腰椎椎体破裂骨折の発生機序を理解する。
12	7	8	3	腰椎肋骨突起骨折 肋骨骨折	腰椎肋骨突起骨折の発生機序、症状、治療法を理解する。 肋骨骨折の発生機序、分類、症状を理解する。
13	7	22	3	肋骨骨折 胸骨骨折	肋骨骨折の合併症、治療法、固定法、後療法、予後を理解する。 胸骨骨折の分類、症状、合併症、治療法を理解する。
14	7	29	3	鎖骨骨折	原因、分類、症状を理解する。
15	8	5	3	鎖骨骨折	鑑別診断、合併症、治療法、予後を理解する。
評価基準			教科書		参考書
期末試験	100%	柔道整復学・理論編 改定第7版			
	%	柔道整復学・実技編 改定第2版			
	%				
	%				

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

4限目 (14:20~15:50)

科目名	臨床柔道整復学2	学年	2年15期生
担当者	徳安琢磨	期別	前期
単位数	1単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間・15回	専任・兼任	兼任

実務経験

臨床経験を持つ教員が臨床柔道整復学2において柔道整復術の基本となるものを教科書を使いながら解説する。

一般目標 (GIO)

柔道整復術の理論に基づいた柔道整復術を的確に修得するために、
本学科では、上肢帯部から上腕骨遠位部骨折の発生機序、症状、合併症、整復法等を修得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	4	1	肩甲骨体部・上角下角・関節窩骨折	肩甲骨部の解剖を理解し、各部の肩甲骨骨折について説明できる。
2	4	11	1	肩甲骨頸部・肩峰・烏口突起骨折	肩甲骨骨折について説明できる。
3	4	18	1	上腕骨骨頭・解剖頸骨折	上腕骨近位部の解剖を理解し、各部の上腕骨骨折について説明できる。
4	4	25	1	上腕骨外科頸骨折	上腕骨外科頸骨折について説明できる。
5	5	9	1	上腕骨大結節・小結節部骨折	上腕骨近位部骨折について説明できる。
6	5	16	1	上腕骨骨幹部骨折①	上腕骨骨幹部の解剖を理解し、上腕骨骨幹部骨折について説明できる。
7	5	23	1	上腕骨骨幹部骨折②	上腕骨骨幹部骨折について説明できる。
8	5	30	1	上腕骨顆上骨折①	上腕骨遠位部の解剖を理解し、各上腕骨骨折について説明できる。
9	6	6	1	上腕骨顆上骨折②	上腕骨顆上骨折について説明できる。
10	6	13	1	上腕骨外顆骨折①	上腕骨外顆部の発生機序を理解する。
11	6	20	1	上腕骨外顆骨折②	上腕骨外顆骨折の症状や骨片転位について説明できる。
12	6	27	1	上腕骨小頭骨折	上腕骨小頭骨折について説明できる。
13	7	4	1	上腕骨滑車骨折	上腕骨滑車骨折について説明できる。
14	7	11	1	上腕骨通過骨折	上腕骨通過骨折について説明できる。
15	7	18	1	上腕骨内側上顆骨折	上腕骨内側上顆骨折について説明できる。

評価基準

教科書

参考書

筆記試験	100%	柔道整復学・理論編 改定第7版	
	%	柔道整復学・実技編 改訂第2版	
	%		
	%		

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

4限目 (14:20~15:50)

科目名	臨床柔道整復学3	学年	2年15期生
担当者	橋本 浩二	期別	前期
単位数	1単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任

実務経験 臨床経験を持つ教員が臨床柔道整復学3において柔道整復術の基本となるものを教科書を使いながら解説する。

一般目標 (GIO)

柔道整復術の理論に基づいた柔道整復術を的確に修得するために、
本学科では、前腕近位から前腕遠位部骨折の発生機序、症状、合併症、整復法等を修得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	10	1	橈骨骨幹部骨折	橈骨骨幹部骨折について説明できる。
2	4	17	1	ガレアジ骨折	ガレアジ骨折について説明できる。
3	4	24	1	尺骨骨幹部骨折	尺骨骨幹部骨折について説明できる。
4	5	8	1	モンテギア骨折	モンテギア骨折について説明できる。
5	5	15	1	橈尺両骨骨幹部骨折①	両骨間の解剖を理解し定型的骨片転位を説明できる。
6	5	22	1	橈尺両骨骨幹部骨折②	橈尺両骨骨幹部骨折について説明できる。
7	5	29	1	橈骨遠位端部骨折	橈骨遠位端部骨折について説明できる。
8	6	5	1	コーレス骨折	実技編を使って整復法・固定法等を習得する。
9	6	12	1	スミス骨折①	スミス骨折について説明できる。
10	6	19	1	スミス骨折②	実技編を使って整復法・固定法等を習得する。
11	6	26	1	バートン骨折・ショーファー骨折	バートン骨折・ショーファー骨折について説明できる。
12	7	3	1	手根骨部の骨折	手根骨部の骨折について説明できる。
13	7	10	1	舟状骨骨折	実技編を使って整復法・固定法等を習得する。
14	7	17	1	中手骨部の骨折	中手骨部の骨折について説明できる
15	7	24	1	中主骨骨幹部骨折	実技編を使って整復法・固定法等を習得する。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	柔道整復学・理論編 (第7版)	
	%	柔道整復学・実技編 (第2版)	
	%		
	%		

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

4限目 (14:20~15:50)

科目名	臨床柔道整復学 4	学年	3年 14期生
担当者	徳安琢磨	期別	前期
単位数	1単位	講義・実習	座学
時間数・授業回数	30時間 15回	専任・兼任	専任
実務経験	接骨院・機能訓練業務6年・専任教員6年		

一般目標(GIO)

本科目は鎖骨から肘にかけての骨折、脱臼、軟部組織損傷について学ぶ

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	16	1	鎖骨部の損傷 I	鎖骨部の機能と解剖が理解できる
2	4	23	1	鎖骨部の損傷 II	鎖骨部の骨折と脱臼が理解できる
3	5	7	1	肩関節部の損傷 I	肩関節部の機能と解剖が理解できる
4	5	14	1	肩関節部の損傷 II	肩甲骨の骨折が理解できる
5	5	21	1	上腕骨近位部の骨折 I	上腕骨頭、解剖頸、外科頸の骨折が理解できる
6	5	28	1	上腕骨近位部の骨折 II	大結節、小結節、近位骨端線離開骨折の理解ができる
7	6	4	1	肩関節脱臼 I	肩関節前方脱臼、後方脱臼の理解ができる
8	6	11	1	肩関節脱臼 II	肩関節下方脱臼、上方脱臼、反復性脱臼の理解ができる
9	6	18	1	肩関節部の軟部組織損傷	筋、腱の損傷が理解できる
10	6	25	1	上腕部の損傷 I	上腕部の機能と解剖が理解できる
11	7	2	1	上腕部の損傷 II	上腕骨の骨折と軟部組織損傷が理解できる
12	7	9	1	肘関節部の損傷 I	肘関節部の機能と解剖が理解できる
13	7	16	1	肘関節部の損傷 II	上腕骨遠位部と前腕骨近位部の骨折が理解できる
14	7	23	1	肘関節脱臼	肘内障が理解できる
15	7	30	1	肘関節部の軟部組織損傷	靭帯の損傷が理解できる
評価基準				教科書	参考書
期末試験		100%	柔道整復学 理論編・実技編		
		%			
		%			
		%			

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

科目名	基礎柔道整復学3	学年	3年 14期生
担当者	橋本 紘太郎	期別	前期
単位数	1単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間 15回	専任・兼任	兼任
実務経験	臨床経験を持つ教員が基礎柔道整復学9において柔道整復術の基本となるものを教科書を使いながら解説する。		

一般目標(GIO)

柔道整復術の理論に基づいた柔道整復術を的確に修得するために、
本学科では、下肢の軟部組織損傷の発生機序、症状、合併症、整復法等を修得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	16	3	鼠径部症候群・ばね股・梨状筋症候群・ヘルテス病	股関節の疾患について理解する。
2	4	23	3	すべり症・単純性股関節症・変形性股関節症・大腿骨頭壊死	股関節の疾患について理解する。
3	5	7	3	股関節拘縮・大腿部打撲・四頭筋肉離れ	関節拘縮、肉離れ、打撲の特徴について理解する。
4	5	14	3	ハムスト肉離れ・骨化性筋炎・半月板損傷	肉離れ、骨化性筋炎、半月板損傷について特に理解する。
5	5	21	3	膝関節靭帯損傷	膝関節靭帯損傷についてを理解する。
6	5	28	3	小児膝変形・ブラント病・大腿四頭筋拘縮	小児膝関節障害の特徴を理解する。
7	6	4	3	離断性骨軟骨炎・オスグットシュラッター病・ジャンパー膝	特に小児に特徴的な疾患について理解する。
8	6	11	3	分裂膝蓋骨・腸脛靭帯炎・鷲足炎・膝蓋軟骨軟化症	膝周囲の発生が近い障害について理解する。
9	6	18	3	タナ障害・膝蓋大腿関節症・下腿三頭筋肉離れ	膝蓋大腿関節症の特徴について復習する。
10	6	25	3	シンスプリント・足関節捻挫	特にシンスプリントの症状の特徴について理解する。
11	7	2	3	足関節骨軟骨骨折・離断性骨軟骨炎・足根洞症候群・腓骨腱脱臼	足関節の軟骨障害を特に理解する。
12	7	9	3	衝突性外骨腫・三角骨障害・セーバー病・アキレス腱滑液包炎	足部の過剰骨・骨端症について理解する。
13	7	16	3	有痛性外脛骨・踵骨棘・足底腱膜炎・第1ケーラー病・足根管症候群	中足部～後足部の有痛性疾患のについて理解する。
14	7	23	3	外反母趾・強剛母趾・種子骨障害・フライバーグ病・モートン病・偏平足	足趾部の有痛性疾患について理解する。
15	7	30	3	総復習	今期の内容を復習し理解を深める。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	柔道整復学・理論編 改訂第7版	
	%	柔道整復学・実技編 改訂第2版	
	%		
	%		

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	臨床柔道整復学6	学年	2年15期生
担当者	橋本浩二	期別	後期
単位数	1単位	講義・実習	実技
時間数・授業回数	30時間 15回	専任・兼任	専任
実務経験	接骨院・機能訓練業務6年・専任教員6年		

一般目標(GIO)

本科目は、特に手根から指の骨に関して総合的に学習し骨折に対する認識と技術の向上を目的とする。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	10	4	1	舟状骨骨折	舟状骨の骨損傷についての特徴・治療法を説明することができる
2	10	11	1	三角骨骨折	三角骨の骨損傷についての特徴・治療法を説明することができる
3	10	18	1	有鉤骨骨折	有鉤骨の骨損傷についての特徴・治療法を説明することができる
4	11	1	1	豆状骨骨折	豆状骨の骨損傷についての特徴・治療法を説明することができる
5	11	8	1	月状骨・大菱形骨・有頭骨骨折	月状骨・大菱形骨・有頭骨の骨損傷についての特徴・治療法を説明することができる
6	11	15	1	中手骨骨折①	中手骨頭部の骨損傷についての特徴・治療法を説明することができる
7	11	22	1	中手骨骨折②	中手骨骨幹部の骨損傷についての特徴・治療法を説明することができる
8	12	6	1	中手骨骨折③	ベネット骨折の骨損傷についての特徴・治療法を説明することができる
9	12	13	1	中手骨骨折④	第5中手骨基部骨折の骨損傷についての特徴・治療法を説明することができる
10	12	20	1	指骨骨折①	基節骨の治療をすることができる
11	12	27	1	指骨骨折②	中節骨の治療をすることができる
12	1	10	1	指骨骨折③	末節骨の治療をすることができる
13	1	17	1	指骨骨折④	マレットフィンガーの分類ができる
14	1	24	1	指骨骨折⑤	マレットフィンガーの整復・固定ができる
15	1	31	1	総まとめ	苦手部位の復習
評価基準			教科書		参考書
期末テスト	100%	柔道整復学・理論編第6版			
		柔道整復学・実技編第2版			
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

科目名	臨床柔道整復学7	学年	2年15期生
担当者	熊谷大輔	期別	後期
単位数	1単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間・15回	専任・兼任	専任

実務経験 臨床経験を持つ教員が臨床柔道整復学7において柔道整復術の基本となるものを教科書を使いながら解説する。

一般目標 (GIO)

柔道整復術の理論に基づいた柔道整復術を的確に修得するために、
本学科では、下肢骨折の発生機序、症状、合併症、整復法等を修得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	10	4	2	骨盤骨折・大腿骨頭骨折	骨盤単独骨折と骨盤輪骨折の違いを理解する。
2	10	11	2	大腿骨頸部骨折	内側骨折と外側骨折の違いを理解する。
3	10	18	2	大腿骨転子部骨折・転子下骨折	転子部骨折の分類を説明できる。
4	11	1	2	大腿骨骨幹部骨折	大腿骨骨幹部骨折について説明できる。
5	11	8	2	大腿骨顆上骨折	大腿骨顆上骨折について説明できる。
6	11	15	2	骨端線離開・内側側副靭帯裂離骨折	膝蓋骨の解剖を復習し、骨折について理解する。
7	11	22	2	膝蓋骨骨折	膝蓋骨の解剖を復習し、骨折について理解する。
8	12	6	2	下腿近位部骨折	下腿骨近位部骨折について説明できる。
9	12	13	2	脛骨顆部骨折	脛骨内顆骨折と外顆骨折の発生機序を理解する。
10	12	20	2	腓骨頭骨折・脛骨粗面骨折	脛骨粗面骨折の鑑別疾患を理解する。
11	12	27	2	下腿骨幹部骨折	下腿骨幹部骨折の後遺症について説明できる。
12	1	10	2	大腿骨顆部骨折・下腿疲労骨折	大腿骨顆部骨折について説明できる。
13	1	17	2	足部脱臼骨折(ラウゲハンセン分類)	距骨の動きを理解し分類について説明できる。
14	1	24	2	足根骨骨折	各足根骨骨折の発生機序を理解する。
15	1	31	2	中足骨骨折・趾骨骨折	趾骨の解剖を理解したうえで骨折について説明できる。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	柔道整復学・理論編 改定第7版	
	%	柔道整復学・実技編 改定第2版	
	%		
	%		

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	臨床柔道整復学8	学年	2年 15期生
担当者	橋本紘太郎	期別	後期
単位数	1単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間 15回	専任・兼任	兼任
実務経験	臨床経験を持つ教員が臨床柔道整復学8において臨床上、遭遇する可能性の高い脱臼について、顎部から肩部までの概要や特徴について、基本的な知識を修得するための講		

一般目標 (GIO)

柔道整復術の理論に基づいた柔道整復術を的確に修得するために、本科目では顎～肩部の機能と解剖を踏まえた上で、発生機序、症状、合併症、整復法等を修得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	10	1	1	脱臼の定義と顎部の解剖	脱臼の定義と顎部の解剖を説明できる
2	10	8	1	顎関節脱臼の病態	顎関節の脱臼の病態説明ができる
3	10	15	1	顎関節脱臼の整復	顎関節の脱臼の整復方法が説明できる
4	10	22	1	顎関節脱臼の後療法	顎関節脱臼の病態から整復、後療法が説明できる
5	10	29	1	頸椎脱臼の病態	頸椎脱臼の病態が説明できる
6	11	5	1	頸髄損傷の病態と検査	頸椎脱臼による頸髄損傷に伴う病態が説明できる
7	11	12	1	胸椎、腰椎の脱臼の病態	胸椎、腰椎脱臼の病態が説明できる
8	11	19	1	胸髄損傷の病態と検査	胸椎、腰椎脱臼で起きる胸髄や、馬尾神経に伴う病態が説明できる
9	11	26	1	胸鎖関節の脱臼の病態	胸鎖関節の脱臼の病態が説明できる
10	12	3	1	胸鎖関節脱臼の後療法	胸鎖関節の脱臼後の後療法について説明できる
11	12	10	1	肩鎖関節脱臼の病態	肩鎖関節脱臼の病態が説明できる
12	12	17	1	肩鎖関節脱臼の後療法	肩鎖関節脱臼の後療法が説明できる
13	12	24	1	肩関節脱臼の病態	肩関節脱臼の病態が説明できる
14	1	14	1	肩関節脱臼の合併症	肩関節脱臼の合併症が説明できる
15	1	21	1	肩関節脱臼の後療法	肩関節の後療法が説明できる

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	柔道整復学・理論編 改定第7版	
	%		
	%		
	%		

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:40～14:10)

4限目 (14:20～15:50)

科目名	臨床柔道整復学9		学年	3 年 14 期生	
担当者	徳安琢磨		期 別	後期	
単 位 数	1 単 位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	30H・15回		専任・兼任	専任	
実務経験	実務経験を持つ教員が股関節部の損傷、膝関節部の損傷について教科書を用いて解説する。				
一般目標 (GIO)					
股関節部、膝関節部の損傷について、発生機序や症状、治療法を学び疾患の推察などができる力を養うことを目標とする。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	9	27	1	骨盤骨単独骨折 骨盤骨輪骨折	骨盤骨単独骨折の発生機序を理解する。 骨盤骨輪骨折の発生機序、合併症を理解する。
2	10	4	1	大腿骨骨頭部骨折 大腿骨頸部骨折	大腿骨頭部骨折の発生機序と症状を理解する。 大腿骨頸部骨折の発生機序、症状、合併症を理解する。
3	10	11	1	大腿骨転子部骨折 大腿骨転子下骨折 股関節脱臼	大腿骨転子部骨折の発生機序、症状、治療法を理解する。 大腿骨転子下骨折の発生機序、症状、治療法を理解する。 股関節脱臼の発生機序、症状、治療法を理解する。
4	10	18	1	梨状筋症候群 股関節拘縮 ペルテス病 単純性股関節炎	梨状筋症候群の発生機序、症状を理解する。 股関節拘縮の症状を理解する。 ペルテス病の発生機序と症状を理解する。 単純性股関節炎の発生機序、症状、治療法を理解する。
5	11	1	1	大腿骨頭すべり症 大腿骨頭壊死症 変形性股関節症	大腿骨頭すべり症の好発年齢、症状を理解する。 大腿骨頭壊死症の分類、症状、治療法を理解する。 変形性股関節症の発生機序、症状、治療法を理解する。
6	11	8	1	大腿骨骨幹部骨折 大腿部打撲 大腿四頭筋肉離れ	骨幹部骨折の発生機序、症状、治療法、合併症を理解する。 大腿部打撲の発生機序、症状、治療法を理解する。 大腿四頭筋肉離れの発生機序、症状、治療法を理解する。
7	11	15	1	ハムストリングス肉離れ 骨化性筋炎 大腿骨顆上骨折 大腿骨遠位骨端線離開	ハムストリングス肉離れの発生機序、症状、治療法を理解する。 骨化性筋炎の症状と治療法を理解する。 大腿骨顆上骨折の発生機序、症状、治療法を理解する。 遠位骨端線離開の発生機序、分類、症状、治療法を理解する。
8	11	29	1	大腿骨顆部骨折 内側側副靭帯附着部の裂離骨折	大腿骨顆部骨折の発生機序、症状、治療法を理解する。 内側側副靭帯附着部裂離骨折の発生機序、症状、治療法を理解する。
9	12	6	1	脛骨顆部骨折 脛骨顆間隆起骨折 脛骨粗面骨折 腓骨頭単独骨折	脛骨顆部骨折の発生機序、症状、合併症、治療法を理解する。 脛骨顆間隆起骨折の発生機序、症状、治療法を理解する。 脛骨粗面骨折の発生機序、症状、鑑別診断、治療法を理解する。 腓骨頭単独骨折の発生機序、治療法を理解する。
10	12	13	1	膝関節脱臼 膝蓋骨骨折 膝蓋骨脱臼	膝関節脱臼の発生機序、合併症、治療法、後遺症を理解する。 膝蓋骨骨折の発生機序、転位、症状を理解する。 膝蓋骨脱臼の発生機序、分類、症状、治療法を理解する。

11	12	20	1	半月板損傷 側副靭帯損傷 十字靭帯損傷	半月板損傷の発生機序、症状、検査法を理解する。 側副靭帯損傷の発生機序、症状、検査法を理解する。 十字靭帯損傷の発生機序、症状、検査法を理解する。
12	12	27	1	小児の膝変形 オスグッド・シュラッター病 ジャンパー膝 分裂膝蓋骨	小児の膝変形の発生機序、症状を理解する。 オスグッド・シュラッター病の発生機序、症状、治療法を理解する。 ジャンパー膝の発生機序、症状、治療法を理解する。 分裂膝蓋骨の発生機序、分類、症状、治療法を理解する。
13	1	10	1	腸脛靭帯炎 鷲足炎 膝蓋軟骨軟化症 滑膜ヒダ障害	腸脛靭帯炎の発生機序、症状、検査法、治療法を理解する。 鷲足炎の発生機序、治療法を理解する。 膝蓋軟骨軟化症の症状、徒手検査を理解する。 滑膜ヒダ障害の症状、治療法を理解する。
14	1	17	1	膝蓋大腿関節症 膝周囲の関節包、滑液包の異常	膝蓋大腿関節症の症状、検査、治療法を理解する。 滑液包の部位や炎症などの発生機序を理解する。
15	1	17	2	総腓骨神経麻痺 伏在神経麻痺 離断性骨軟骨炎 変形性膝関節症	総腓骨神経の症状を理解する。伏在神経麻痺の症状を覚える。 離断性骨軟骨炎の症状、治療法を理解する。 変形性膝関節症の発生機序、症状、治療法を理解する。
評価基準			教科書		参考書
期末試験		100%	柔道整復学・理論編 改訂第6版		
		%	柔道整復学・実技編 改訂第2版		
		%			
		%			

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	臨床柔道整復学10		学年	2年15期生	
担当者	徳安琢磨		期別	後期	
単位数	1単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	30時間・15回		専任・兼任	専任	
実務経験	実務経験のある教員が、各脱臼の発生機序や症状などについて教科書を用いて解説する。				
一般目標(GIO)					
肘関節から手指関節の脱臼までの発生機序や基本的な症状、治療法などを理解する。また各脱臼の注意点についても理解することを目標とする。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	9	30	2	前腕両骨後方脱臼	発生機序、症状を理解する。
2	10	7	2	前腕両骨後方脱臼	鑑別疾患、合併症、固定法を理解する。
3	10	21	2	前腕両骨前方脱臼	発生機序、症状、整復法、固定法を理解する。
4	11	11	2	前腕両骨側方脱臼	発生機序、症状、整復法、固定法を理解する。
5	11	18	2	前腕両骨分散(開排)脱臼	発生機序、整復、固定法を理解する。
6	11	25	2	橈骨頭単独脱臼	合併する骨折、橈骨頭の転位方向、整復、固定法を理解する。
7	12	2	2	肘内障	発生機序、症状、鑑別診断、治療法を理解する。
8	12	9	2	遠位橈尺関節脱臼	発生機序、症状、固定法を理解する。
9	12	16	2	橈骨手根関節脱臼	発生機序、症状、固定、後療法を理解する。
10	12	23	2	月状骨脱臼および月状骨周囲脱臼	好発年齢、発生機序、症状、整復法、固定、後療法を理解する。
11	1	6	2	手根中手指関節脱臼	発生機序、症状、整復法、固定法を理解する。
12	1	20	2	第1指中手指節関節脱臼	発生機序、症状、整復法、固定法を理解する。
13	1	22	1	第1指以外の中手指節関節脱臼	発生機序、症状、整復法、固定法を理解する。
14	1	23	1	近位指節間関節脱臼	発生機序、症状、整復法、固定法を理解する。
15	1	27	2	遠位指節間関節脱臼	発生機序、症状、整復法、固定法、後療法を理解する。
評価基準			教科書		参考書
期末試験		100%	柔道整復学・理論編 改定第7版		
		%	柔道整復学・実技編 改訂第2版		
		%			
		%			

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	臨床柔道整復学11	学年	2年 15期生
担当者	南島孝信	期別	後期
単位数	1単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間 15回	専任・兼任	兼任
実務経験	臨床経験を持つ教員が臨床柔道整復学11において臨床上、遭遇する可能性の高い顎関節症から肩関節の軟部組織損傷について、損傷の概要や特徴について、基本的な知識を修得するための講義を行う。		

一般目標 (GIO)

柔道整復術の理論に基づいた柔道整復術を的確に修得するために、本科目では、顎関節から肩関節の機能と解剖を踏まえた上で、軟部組織損傷の発生機序、症状、合併症、後療法等を修得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	9	30	1	頭部顔面部の打撲の病態	頭部顔面部の病態を説明できる
2	10	7	1	顎関節症の病態	顎関節の病態を説明できる
3	10	21	1	顎関節の後療法	顎関節の後療法を説明できる
4	11	11	1	外傷性頸部症候群の病態	外傷性頸部症候群の病態を説明できる
5	11	18	1	外傷性頸部症候群の後療法	外傷性頸部症候群の後療法を説明できる
6	11	25	1	胸郭出口症候群寝違えの病態	胸郭出口症候群や寝違えの病態を説明できる
7	12	2	1	肋骨周囲の軟部組織損傷の病態	肋骨周囲の軟部組織損傷の病態を説明できる
8	12	9	1	胸部背部打撲・損傷の病態	胸部背部打撲・損傷の病態を説明できる
9	12	16	1	腰部軟部組織損傷の病態	腰部軟部組織損傷の病態を説明できる
10	12	23	1	腰部軟部組織損傷の後療法	腰部軟部組織損傷の後療法を説明できる
11	1	6	1	肩関節腱板損傷の病態	肩関節腱板損傷の病態を説明できる
12	1	20	1	肩関節スポーツ障害の病態把握	肩関節スポーツ障害の病態を説明できる
13	1	22	2	肩関節周囲炎の病態把握	肩関節周囲炎の病態を説明できる
14	1	23	2	肩関節周囲の神経障害の病態	肩関節周囲の神経障害の病態を説明できる
15	1	27	1	復習	顎から肩までの軟部組織損傷の復習

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	柔道整復学・理論編 改定第7版	
	%		
	%		
	%		

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

4限目 (14:20~15:50)

科目名	臨床柔道整復学12	学年	2年15期生
担当者	橋本 浩二	期別	後期
単位数	1単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任

実務経験 臨床経験を持つ教員が臨床柔道整復学12において柔道整復術の基本となるものを教科書を使いながら解説する。

一般目標(GIO)

本科目は、肘関節から指の軟部組織損傷の概要や特徴を学び、正しく鑑別できる知識を修得したうえで、柔道整復師として対応できる整復法・固定法を身につけるための講義をおこなう。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	10	2	4	野球肘	野球肘について説明できる。
2	10	9	4	テニス肘・パンナー病	野球肘とテニス肘の違いを理解する。
3	10	16	4	前腕コンパートメント症候群	コンパートメント症候群の発生機序を理解する。
4	10	23	4	腱交叉症候群・TFCC	TFCCについて説明できる。
5	10	30	4	末梢神経損傷(正中神経)	正中神経損傷について説明できる。
6	11	6	4	末梢神経損傷(尺骨神経)	尺骨神経損傷について説明できる。
7	11	13	4	末梢神経損傷(橈骨神経)	橈骨神経損傷について説明できる。
8	11	20	4	前骨間神経・後骨間神経	本幹との違いを十分に理解する。
9	11	27	4	ドケルバン病・キーンベック病	ドケルバン病について説明できる。
10	12	4	4	マーデルング変形	マーデルング変形について説明できる。
11	12	11	4	ステナー損傷	靭帯損傷(ステナー損傷)について説明できる。
12	12	18	4	ばね指・指ロッキング	ばね指とロッキングの違いを十分に理解する。
13	12	25	4	デュプイトラン拘縮・ヘバーデン結節	デュプイトラン拘縮・ヘバーデン結節について説明できる。
14	1	8	4	ボタン穴変形	ボタン穴変形の特有な変形を理解する。
15	1	15	4	スワンネック変形	スワンネック変形の特有な変形を理解する。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	柔道整復学・理論編 改訂第7版	
	%	柔道整復学・実技編 改訂第2版	
	%		
	%		

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	臨床柔道整復学13	学年	3年14期生
担当者	橋本浩二	期別	後期
単位数	1単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間・15回	専任・兼任	専任

実務経験 臨床経験を持つ教員が臨床柔道整復学13において柔道整復術の基本となるものを教科書を使いながら解説する。

一般目標 (GIO)

柔道整復術の理論に基づいた柔道整復術を的確に修得するために、
本学科では、下肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷の発生機序、症状、合併症、整復法等を修得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	9	27	3	下腿骨幹部骨折	特に装具療法 (PTBキャスト) について理解する。
2	10	4	3	腓骨骨幹部単独骨折	整復法を理解する。
3	10	11	3	下腿骨果上骨折・疲労骨折	疲労骨折の分類と鑑別疾患について理解する。
4	10	18	3	下腿軟部組織損傷①	アキレス腱断裂・アキレス腱周囲炎・アキレス腱断裂の違いを理解する。
5	11	1	3	下腿軟部組織損傷②	下腿三頭筋肉離れ・シンスプリント・コンパートメント症候群について理解する。
6	11	8	3	下腿遠位端部脱臼骨折①	回内外転損傷・回内外転損傷を理解する。
7	11	15	3	下腿遠位端部脱臼骨折②	回内外旋損傷・回内外旋損傷を理解する。
8	11	22	3	足根骨骨折①	踵骨骨折の分類を理解する。
9	11	29	3	足根骨骨折②	距骨骨折の後遺症を理解する。
10	12	6	3	足関節靭帯損傷	内側側副靭帯損傷・外側側副靭帯損傷の各症状を理解する。
11	12	13	3	足部軟部組織損傷①	三角骨障害・衝突性外骨腫・足根洞症候群を理解する。
12	12	20	3	足根骨骨折③	舟状骨骨折・立方骨骨折・楔状骨骨折の各症状を理解する。
13	12	27	3	足部軟部組織損傷②	シヨパール関節・リスフラン関節損傷・指節間関節脱臼の各症状を理解する。
14	1	10	3	足部軟部組織損傷③	セーバー病・外脛骨・足底腱膜炎
15	1	17	3	足部軟部組織損傷④	フライバーグ病・モートン病・外反母指・第1ケラー病の鑑別を理解する。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	柔道整復学・理論編 改定第6版	
	%	柔道整復学・実技編 改定第2版	
	%		
	%		

科目名	物理療法機器の取り扱い	学年	1 年 16 期生
担当者	橋本紘太郎	期別	後期
単位数	1 単位	講義・実習	実技・座学
時間数・授業回数	15時間 8回	専任・兼任	専任
実務経験	接骨院・機能訓練業務6年・専任教員6年		

一般目標(GIO)

本科目は、物理療法機器の取り扱いに関わる人体の構造、物理療法機器の取り扱いに関連した内容を学ぶ。
また、その中でも上肢の骨折、脊柱の骨折に対応した内容を身につける。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	11	19	4	電気療法の取り扱い	電気刺激の効果・生体反応について説明することができる
2	11	26	4	温熱療法の取り扱い	温熱刺激を加えた時の生体反応を説明することができる
3	12	3	4	光線療法の取り扱い	光線の種類について理解し正しく使うことができる
4	12	10	4	寒冷療法の取り扱い	寒熱のもつエネルギーの特徴を理解することができる
5	12	17	4	牽引・圧迫療法の取り扱い	靭帯の構造を正しく理解し安全に牽引・圧迫をおこなうことができる
6	12	24	4	安全対策・禁忌	治療を行う際の患者に対する安全を正しく理解する
7	1	14	4	脊柱・上肢の構造1	正しく治療するために対象となる構造を詳細に理解する
8	1	21	4	脊柱・上肢の構造2	正しく治療するために対象となる構造を詳細に理解する
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価基準			教科書		参考書
期末テスト	50%	解剖学			
レポート(学会参加等)	50%	柔道整復理論			
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

科目名	柔道整復術適応の臨床的判断	学年	3 年 14 期生
担当者	星野 英二	期 別	後期
単 位 数	1 単 位	講義・実習	実技
時間数・授業回数	30時間 15回	専任・兼任	兼任
実務経験			

一般目標 (GIO)

柔道整復師が医療における役割を理解し, 柔道整復術適応と整形外科へ紹介する基準を理解する.

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	9	26	2	柔道整復術の適否	柔道整復術の適応を大まかに説明できる.
2	10	3	2	類似した症状を示す疾患	適応疾患以外の症状・疾患を理解できる.
3	10	10	2	感染症・圧迫損傷	感染症・軟部組織の圧迫損傷を理解できる.
4	10	17	2	血流障害を伴う損傷	血管損傷を合併する損傷を理解できる.
5	10	24	2	末梢神経損傷を伴う損傷	神経損傷の症状を説明できる.
6	10	31	2	脱臼骨折	脱臼骨折の概要を理解できる.
7	11	7	2	外出血を伴う損傷	開放性骨折のリスクを説明できる.
8	11	14	2	前回までの項目の確認試験	知識を定着することを目的とする.
9	11	21	2	病的骨折および脱臼	病的骨折・脱臼の概念を理解できる.
10	11	28	2	意識障害を伴う損傷	頭部外傷の概要を理解できる.
11	12	5	2	脊髄症状のある損傷	脊髄損傷を起こしうる疾患を想起できる.
12	12	12	2	呼吸運動障害を伴う損傷	胸部外傷に伴うリスクについて理解できる.
13	12	19	2	内臓損傷の合併が疑われる損傷	内臓損傷を伴う損傷を想起できる.
14	12	26	2	高エネルギー外傷	高エネルギー外傷時に起こりうる疾患を想起できる.
15	1	9	2	第1~14回の総復習	第1~14回の復習を行い, 知識を深め説明できる.
評価基準			教科書		参考書
			%		
			%		
			%		
			%		

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

4限目 (14:20~15:50)

科目名	圧迫包帯学	学年	1 年 16 期生
担当者	樋口大夢	期別	前期
単位数	1 単位	講義・実習	実技
時間数・授業回数	30時間 15回	専任・兼任	兼任
実務経験	臨床経験を持つ教員が圧迫包帯学において基本的な固定具や包帯の知識とそれを扱う技術を修得するための講義を行う。		

一般目標 (GIO)

柔道整復術の理論に基づいた包帯学を修得するために、本科目では各包帯の特性を理解しつつ、包帯の管理の方法から、基礎的な部位別の包帯法を修得する

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	10	3	包帯の名称と持ち方	包帯の名称と持ち方が説明できる
2	4	17	3	包帯の巻き方と巻き戻し方	包帯の巻き方と巻き戻し方が実践できる
3	4	24	3	基本包帯法の指導	慣行帯などの基礎の包帯法がわかる
4	5	8	3	上肢の螺旋帯と折転帯の指導	上肢(前腕)の螺旋帯と折転帯を実践できる
5	5	15	3	上肢の螺旋帯と折転帯と亀甲帯	上肢(前腕や肘)の螺旋帯と折転帯を実践できる
6	5	22	3	上肢の麦穂帯の指導	上肢(前腕や手首、親指)の麦穂帯ができる
7	5	29	3	下肢の螺旋帯と折転帯	下肢(下腿)の螺旋帯と折転帯が実践できる
8	6	5	3	下肢の螺旋帯と折転帯と亀甲帯	下肢(下腿や膝)の螺旋帯と折転帯が実践できる
9	6	12	3	下肢の折転帯と亀甲帯と麦穂帯	下肢(膝、足)の螺旋帯と麦穂帯が実践できる
10	6	19	3	冠名包帯の指導 デゾー	冠名包帯の指導 デゾーが実践できる
11	6	26	3	冠名包帯の指導 デゾー	冠名包帯の指導 デゾーが実践できる
12	7	9	3	冠名包帯の指導 デゾー	冠名包帯の指導 デゾーが実践できる
13	7	10	3	冠名包帯の指導ヴェルポー	冠名包帯の指導ヴェルポーが実践できる
14	7	17	3	冠名包帯の指導ヴェルポー、ジュール	冠名包帯の指導ヴェルポーが実践できる
15	7	24	3	冠名包帯の指導ジュールとデゾー	冠名包帯の指導ジュールとデゾーが実践できる

評価基準		教科書	参考書
実技試験	100%	包帯固定学	
	%		
	%		
	%		

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	柔道整復実技応用1	学年	1 年 16 期生
担当者	古賀 智	期 別	前期
単位数	1 単 位	講義・実習	実技
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任
実務経験	柔道整復師専科教員免許所有、接骨院開業		

一般目標 (GIO)

本科目は、基本包帯法を修得するために、その修得に必要な固定の目的を理解し、
包帯の知識・部位別包帯法の技術を身につける。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	10	1	固定 / 巻軸帯について	固定の目的・範囲・肢位を理解し、巻軸帯の巻き方が修得できる。
2	4	17	1	基本包帯法	環行帯・螺旋帯・蛇行帯が修得できる。
3	4	24	1	基本包帯法	折転帯・亀甲帯・麦穂帯・三角巾施行が修得できる。
4	5	8	1	部位別包帯法	肩部固定の目的・範囲・肢位を理解し、巻き方が修得できる。
5	5	15	1	部位別包帯法	肘部固定の目的・範囲・肢位を理解し、巻き方が修得できる。
6	5	22	1	部位別包帯法	前腕部固定の目的・範囲・肢位を理解し、巻き方が修得できる。 ※コース骨折固定含む
7	5	29	1	部位別包帯法	手関節部・手指部固定の目的・範囲・肢位を理解し、巻き方が修得できる。 ※第5中手骨頭部骨折含む
8	6	5	1	部位別包帯法	大腿部固定の目的・範囲・肢位を理解し、巻き方が修得できる。
9	6	12	1	部位別包帯法	膝関節部固定の目的・範囲・肢位を理解し、巻き方が修得できる。
10	6	19	1	部位別包帯法	下腿部固定の目的・範囲・肢位を理解し、巻き方が修得できる。 ※下腿骨幹部骨折含む
11	6	26	1	部位別包帯法	足関節部固定の目的・範囲・肢位を理解し、巻き方が修得できる。
12	7	9	1	部位別包帯法	足趾部固定の目的・範囲・肢位を理解し、巻き方が修得できる。
13	7	10	1	部位別包帯法	背部固定の目的・範囲・肢位を理解し、巻き方が修得できる。
14	7	17	1	部位別包帯法	肋骨部固定の目的・範囲・肢位を理解し、巻き方が修得できる。 ※肋骨骨折含む
15	7	24	1	包帯法	本講義で学んだ包帯法が実践できる。

評価基準		教科書	参考書
実技試験	90%	包帯固定学 改訂第2版 南江堂	
平常点	10%		
	%		
	%		

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

4限目 (14:20~15:50)

科目名	柔道整復実技応用2	学年	1 年 16 期生
担当者	古賀 智	期 別	前期
単位数	1 単 位	講義・実習	実技
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任
実務経験	柔道整復師専科教員免許所有、接骨院開業		

一般目標 (GIO)

本科目は、テーピングの基礎知識を理解し、身体の機能解剖を考え各スポーツ競技に合わせた基礎的なテーピング技術を身につける

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	10	2	テーピングの理論	目的、基礎的な知識や使用方法を説明できる。
2	4	17	2	テーピングの使用法	テーピングのカットの仕方・貼布方法などの説明、注意事項を説明できる。アンダーラップの使い方を説明できる。
3	4	24	2	テーピングの実際 足関節部	足関節捻挫の概念・予防としてのテーピング法を説明できる。
4	5	8	2	テーピングの実際 足関節部	足関節の基本固定を説明・修得できる。
5	5	15	2	テーピングの実際 足関節部	足関節の基本固定を説明・修得できる。
6	5	22	2	テーピングの実際 膝関節部	膝部軟部組織損傷に対する、テーピングを説明・修得できる。
7	5	29	2	テーピングの実際 大腿部	大腿軟部組織損傷に対する、テーピングを説明・修得できる。
8	6	5	2	テーピングの実際 下腿部	下腿軟部組織損傷に対する、テーピングを説明・修得できる。
9	6	12	2	テーピングの実際 指部・手関節部	指部・手関節部損傷に対する、テーピングを説明・修得できる。
10	6	19	2	テーピングの実際 足部障害	足底筋膜炎などの足部障害に対する、テーピングを説明・修得できる。
11	6	26	2	テーピングの実際 足趾部	スポーツ競技での足趾部のテーピングを説明・修得できる。
12	7	9	2	テーピングの実際 肩部・腰部痛	肩部・腰部痛のテーピングを説明・修得できる。
13	7	10	2	テーピングの実際 膝関節・下腿部(アキレス腱)	膝関節・下腿部(アキレス腱)のテーピングを説明・修得できる。
14	7	17	2	テーピングの実際	各項でのまとめが説明できる。
15	7	24	2	テーピングの実際	各項でのまとめが説明できる。

評価基準		教科書	参考書
実技試験	90%	柔道整復学・実技編 改訂第2版 南江堂	テーピングの実技と理論 文光堂 プロメテウス解剖学アトラス 第2版 医学書院
平常点	10%		
	%		
	%		

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

4限目 (14:20~15:50)

科目名	柔道整復実技応用3	学年	1 年 15 期生
担当者	熊谷 大輔	期別	後期
単位数	1 単位	講義・実習	実技
時間数・授業回数	30時間 15回	専任・兼任	兼任
実務経験	臨床経験を持つ教員が柔道整復実技応用3において臨床上、遭遇する可能性の高い鎖骨骨折、上腕骨近位端骨折について、損傷の概要や特徴について、基本的な知識や固		

一般目標 (GIO)

柔道整復術の理論に基づいた柔道整復術を的確に修得するために、本科目では、鎖骨、上腕骨近位端の骨折の発生機序、症状、合併症、整復方法、固定方法を修得する

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	10	4	4	鎖骨骨折の病態と鑑別	鎖骨骨折の病態と鑑別方法を説明できる
2	10	11	4	鎖骨骨折の整復方法	鎖骨骨折の病態と整復方法を説明できる
3	10	18	4	鎖骨骨折の固定方法	鎖骨骨折の病態と固定方法を説明できる
4	11	1	4	鎖骨骨折の固定方法	鎖骨骨折の病態と固定方法を説明できる
5	11	8	4	鎖骨骨折の固定方法	鎖骨骨折の病態と固定方法を説明できる
6	11	15	4	鎖骨骨折の固定方法	鎖骨骨折の病態と固定方法を説明できる
7	11	29	4	鎖骨骨折の固定法	鎖骨骨折の病態と固定方法を説明できる
8	12	6	4	鎖骨骨折の固定法	鎖骨骨折の病態と固定方法を説明できる
9	12	13	4	鎖骨骨折の後療法	鎖骨骨折の病態と固定方法を説明できる
10	12	20	4	上腕骨外科頸の病態	上腕骨外科頸骨折の病態を説明できる
11	12	27	4	上腕骨外科頸の整復方法	上腕骨外科頸骨折の整復方法を説明できる
12	1	10	4	上腕骨外科頸の固定	上腕骨外科頸骨折の固定方法を説明できる
13	1	17	4	上腕骨外科頸の固定	上腕骨外科頸骨折の固定方法を説明できる
14	1	24	4	上腕骨外科頸の固定	上腕骨外科頸骨折の固定方法を説明できる
15	1	31	4	上腕骨外科頸の後療法	上腕骨外科頸骨折の固定方法を説明できる

評価基準		教科書	参考書
実技	100%	柔道整復学・実技編 改定第2版	
	%	柔道整復学・理論編 改定第7版	
	%		
	%		

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

4限目 (14:20~15:50)

科目名	柔道整復実技応用4	学年	1 年 16 期生
担当者	古賀 智	期 別	後期
単 位 数	1 単 位	講義・実習	実技
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任

実務経験 柔道整復師専科教員免許所有、接骨院開業

一般目標(GIO)

本科目は、柔道整復認定実技審査の対象となる各傷病の実技を修得するために
 その修得に必要な診察・整復・検査とその評価・固定等に関する知識や理論、包帯法・テーピングを
 身につけ、柔道整復認定実技審査に求められる診察及び整復・検査の能力と固定の能力を修得する事ができる。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	10	2	1	コーレス骨折	コーレス骨折の概念・診察・整復・検査などを説明し、固定に必要な材料等を製作できる。
2	10	9	1	コーレス骨折	徒手整復法・神経学的検査法を説明、修得できる。
3	10	16	1	コーレス骨折	厚紙副子・クラーメルを使った、固定法を説明、修得できる。
4	10	23	1	コーレス骨折	診察・整復・検査・固定を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。
5	10	30	1	コーレス骨折	コーレス骨折の概要等を説明できる。
6	11	6	1	第5指中手骨頸部骨折	中手骨骨折の概念・診察・整復・検査などを説明し、固定に必要な材料等を製作できる。
7	11	13	1	第5指中手骨頸部骨折	アルフェンスを使った、固定法を説明、修得できる。
8	11	20	1	第5指中手骨頸部骨折	診察・検査・固定を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。
9	11	27	1	下腿骨骨幹部骨折	下腿骨骨折の概念・診察・整復・検査などを説明し、固定に必要な材料等を製作できる。
10	12	4	1	下腿骨骨幹部骨折	クラーメルを使った、固定法を説明、修得できる。
11	12	11	1	下腿骨骨幹部骨折	診察・検査・固定を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。
12	12	18	1	肋骨骨折	肋骨骨折の概念・診察・整復・検査などを説明し、固定に必要な材料等を製作できる。
13	12	25	1	肋骨骨折	厚紙副子・さらしを使った、固定法を説明、修得できる。
14	1	8	1	肋骨骨折	診察・検査・固定を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。
15	1	15	1	各骨折のまとめ	診察及び整復・検査の能力と固定の能力を修得し説明できる。

評価基準		教科書	参考書
実技試験	80%	柔道整復学・実技編 改訂第2版 南江堂	プロメテウス解剖学アトラス 第2版 医学書院
口述	10%	柔道整復学・理論編 改訂第5版 南江堂	整形外科理学診断ガイド 文光堂
平常点	10%		機能解剖学的触診技術 上肢 MEDICAL VIEW
	%		機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 MEDICAL VIEW

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	柔道整復実技応用5	学年	2 年 15 期生
担当者	徳安琢磨	期別	前期
単位数	1 単位	講義・実習	実習
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	専任
実務経験	臨床経験を持つ教員が各脱臼の注意すべき点を解説し、整復の基本動作、バイタルチェック、脱衣の方法などを実習を行い解説する。		

一般目標 (GIO)

肩鎖関節上方脱臼、肩関節前方脱臼、肘関節後方脱臼、肘内障の基本的な整復動作について、なぜそのような動作をおこなう必要があるのか、整復動作をおこなう際の注意点などを十分理解したうえで、的確な動作をおこなえるようになることを目標とする。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	5	2	肩鎖関節上方脱臼の概説	発生機序、分類、症状、合併症・後遺症鑑別すべき疾患を理解する。
2	4	12	2	肩鎖関節上方脱臼の整復	整復動作およびそれに付随する一連の流れを理解する。
3	4	19	2	肩鎖関節上方脱臼の整復	整復動作およびそれに付随する一連の流れを正確におこなうことができるようになる。
4	5	10	2	肩鎖関節上方脱臼の整復	指定した時間以内に整復動作およびそれに付随する流れを完了できるようにする。
5	5	17	2	肩関節前方脱臼の概説	発生機序、症状、合併症、後遺症を理解する。
6	5	24	2	肩関節前方脱臼の整復	踵骨法の動作およびそれに付随する一連の流れを理解する。
7	5	31	2	肩関節前方脱臼の整復	踵骨法の整復動作およびそれに付随する一連の流れを正確におこなうことができるようになる。
8	6	7	2	肩関節前方脱臼の整復	踵骨法の整復動作およびそれに付随する一連の流れを指定した時間内に完了できるようにする。
9	6	14	2	肘関節後方脱臼の概説	発生機序、症状、合併症、後遺症を理解する。
10	6	21	2	肘関節後方脱臼の整復	整復動作およびそれに付随する一連の流れを理解する。
11	6	28	2	肘関節後方脱臼の整復	整復動作およびそれに付随する一連の流れを正確におこなうことができるようになる。
12	7	5	2	肘関節後方脱臼の整復	整復動作およびそれに付随する一連の流れを指定した時間内に完了できるようにする。
13	7	12	2	肘内障の概説	発生機序、症状、鑑別疾患を理解する。
14	7	19	2	肘内障の整復	整復動作およびそれに付随する一連の流れを正確におこなうことができるようになる。
15	7	26	2	肘内障の整復	整復動作およびそれに付随する一連の流れを指定した時間内に完了できるようにする。

評価基準		教科書	参考書
期末試験	100%	柔道整復学・理論編 改訂第7版	
	%	柔道整復学・実技編 改訂第2版	
	%		
	%		

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

4限目 (14:20~15:50)

科目名	柔道整復実技応用6	学年	2年 15期生
担当者	徳安琢磨	期別	前期
単位数	1単位	講義・実習	実習
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任
実務経験	臨床経験を持つ教員が柔道整復実技応用6において臨床上、遭遇する可能性の高い上肢損傷について、基本的な固定法を修得するための実技を行う。		

一般目標 (GIO)

本科目は、上肢の脱臼において、基礎的な固定方法に加え、
臨床でも使用することが出来る固定の手順・方法を身につける。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	5	4	肩鎖関節の解剖	肩鎖関節周辺の解剖・構造が説明できる。
2	4	12	4	肩鎖関節脱臼固定	固定具が作成できる。
3	4	19	4	肩鎖関節脱臼固定	肩鎖関節脱臼の固定を実演し、実践できる。
4	5	10	4	肩関節の解剖	肩関節周辺の解剖・構造が説明できる。
5	5	17	4	肩関節前方脱臼固定	固定具が作成できる。
6	5	24	4	肩関節前方脱臼固定	肩関節前方脱臼の固定を実演し、実践できる。
7	5	31	4	固定動作の復習	固定動作を再確認し、細かな部分まで指摘できる。
8	6	7	4	肘関節の解剖	肘関節周辺の解剖・構造が説明できる。
9	6	14	4	肘関節後方脱臼固定	固定具が作成できる。
10	6	21	4	肘関節後方脱臼固定	肘関節後方脱臼の固定を実演し、実践できる。
11	6	28	4	指節間関節の解剖	指節間関節周辺の解剖・構造が説明できる。
12	7	5	4	手指PIP関節背側脱臼固定	固定具が作成できる。
13	7	12	4	手指PIP関節背側脱臼固定	手指PIP関節背側脱臼の固定を実演し、実践できる。
14	7	19	4	固定動作の復習	履修した固定動作がより高精度に実践できる。
15	7	26	4	固定動作の復習	履修した固定動作がより高精度に実践できる。

評価基準		教科書	参考書
実技試験	100%	柔道整復学・実技編	プロメテウス解剖学
	%	柔道整復学・理論編	標準整形外科
	%		
	%		

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

4限目 (14:20~15:50)

科目名	柔道整復実技応用7	学年	2 年 15 期生
担当者	田中 満	期 別	前期
単位数	1 単 位	講義・実習	実技
時間数・授業回数	30時間 15回	専任・兼任	兼任
実務経験	臨床経験を持つ教員が柔道整復学応用7において臨床上、遭遇する可能性の高い病態についての理学所見、可動域検査、腱反射、病的反射について、基本的な知識や技術を		

一般目標 (GIO)

柔道整復術の理論に基づいた柔道整復術を的確に行うためには、まず整形外科的な理学検査をして鑑別を行うわないといけない。各部位の関節の特性を理解したうえで、病態把握をするための理学検査を修得する

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	10	2	理学所見の考え方	問診や理学検査の思考の手順を説明できる
2	4	17	2	足部の理学所見の取り方	足部の可動域検査と理学検査ができる
3	4	24	2	膝部の理学所見の取り方	膝部の可動域検査と理学検査ができる
4	5	8	2	膝部の理学所見の取り方	膝部の可動域検査と理学検査ができる
5	5	15	2	股関節の理学所見の取り方	股関節部の可動域検査と理学検査ができる
6	5	22	2	股関節の理学所見の取り方	股関節部の可動域検査と理学検査ができる
7	5	29	2	手肘の理学所見の取り方	手肘部の可動域検査と理学検査ができる
8	6	5	2	肩の理学所見の取り方	肩部の可動域検査と理学検査ができる
9	6	12	2	肩の理学所見の取り方	肩部の可動域検査と理学検査ができる
10	6	19	2	腰の理学所見の取り方	腰部の可動域検査と理学検査ができる
11	6	26	2	腰の理学所見の取り方	腰部の可動域検査と理学検査ができる
12	7	3	2	腰の理学所見の取り方	腰部の可動域検査と理学検査ができる
13	7	10	2	頸部の理学所見の取り方	頸部の可動域検査と理学検査ができる
14	7	17	2	頸部の理学所見の取り方	頸部の可動域検査と理学検査ができる
15	7	24	2	頸部の理学所見の取り方	頸部の可動域検査と理学検査ができる

評価基準		教科書	参考書
実技試験	100%	柔道整復学・理論編 改定第7版	
	%		
	%		
	%		

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

4限目 (14:20~15:50)

科目名	柔道整復実技応用8	学年	2年 15期生
担当者	古賀 智	期別	後期
単位数	1単位	講義・実習	実技
時間数・授業回数	30時間 15回	専任・兼任	兼任
実務経験	柔道整復師専科教員免許所有、接骨院開業		

一般目標 (GIO)

本科目は、柔道整復認定実技審査の対象となる各傷病の実技を修得するために
 その修得に必要な診察・整復・検査とその評価・固定等に関する知識や理論、包帯法を
 身につけ、柔道整復認定実技審査に求められる診察及び整復・検査の能力と固定の能力が修得できる。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	10	2	2	肩腱板損傷	肩腱板損傷の概念・診察・検査・評価などを説明できる。
2	10	9	2	肩腱板損傷	診察・検査・評価を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。
3	10	16	2	上腕二頭筋腱損傷	上腕二頭筋腱損傷の概念・診察・検査・評価などを説明できる。
4	10	23	2	上腕二頭筋腱損傷	診察・検査・評価を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。
5	10	30	2	第5指中手骨頸部骨折	中手骨骨折の概念・診察・整復・検査などを説明し、固定に必要な材料等を製作できる。
6	11	6	2	第5指中手骨頸部骨折	アルフェンスを使った、固定法を説明、修得できる。
7	11	13	2	第5指中手骨頸部骨折	診察・検査・固定を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。
8	11	20	2	下腿骨骨幹部骨折	下腿骨骨折の概念・診察・整復・検査などを説明し、固定に必要な材料等を製作できる。
9	11	27	2	下腿骨骨幹部骨折	クラーメルを使った、固定法を説明、修得できる。
10	12	4	2	下腿骨骨幹部骨折	診察・検査・固定を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。
11	12	11	2	肋骨骨折	肋骨骨折の概念・診察・整復・検査などを説明し、固定に必要な材料等を製作できる。
12	12	18	2	肋骨骨折	厚紙副子・さらしを使った、固定法を説明、修得できる。
13	12	25	2	肋骨骨折	診察・検査・固定を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。
14	1	8	2	各傷病のまとめ	診察及び整復・検査方法が説明できる。
15	1	15	2	各骨折のまとめ	診察及び整復・検査および固定方法が説明できる。

評価基準		教科書	参考書
実技試験	80%	柔道整復学・実技編 改訂第2版 南江堂	プロメテウス解剖学アトラス 第2版 医学書院
口述	10%	柔道整復学・理論編 改訂第5版 南江堂	整形外科理学診断ガイド 文光堂
平常点	10%		機能解剖学的触診技術 上肢 MEDICAL VIEW
	%		機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 MEDICAL VIEW

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

4限目 (14:20~15:50)

科目名	柔道整復実技応用9	学年	2年15期生
担当者	古賀 智	期別	後期
単位数	1単位	講義・実習	実技
時間数・授業回数	30時間 15回	専任・兼任	兼任
実務経験	柔道整復師専科教員免許所有、接骨院開業		

一般目標 (GIO)

本科目は、柔道整復認定実技審査の対象となる各傷病の実技を修得するために
 その修得に必要な診察・整復・検査とその評価・固定等に関する知識や理論、包帯法・テーピングを
 身につけ、柔道整復認定実技審査に求められる診察及び整復・検査の能力と固定の能力が修得できる。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	10	2	3	ハムSTRING損傷	ハムSTRING損傷の概念・診察・検査・評価などを説明できる。
2	10	9	3	ハムSTRING損傷	診察法・検査法・評価法を修得できる。
3	10	16	3	ハムSTRING損傷	診察・検査・評価を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。
4	10	23	3	大腿四頭筋打撲	大腿四頭筋打撲の概念・診察・検査・評価などを説明できる。
5	10	30	3	大腿四頭筋打撲	診察法・検査法・評価法を修得できる。
6	11	6	3	大腿四頭筋打撲	診察・検査・評価を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。
7	11	13	3	膝関節側副靭帯損傷	膝関節側副靭帯損傷の概念・診察・検査・評価などを説明できる。
8	11	20	3	膝関節側副靭帯損傷	診察法・検査法・評価法を修得できる。
9	11	27	3	膝関節側副靭帯損傷	診察・検査・評価を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。
10	12	4	3	膝関節十字靭帯損傷	膝関節十字靭帯損傷の概念・診察・検査・評価などを説明できる。
11	12	11	3	膝関節十字靭帯損傷	診察法・検査法・評価法を修得できる。
12	12	18	3	膝関節十字靭帯損傷	診察・検査・評価を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。
13	12	25	3	膝関節半月板損傷	膝関節半月板損傷の概念・診察・検査・評価などを説明できる。
14	1	8	3	膝関節半月板損傷	診察法・検査法・評価法を修得できる。
15	1	15	3	膝関節半月板損傷	診察・検査・評価を一連の手順で行えるよう身につける事ができる。

評価基準		教科書	参考書
実技試験	80%	柔道整復学・実技編 改訂第2版 南江堂	プロメテウス解剖学アトラス 第2版 医学書院
口述	10%	柔道整復学・理論編 改訂第5版 南江堂	整形外科理学診断ガイド 文光堂
平常点	10%		機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 MEDICAL VIEW
	%		

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

4限目 (14:20~15:50)

科目名	柔道整復実技応用10	学年	2年 15期生
担当者	南島孝信	期別	後期
単位数	1単位	講義・実習	実技
時間数・授業回数	30時間 15回	専任・兼任	兼任
実務経験	臨床経験を持つ教員が柔道整復実技応用10において臨床上、遭遇する可能性の高い足関節外側側副靭帯損傷、下腿三頭筋の肉離れの概要や特徴について、基本的な知識を修得するための講義を行う。		

一般目標 (GIO)

柔道整復術の理論に基づいた柔道整復術を的確に修得するために、本科目では、足関節部の機能と解剖を踏まえた上で、足関節外側側副靭帯損傷や下腿三頭筋の軟部組織損傷の発生機序、症状、合併症、後療法等を修得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	10	3	3	下腿三頭筋肉離れの病態	下腿三頭筋肉離れの病態の説明ができる
2	10	10	3	下腿三頭筋肉離れの理学検査	下腿三頭筋肉離れの理学検査ができる
3	10	17	3	下腿三頭筋肉離れの検査	下腿三頭筋肉離れの理学検査ができる
4	10	24	3	下腿三頭筋肉離れの検査	下腿三頭筋肉離れの理学検査ができる
5	10	31	3	下腿三頭筋肉離れの処置	下腿三頭筋の肉離れの処置ができる
6	11	7	3	下腿三頭筋肉離れの処置	下腿三頭筋の肉離れの処置ができる
7	11	14	3	下腿三頭筋肉離れのリハ	下腿三頭筋の肉離れの後療法ができる
8	11	21	3	足関節の触診	足関節の靭帯の触診ができる
9	12	5	3	足関節の病態	足関節外側側副靭帯損傷の病態が説明できる
10	12	12	3	足関節の検査方法	足関節の検査方法が説明できる
11	12	19	3	足関節の固定方法	足関節の固定方法が説明できる
12	12	26	3	足関節の固定方法	足関節の固定方法が説明できる
13	1	9	3	足関節の固定方法	足関節の固定方法が説明できる
14	1	16	3	足関節リハの方法	足関節の後療法が説明できる
15	1	23	3	復習	下腿三頭筋肉離れと足関節外側側副靭帯靭帯損傷の復習をし、知識を定着させる

評価基準		教科書	参考書
実技試験	100%	柔道整復学・理論編 改定第5版	
	%	柔道整復学・実技編 改定第2版	
	%		
	%		

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

4限目 (14:20~15:50)

科目名	柔道整復実技応用11			学年	2 年 15 期生
担当者	熊谷大輔			期別	後期
単位数	1 単 位			講義・実習	実技
時間数・授業回数	30時間 15回			専任・兼任	専任
実務経験	臨床経験を持つ教員が各損傷の症状などの注意すべき点を解説し、基本的な固定について実習形式で教授する。				
一般目標(GIO)					
アキレス腱断裂、足関節外側靭帯損傷、膝関節側副靭帯損傷の症状などを理解したうえで、基本的な固定を的確におこなうことができるようになることを目標とする。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	10	1	2	アキレス腱断裂概説	アキレス腱断裂の発生機序、症状を理解する。
2	10	8	2	アキレス腱断裂の固定	固定手順を理解する。
3	10	15	2	アキレス腱断裂の固定	指定した時間内に正しい固定手順が施工できるようになる。
4	10	22	2	足関節外側靭帯損傷概説	足関節外側靭帯損傷の発生機序、症状を理解する。
5	10	29	2	足関節外側靭帯損傷の固定	固定手順を理解する。
6	11	5	2	足関節外側靭帯損傷の固定	指定した時間内に正しい固定手順が施工できるようになる。
7	11	12	2	バスケットウィーブテープ	テーピングの走行を理解する。
8	11	19	2	バスケットウィーブテープ	指定した時間内に正しく施工できるようになる。
9	11	26	2	フィギュアエイト・ヒールロック	テーピングの走行を理解する。
10	12	3	2	フィギュアエイト・ヒールロック	指定した時間内に正しく施工できるようになる。
11	12	10	2	膝関節側副靭帯損傷概説	膝関節側副靭帯損傷の発生機序、症状を理解する。
12	12	17	2	Xサポートテープ	テーピングの走行を理解する。
13	12	24	2	Xサポートテープ	指定した時間内に正しく施工できるようになる。
14	1	14	2	固定の総復習	固定手順を再確認し、時間内に施工できるようになる。
15	1	21	2	固定の総復習	固定手順を再確認し、時間内に施工できるようになる。
評価基準			教科書		参考書
期末試験	100%	柔道整復学・理論編 改訂第7版			
	%	柔道整復学・実技編 改訂第2版			
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	柔道整復実技応用12	学年	3 年 14 期生
担当者	徳安琢磨	期別	前期
単位数	1 単位	講義・実習	実技
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	専任

実務経験 臨床経験を持つ教員が臨床柔道整復学13において柔道整復術の基本となるものを教科書を使いながら解説する。

一般目標 (GIO)

本科目は、臨床上、症状把握に必要な診察法・テスト法を学び、実技を通して的確な方法を修得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	8	2	鎖骨骨折	リング帯・8字帯・セイヤーテープ固定の方法を理解する。
2	4	15	2	上腕骨骨幹部骨折	ミッドドルフ三角副子固定の方法を理解する。
3	4	22	2	コーレス骨折	クラーメル副子と局所副子固定の方法を理解する。
4	5	13	2	第5中手骨頸部骨折	アルミ副子掌側固定の方法を理解する。
5	5	20	2	下腿骨骨幹部骨折	クラーメル副子固定の方法を理解する。
6	5	27	2	肋骨骨折	さらしと厚紙副子固定の方法を理解する。
7	6	3	2	肩鎖関節上方脱臼	ワトソンジョーンズテープ固定の方法を理解する。
8	6	10	2	肩関節前方脱臼	局所副子・三角巾固定の方法を理解する。
9	6	17	2	肘関節後方脱臼	クラーメル副子・三角巾固定の方法を理解する。
10	6	24	2	手第2指PIP背側脱臼	アルミ副子背側固定の方法を理解する。
11	7	1	2	アキレス腱断裂	クラーメル副子固定の方法を理解する。
12	7	8	2	足関節外側副帯損傷	局所副子固定の方法を理解する。
13	7	22	2	膝関節内側副帯損傷	Xサポートテープ固定の方法を理解する。
14	7	29	2	足関節外側副帯損傷	バスケットウィーブテープ固定の方法を理解する。
15	8	5	2	足関節外側副帯損傷	フィギュアエイト・ヒールロックテープ固定の方法を理解する。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	柔道整復学・理論編 改訂第7版	
	%	柔道整復学・実技編 改訂第2版	
	%		
	%		

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

4限目 (14:20~15:50)

科目名	柔道整復実技応用13	学年	3年 13期生
担当者	古賀 智	期別	前期
単位数	1単位	講義・実習	実技
時間数・授業回数	30時間 15回	専任・兼任	兼任
実務経験	臨床経験を持つ教員が柔道整復実技応用13において臨床上起こりうる事象と照合しそれに対して認定実技審査対応の実技応用を行う。		

一般目標 (GIO)

本科目は、認定実技審査に備えるため、知識、認識を深めることを目的とする。

その中でも下肢の体表解剖・検査法の理解と正しい実施方法を身につける。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	10	3	柔整実技応用9項の復習	大腿部損傷の症状・所見の説明が出来る。
2	4	17	3	柔整実技応用9項の復習	大腿部損傷の検査法・実施の説明が出来る。
3	4	24	3	柔整実技応用9項の復習	膝関節損傷の症状・所見の説明が出来る。
4	5	8	3	柔整実技応用9項の復習	膝関節損傷の検査法・実施の説明が出来る。
5	5	15	3	柔整実技応用9項の総復習	1～4回の内容を復習・実施し学生同士で指摘する。
6	5	22	3	柔整実技応用10項の復習	下腿三頭筋・足関節損傷の症状・所見の説明が出来る。
7	5	29	3	柔整実技応用9・10項の総復習	1～6回の内容を復習・実施し学生同士で評価する。
8	6	5	3	認定審査項目の復習	上肢・上肢帯の損傷を症例別に説明できる。
9	6	12	3	認定審査項目の復習	上肢・上肢帯損傷を認定実技審査の手順で実施できる。
10	6	19	3	認定審査項目の復習	反復練習で出てくる間違いを学生同士で指摘する。
11	6	26	3	8～10項の復習	グループ作成し学生同士で評価する。
12	7	9	3	認定審査項目の復習	体幹・下肢の損傷を症例別に説明できる。
13	7	10	3	認定審査項目の復習	体幹・下肢損傷を認定実技審査の手順で実施できる。
14	7	17	3	認定審査項目の復習	反復練習で出てくる間違いを学生同士で指摘する。
15	7	24	3	1～14回までの総復習	グループ作成し学生同士で評価する。

評価基準		教科書	参考書
期末テスト	80%	柔道整復学・実技編	
実習態度	20%		
	%		
	%		

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:40～14:10)

4限目 (14:20～15:50)

科目名	柔道整復実技応用14	学年	3 年 14 期生
担当者	徳安琢磨	期別	後期
単位数	1 単位	講義・実習	実技
時間数・授業回数	30時間 15回	専任・兼任	専任
実務経験	接骨院・機能訓練業務6年・専任教員6年		

一般目標(GIO)

本科目は、認定実技審査対応の為、共通認識と技術の向上を目的とする。

また、その中でも上肢の骨折・脱臼の理解とそれに応じた正しい整復法を身につける。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	9	25	1	鎖骨骨折①	左記の症状・所見を説明出来る。
2	10	2	1	鎖骨骨折②	左記の整復操作を説明出来る。また実施出来る。
3	10	9	1	上腕骨外科頸移転型骨折①	左記の骨折の症状・所見の説明が出来る。
4	10	16	1	上腕骨外科頸移転型骨折②	左記の骨折の整復操作を説明出来る。また実施出来る。
5	10	23	1	コーレス骨折①	左記の骨折の症状・所見の説明が出来る。
6	10	30	1	コーレス骨折②	左記の骨折の整復操作を説明出来る。また実施出来る。
7	11	6	1	肩鎖関節上方脱臼①	左記の脱臼の症状・所見の説明が出来る。
8	11	13	1	肩鎖関節上方脱臼②	左記の脱臼の整復操作を説明出来る。また実施出来る。
9	11	20	1	肩関節前方烏口下脱臼①	左記の脱臼の症状・所見の説明が出来る。
10	11	27	1	肩関節前方烏口下脱臼②	左記の脱臼の整復操作を説明出来る。また実施出来る。
11	12	4	1	肘関節後方脱臼①	左記の脱臼の症状・所見の説明が出来る。
12	12	11	1	肘関節後方脱臼②	左記の脱臼の整復操作を説明出来る。また実施出来る。
13	12	18	1	肘内障①	肘内障の症状・所見の説明が出来る。
14	12	25	1	肘内障②	肘内障の整復操作を説明出来る。また実施出来る。
15	1	8	1	1～14回の総復習	全項目を復習し学生同士で評価する。
評価基準			教科書		参考書
期末テスト	100%	柔道整復学・理論編第6版 柔道整復学・実技編第2版		認定実技審査用レジュメ	
	%				
	%				

1限目(9:00～10:30)

2限目(10:40～12:10)

3限目(12:40～14:10)

科目名	柔道整復実技応用15	学年	3 年 14 期生
担当者	南島孝信	期別	後期
単位数	1 単位	講義・実習	実習
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任
実務経験	接骨院を開業している教員が外科・整形外科領域において臨床上起こりうる事象と照合し現状や課題について解説する。		

一般目標 (GIO)

柔道整復実技応用15において臨床上、遭遇する可能性のある整形外科領域および外科領域の外傷や疾患に対する、症状把握に必要な診察法・テスト法・鑑別ポイントを知り、理解した上で実技を行い安全かつ的確な方法を習得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	9	25	2	整形外科診察法	姿勢異常や跛行などについて整形外科的な診察法について説明できる。
2	10	2	2	整形外科検査法	X線やMRIなどについて整形外科の各種画像検査について説明できる。
3	10	9	2	骨・関節損傷総論	各部位の骨折や脱臼などについて整形外科的な捉え方について説明できる。
4	10	16	2	スポーツ整形外科総論	スポーツ分野における特徴的な損傷について、整形外科的な対応を説明できる。
5	10	23	2	疾患別各論①	骨および軟部組織腫瘍について、整形外科的な診察法や治療法などについて説明できる。
6	10	30	2	疾患別各論②	骨および軟部組織腫瘍について整形外科的な診察法や治療法などについて説明できる。
7	11	6	2	疾患別各論③	全身性の骨・軟部疾患について、整形外科的な診察法や治療法などについて説明できる。
8	11	13	2	身体部位別各論	身体各部位ごとの損傷や疾患について、整形外科的な診察法や治療法などについて説明できる。
9	11	20	2	損傷	損傷の分類や特徴などについて外科的な診察法・処置などについて説明できる。
10	11	27	2	炎症と外科感染症	炎症の定義や特徴などについて外科的な診察法・処置などについて説明できる。
11	12	4	2	腫瘍	腫瘍の分類や特徴などについて外科的な診察法・処置などについて説明できる。
12	12	11	2	ショック	ショックの分類や特徴などについて外科的な診察法・処置などについて説明できる。
13	12	18	2	消毒と滅菌	消毒の分類や特徴などについて外科的な処置などについて説明できる。
14	12	25	2	移植と免疫	移植の分類や特徴などについて外科的な診察法・処置などについて説明できる。
15	1	8	2	組織別各論	各組織における損傷や疾患の特徴などについて外科的な診察法・処置などについて説明できる。

評価基準		教科書	参考書
期末試験	100%	柔道整復学・実技編	プロメテウス解剖学
	%	柔道整復学・理論編	標準整形外科
	%	整形外科学	
	%	外科学概論	

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

4限目 (14:20~15:50)

科目名	柔道整復実技応用16		学年	3年 14期生	
担当者	南島孝信		期別	後期	
単位数	1単位		講義・実習	実技	
時間数・授業回数	30時間 15回		専任・兼任	専任	
実務経験	接骨院・機能訓練業務6年・専任教員6年				
一般目標(GIO)					
本科目は柔道整復師になるために必要な固定法を習得する					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	9	25	1	鎖骨骨折の固定法	リング・8字帯・セイヤーテープ固定が理解できる
2	10	2	1	上腕骨骨幹部骨折の固定法	ミッドドルフ三角副子固定が理解できる
3	10	9	1	コーレス骨折の固定法	クラーメル・局所副子・三角巾固定が理解できる
4	10	16	1	第5中手骨頸部骨折の固定法	アルミ副子掌側固定が理解できる
5	10	23	1	下腿骨骨幹部骨折の固定法	クラーメル副子固定が理解できる
6	10	30	1	肋骨骨折の固定法	さらし・厚紙副子固定が理解できる
7	11	6	1	肩鎖関節上方脱臼の固定法	テープ固定が理解できる
8	11	13	1	肩関節前方脱臼の固定法	局所副子・三角巾固定が理解できる
9	11	20	1	肘関節後方脱臼の固定法	クラーメル副子・三角巾固定が理解できる
10	11	27	1	手第2指PIP関節背側脱臼の固定法	アルミ副子背側固定が理解できる
11	12	4	1	アキレス腱断裂の固定法	クラーメル副子固定が理解できる
12	12	11	1	足関節外側靭帯損傷の固定法	局所副子固定が理解できる
13	12	18	1	膝関節内側側副靭帯損傷の固定法	Xサポート固定が理解できる
14	12	25	1	足関節外側靭帯損傷の固定法	バスケットウィーブ固定が理解できる
15	1	8	1	足関節外側靭帯損傷の固定法	フィギュアエイト・ヒールロックを理解できる
評価基準			教科書		参考書
期末試験	100%		南江堂 柔道整復学 実技編		
	%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

科目名	柔道整復実技応用17	学年	3 年 14 期生
担当者	南島孝信	期別	後期
単位数	1 単位	講義・実習	実技
時間数・授業回数	30時間 15回	専任・兼任	兼任
実務経験			

一般目標 (GIO)

本科目は、認定実技審査対応の為、共通認識と技術の向上と時間配分の上達を目的とする。
また、その中でも効率的な整復操作・検査法・固定法の手順を身につける。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	9	26	3	認定実技審査会場の想定①	試験官に対しての礼儀を説明出来る。
2	10	3	3	認定実技審査会場の想定②	入退室マナーを学生同士で指摘する。
3	10	10	3	認定実技審査会場の想定③	ベッドに対しての適切な立ち回りが説明出来る。
4	10	17	3	患者誘導①	疾患に応じた患者への配慮が説明出来る。
5	10	24	3	患者誘導②	疾患に応じた患肢のポジショニングが説明出来る。
6	10	31	3	患者誘導③	助手を用いた体位変換が説明出来る。また実施出来る。
7	11	7	3	検査手順①	疾患に応じた検査を手際よく行う。また学生同士で指摘する。
8	11	14	3	検査手順②	検査項目を反復練習し学生同士で指摘する。
9	11	21	3	検査手順③	効率的な検査手順を説明出来る。
10	11	28	3	固定法①	疾患に応じた固定法を手際よく行う。また学生同士で指摘する。
11	12	5	3	固定法②	効率的な固定手順を説明出来る。
12	12	12	3	整復操作①	疾患に応じた整復操作を手際よく、かつ丁寧に学生同士で指摘する。
13	12	19	3	整復操作②	効率的な整復操作を説明出来る。
14	12	26	3	第1～7回の総復習	無駄のない立ち回りが実施出来る。
15	1	9	3	第7～14回の総復習	的確な検査・固定・整復が実施出来る。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	柔道整復学・理論編	認定実技審査用のレジュメ
	%	柔道整復学・実技編	
	%		
	%		

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:40～14:10)

4限目 (14:20～15:50)

令和6年度 九州医療専門学校 柔道整復師科

科目名	高齢者の外傷予防	学年	2 年 15 期生
担当者	星野 英二	期 別	前期
単 位 数	1 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	15時間 8回	専任・兼任	兼任
実務経験			

一般目標 (GIO)

高齢者にみられる疾患や外傷を理解し、介護予防も含めた機能訓練指導法を習得する。
 第8回授業では、機能訓練で提供する運動(ストレッチング・筋力向上運動等)を座学で学んだ知識を関連付けてペアワ
 行い、高齢者の外傷および介護予防が実践できるようになる。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	5	30	4	柔道整復師と介護保険	介護保険制度における柔道整復師の役割を理解する。
2	6	6	4	人間の成長と発達の基礎的理解	老年期の発達と成熟とはなにかを理解する。
3	6	13	4	老化に伴う心身の変化と日常生活	老化における形態的变化および機能的変化を理解する
4	6	20	4	エイジング理論	老化とはなにか、老化の心理的影響について理解する。
5	6	27	4	高齢者の疾患	高齢者にみられる疾患(骨粗鬆症等)について理解する
6	7	4	4	認知症の理解	認知症とはなにか、三大認知症について理解する。
7	7	11	4	ロコモティブシンドローム	ロコモティブシンドローム、運動器不安症について理解する
8	7	18	4	機能訓練で提供する運動と要点	姿勢バランス評価および運動など実際に行い理解する。
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	柔道整復師と機能訓練指導(機能訓練指導員養成テキスト)	健康運動実践指導者養成用テキスト (公益財団法人健康・体力づくり事業)
	%		
	%		
	%		

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	競技者の外傷予防	学年	3 年 14 期生
担当者	星野 英二	期 別	後期
単 位 数	1 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	15時間 15回	専任・兼任	兼任
実務経験			

一般目標 (GIO)

競技者特有の外傷・傷害に対し、治療・施術を行うだけでなく、運動生理学の観点から効果的な予防対策を実践していくことができる知識・技術を獲得することを目的とする。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	9	26	1	運動生理学 I	運動のメリット・デメリット, エネルギー代謝について説明できる.
2	10	3	1	運動生理学 II	運動と骨・筋肉および呼吸・循環との関係を理解できる.
3	10	10	1	運動生理学 III	運動とホルモンの関係, 競技者の特徴を理解できる.
4	10	17	1	競技者の外傷予防 I	外傷予防の概要を理解できる.
5	10	24	1	競技者の外傷予防 II	外傷予防の発生要因を理解し, 予防策を考えられる.
6	10	31	1	メディカルチェック	関節弛緩性, 筋のタイトネスなどを測定することができる.
7	11	7	1	コンディショニング	外傷予防に必要なコンディショニングの方法を理解できる.
8	11	14	1	確認筆記試験	筆記テストを行うことで知識を深く理解できる.
9	11	21	1	肩関節の外傷予防	肩関節外傷のメカニズムを理解し, 予防トレーニングを実践できる.
10	11	28	1	体幹の外傷予防	体幹の外傷メカニズムを理解し, 予防トレーニングを実践できる.
11	12	5	1	膝関節の外傷予防	肩関節外傷のメカニズムを理解し, 予防トレーニングを実践できる.
12	12	12	1	足関節の外傷予防	足関節外傷のメカニズムを理解し, 予防トレーニングを実践できる.
13	12	19	1	成長期の外傷予防	成長期の外傷メカニズムを理解し, 予防トレーニングを実践できる.
14	12	26	1	高齢者の外傷予防	高齢者の外傷メカニズムを理解し, 予防トレーニングを実践できる.
15	1	9	1	第1~14回の総復習	1~14回の内容をまとめより深く理解できる.

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	競技者の外傷予防 生理学(改訂第4版)	
	%		
	%		
	%		

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

4限目 (14:20~15:50)

科目名	臨床実習1	学年	2年15期生
担当者	樋口大夢	期別	前期
単位数	1単位	講義・実習	実習
時間数・授業回数	45時間 8回	専任・兼任	専任

実務経験

臨床経験を持つ教員・指導者が実際に境遇する臨床現場での対応方法の実習を行う。

一般目標 (GIO)

過去の学習より臨床現場で出くわすそれぞれのシーンに対応した能力を修得している為
臨床実習1においては、1単位を超えない範囲で実際の現場で対応能力の再確認と応用力を身に付ける。

回数	月	日	時間数	項目	行動目標 (SBOs)
1	9	2	3	実習生について	附属接骨院で清潔・端正(身だしなみ)を身に付ける。
2	9	3	6	態度	指導者・利用者との信頼関係の構築を身に付ける。
3	9	4	6	付帯業務	清潔保持・衛生管理を進んで行うことができる。
4	9	5	6	リスクマネジメント	医療事故・過誤に対して危機管理ができる。
5	9	6	6	社会保障・地域包括ケア	社会保障・地域包括ケアシステムについて説明できる。
6	9	9	6	介助	利用者を愛護的に扱い誘導できる。
7	9	10	6	施術録	指導者が記載した記録を理解し説明できる。
8	9	11	6	指導管理	施設利用上の注意事項を利用者に説明できる。
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

評価基準

教科書

参考書

実習者評価	100%		オリエンテーション時の資料 実習前学習の資料
	%		
	%		
	%		

科目名	臨床実習2	学年	3 年 14 期生
担当者	樋口大夢	期別	前期
単位数	1 単位	講義・実習	実習
時間数・授業回数	45時間 7回	専任・兼任	専任
実務経験	臨床経験を持つ教員・指導者が実際に境遇する臨床現場での対応方法の実習を行う。		

一般目標 (GIO)

過去の学習より臨床現場で出くわすそれぞれのシーンに対応した能力を修得している為
臨床実習2においては、学校附属接骨院で模擬患者を設け施術者としての臨床能力を身に付ける。

回数	月	日	時間数	項目	行動目標 (SBOs)
1	9	2	6	態度	清潔・端正(身だしなみ)と適切な挨拶を身に付ける。
2	9	3	6	付帯業務	受付で、予診表の記入方法を説明できる。
3	9	4	6	診察①	問診を系統立てて行う事ができる。
4	9	5	6	社会保障	保険請求について説明できる。
5	9	6	6	鑑別技術	業務範囲の説明、適応の判断ができる。
6	9	9	6	物理療法	症状に応じた物理療法を選択することができる。
7	9	10	6	施術の介助・施術録	利用者を誘導できる。施術録の説明ができる。
8	9	11	6	固定	固定能力が固定の目的を果たすことができる。
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

評価基準		教科書	参考書
実習者評価	100%		オリエンテーション時の資料
	%		実習前学習の資料
	%		
	%		

科目名	臨床実習3	学年	3 年 14 期生
担当者	樋口大夢	期別	後期
単位数	1 単位	講義・実習	実習
時間数・授業回数	45時間 7回	専任・兼任	専任
実務経験	臨床経験を持つ教員・指導者が実際に境遇する臨床現場での対応方法の実習を行う。		

一般目標 (GIO)

過去の学習より臨床現場で出くわすそれぞれのシーンに対応した能力を修得している為
臨床実習3においては、外部整骨院・接骨院で施術者としての臨床能力を身に付ける。

回数	月	日	時間数	項目	行動目標 (SBOs)
1	9	12	7	態度・付帯業務①	患者に不快を与えず衛生管理することができる。
2	9	13	7	態度・付帯業務②	施設で指定された消毒方法を説明できる。
3	9	30	7	態度・付帯業務③	コロナ感染対策をとった振る舞いができる。
4	10	7	7	物理療法	施設にある物療機器の分類の説明ができる。
5	10	21	7	診察・物理療法①	施設にある物療機器の効果の説明ができる。
6	10	28	7	診察・物理療法②	症状の聞き取りから症状を把握し物理療法選択ができる。
7	11	11	7	施術録の記載①	各項目を説明できる。
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

評価基準		教科書	参考書
実習者評価	100%		オリエンテーション時の資料 実習前学習の資料
	%		
	%		
	%		

科目名	臨床実習4	学年	3 年 14 期生
担当者	樋口大夢	期別	後期
単位数	1 単位	講義・実習	実習
時間数・授業回数	45時間 7回	専任・兼任	専任
実務経験	臨床経験を持つ教員・指導者が実際に境遇する臨床現場での対応方法の実習を行う。		

一般目標 (GIO)

過去の学習より臨床現場で出くわすそれぞれのシーンに対応した能力を修得している為
臨床実習4においては、外部整骨院・接骨院で施術者としての臨床能力を身に付ける。

回数	月	日	時間数	項目	行動目標 (SBOs)
1	11	18	7	施術録の記載②	患者を想定し施術録が作成できる。
2	11	25	7	施術の介助①	患者誘導、徒手検査などの補助ができる。
3	12	2	7	施術の介助②	外傷を想定し固定準備ができる。
4	12	9	7	レセプトについて	各項目を説明し作成できる。
5	12	16	7	施術所独自の治療法	治療法の説明を聞き理解することができる。。
6	12	23	7	固定①	固定能力が固定の目的を果たすことができる。
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価基準			教科書		参考書
実習者評価	100%				オリエンテーション時の資料 実習前学習の資料
	%				
	%				
	%				